

「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」
～雪・山・川がおりなす食文化と共に～



令和7年7月

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

日本建築士会連合会 女性委員会 ホームページのご案内

日本建築士会連合会女性委員会の活動や
全国女性建築士連絡協議会の動画、魅力
ある和の空間ガイドブックWEB版などを
掲載しています。ぜひご覧ください。

The screenshot displays the official website of the Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations (JFA). The top banner includes the organization's name in both English and Japanese, along with contact information. The main navigation menu on the left lists various sections such as 'For Architects', 'For Women', 'For Young Architects', and 'For International Architects'. The central content area is titled '女性委員会' (Women's Committee) and features a prominent link to '女性委員会委員長挨拶' (Message from the Women's Committee Chairman). Below this, there are links to the '魅力ある和の空間ガイドブック WEB版' (Atmosphere of Harmony Guidebook WEB Edition) and the '建築士会女性委員会活動のポスターセッション' (Poster Session of Women's Committee Activities). A sidebar on the right provides additional resources, including a list of '全国女性建築士連絡協議会' (National Women's Building Engineers Association) activities and a section for '令和6年度 第33回 全国女性建築士連絡協議会 (東京)' (33rd National Women's Building Engineers Association Meeting, Tokyo, Reiwa 6).



目次

1 ごあいさつ

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 石貫 方子	2
公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 古谷 誠章	3
公益社団法人 日本建築士会連合会 副会長 上原 伸一	4
山形県 知事 吉村美栄子	5
一般社団法人 山形県建築士会 会長 伊藤 彰	6

2 令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会プログラム 7

3 会場案内図・オンライン配信案内 9

4 基調講演 14

「木造建築の可能性」

講師 瀬野 和広（せのかずひろ）氏（瀬野和広＋設計アトリエ一級建築士事務所）

講師 鍋野 友哉（なべのともや）氏（鍋野友哉アトリエ/TMYA主宰）

5 被災地報告・活動報告 24

「山形県北部豪雨災害 被災地からの報告」 山形県建築士会 酒田支部

「令和6年 1月能登半島地震・令和6年9月能登半島豪雨 被災地報告」
石川県建築士会 山田 文恵

「幻(仮)の『第1回 福島県建築士のつどい』をやってみた。」 福島県建築士会 阿部 治江

「阪神淡路大震災から30年」 兵庫県建築士会 山本 和代

6 分科会 40

A分科会 自分ごととして「避難所運営」を考える。

～避難所運営ゲーム（HUG）実施を通じて 41

B分科会 古民家復権作戦 46

C分科会 ちびっこ『ちょこっとプランニング』 49

D分科会 「介護保険制度における住宅改修の適正化に関する業務」について 54

E分科会 建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える

／林業木材産業との協働の中で 60

F分科会 建築士としての「防災」を今、考える 67

G分科会 伝統と未来をつなぐ古民家再生 73

7 エクスカーション 82

8 都道府県建築士会女性委員会（部会）活動報告・アンケート集計 84

9 第68回全国大会「おおさか大会」参加のご案内 100

10 協賛団体・企業 106

1 ごあいさつ

令和7年度

第34回全国女性建築士連絡協議会（やまがた）開催にあたって

公益社団法人日本建築士会連合会
女性委員長 石貫 方子



令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会山形大会の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。
また、日頃より公益社団法人日本建築士会連合会女性委員会の活動に、ご支援ご指導を賜り心より御礼申し上げます。山形県建築士会の皆様にはご尽力賜り心より感謝申し上げます。

今年度のテーマは「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」 ～雪・山・川がおりなす食文化と共に～です。日本は森林が国土の約3分の2を占める世界第三位の森林大国で、森林は生物多様性の保全や土砂災害の防止、木材の供給、美しい自然景観の形成、水源のかん養、保健休養の場の提供、地球温暖化の防止など、多面的な機能をもつ一方で、戦後植林された人工林が利用期を迎えており、豊富な森林資源を循環利用することが喫緊の課題となっています。そこで今回の基調講演では、瀬野和弘氏、鍋野友哉氏に「木造建築の可能性」についてお話しいただきます。

被災地報告・活動報告では、山形県より「令和6年山形県豪雨災害」、石川県より「令和6年能登半島地震」、平成23年の東日本大震災の14年後の福島県より「幻の『第1回建築士の集い』をやってみた」、平成7年の阪神淡路大震災より30年後の兵庫県より「阪神淡路大震災から30年」についてご報告していただきます。

分科会では7つのテーマ、“自分ごととして「避難所運営」を考える。～避難所運営ゲーム(HUG)実施を通じて”、“古民家復権作戦”、“ちびっこ『ちょこっとプランニング』”、“「介護保険制度における住宅改修の適正化に関する業務」について”、“建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える／林業木材産業との協働の中で”、“建築士としての「防災」を今、考える”、“伝統と未来をつなぐ古民家再生”、について活動報告と意見交換を行います。

今年は2018年の高知大会以来、7年ぶりに飲食をしながらの大懇親会を行います。コロナ禍を経て久しぶりに直接お会いして思う存分お話しができる幸福をかみしめたいと思います。

令和7年度

第34回全国女性建築士連絡協議会（やまがた）開催にあたって



公益社団法人日本建築士会連合会
会長 古谷 誠章

こんにちは。昨年より日本建築士会連合会の会長を拝命しております古谷誠章です。開催にあたり主催者を代表してご挨拶申し上げます。

本日は全国女性建築士連絡協議会（やまがた大会）を無事に開催する運びとなりました。誠にありがとうございます。ご参加いただいた皆さま、事前の準備に関わられたすべての会員諸姉に感謝いたします。

今年は、「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦 ～雪・山・川がおりなす食文化と共に～」をテーマのもと、全国から会員が山形に集い、土地の風土に根差して、木の文化の未来を考える素晴らしい試みだと思っています。わが国の建築の将来像を考えると、木の文化と地域を考えるととても時宜を得たテーマであるばかりでなく、風土が生み出す食文化も共に考えようとするところに、私は大いに期待を寄せています。「木造建築の可能性」と題する基調講演にも、伝統的なものばかりでなく、木を生かしたこれからの建築を構想する姿勢を感じますし、協議会において併せて報告が予定されている被災地での活動報告からも、おそらく今後に生かされるべき木の文化や木造建築、さらには風土に関する議論を喚起する、さまざまな知見が伺えるものと考えています。

東北地方は言うまでもなく木材資源の豊富な地域であり、また今回の開催地となる山形は名だたる食材の宝庫でもあります。私は常々、その土地の「風土」を知るには、その土地の「フード」を食するのが最も本質的な方法であると確信しています。ダジャレのように聞こえるかもしれませんが、これはかなり核心をついていると思っています。その土地の食の恵みを育むのは、文字通りその土地の気候風土であり、土壌であり、その土地に代々受け継がれてきた伝統文化にほかならないのです。実はその気候風土が育むものは食材だけでなく、山林も同様であり、そこに産出される木材資源もまったく、同じ風土とその土地の世代を超えた人々の長い営みが生み出すものです。

先ほど食を通じて風土を知ると書きましたが、その風土を社会に置き換えることもできます。資源の循環や、それを持続させる人々の営為は、それを取り巻く社会の状態に関わっていると思います。テーマに掲げられた「みらいへつなぐ木への挑戦」は、その営みに常に若い世代が参画し、老若男女が共に次世代へ継承する文化の担い手となることに挑もうとすることだ考えます。

この協議会を通して、皆さんと共にそのような問題について深く考えることを、大いに楽しみにしています。実り多い成果の上がることを祈ります。

令和7年度

第34回全国女性建築士連絡協議会（やまがた）開催あいさつ

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会担当副会長
一般社団法人 神奈川県建築士会 会長
上原 伸一



令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会（やまがた大会）の開催、おめでとうございます。昨年は、日本建築士会連合会副会長として女性委員会担当となり、初めてのイベントが東京で開催の全建女大会でしたが、今年度は隔年の各地開催が山形で開催される大会ということで、大会イベントと共にこの地での歴史、文化、環境、まちづくりなどに触れられることを楽しみにしています。

県土の約7割を占める森林は、日本一の面積を誇るブナ林など美しい景観を構成し、自然災害を防ぎ、多様な生態系を保全し、豊かな林産物を育んできました。また、「やまがた森林（モリ）ノミクス宣言」は、森林に囲まれた里地、里山地域には、豊かな自然に育まれた「食」、「景観」、「文化」、「森林」、「農地」など、先人から受け継いだ地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として、「緑の循環システム」を構築し、オール山形で林業の振興を図り、地域の活性化に取り組んでいくことです。

とあり、今大会は、『山形から発信 みらいへつなぐ木の挑戦』 ～雪・山・川がおりなす食文化と共に～ をテーマとして、県産木材の需要拡大に努め、未来の子どもたちにより良い環境をつなぐために、地域と共に森と木と向き合い挑戦していきましょう！と、プログラムの1日目は被災地報告「山形県北部豪雨災害」など、基調講演は「木造建築の可能性」、そして夜の大懇親会、2日目は、午前中の7分科会と全体会で閉会となりますが、その後のエキスカージョンも楽しみにしています。

昨年、山形に行く機会があり、金山町を訪れ木材の活用と景観に接し、出羽神社では信仰を仰ぎ、最上川の氾濫の復旧を願い、そば街道で食を楽しみ、肘折温泉で癒す、という山形の魅力を充分堪能、今大会のテーマを身を持って体験してきました。

今回は改めて地域の特色を活かしたプログラム、食文化を楽しみにしていますが、地域の特色を活かした活動、発信、挑戦を未来に繋げることで、今後の皆様の活動が更なる発展に繋がることを祈念して、大会開催に際しての挨拶とさせていただきます。

開催によせて



山形県知事
吉村 美栄子



「第34回全国女性建築士連絡協議会（やまがた大会）」の開催、誠におめでとうございます。

山形県では、令和2年8月に「ゼロカーボンやまがた2050」を宣言し、2050年までにCO₂排出の実質ゼロを目指しています。この実現に向けては、CO₂排出量が多い建築物の分野における取組みが必要不可欠であることから、排出量削減に効果のある木材利用の促進や、省エネ効果の高い高气密高断熱のやまがた省エネ健康住宅（愛称「やまぼっかの家」）の認定・新築支援など、様々な施策に取り組んでいます。

脱炭素化を進め、持続可能な社会を構築していくために、建築物の計画、設計などに携わる建築士の方の役割は、大変重要なものであると考えております。この建築士という技術的な分野で、皆さんが女性ならではの感性を生かし、活躍されることを期待しています。

山形県は、山の幸、里の幸、海の幸に恵まれた「食彩王国」です。特に今年は、本県でさくらんぼなどの栽培が始まってから節目となる「やまがたフルーツ150周年」の記念の年でもあります。本日御来場の皆様には、この機会にぜひ山形県の風景と美味しい食を堪能していただければ幸いです。

令和7年7月19日

やまがたフルーツ
150周年記念ポータルサイト
はコチラ



歓迎のことば

一般社団法人山形県建築士会
会長 伊藤 彰



令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会「やまがた大会」を開催するにあたり、歓迎のことばを申し上げます。

全国的女性建築士の皆様、遠路はるばる東北出羽の国、山形までようこそおこし下さいました。山形県建築士会会員一同、こころから歓迎いたします。

また、ご多用にもかかわらず日本建築士会連合会の古谷会長様にも足を運んで戴き厚く御礼申し上げます。

ここ「やまがた」を紹介するにあたり二人のことばを使わせて戴きます。一人は、イギリスの女性冒険家イザベラバード（1878(明治11)年来日・邦訳本「日本奥地紀行」1973年出版）です。山形県内を訪れた際のイザベラバードは「東洋のアルカディア（楽園理想郷）」と記述し、イザベラバードを顕彰する碑が、バードが立ち寄った山形市立済生館病院の正門前親水空間広場に有ります。来県当時にバードが実際に見た「旧済生館本館三層楼」は霞城公園内に移築され、現在も重要文化財の郷土館として保存活用されております。

もう一人は、エドウィン・O・ライシャワー駐日大使（1961～66（昭和36～41）年）です。ライシャワーは山形を訪れた際、昭和の山形を「山の向こうのもうひとつの日本」と述べております。日本の歴史を残す京都や奈良のようなところとまた違う日本の良さは地方に、山形にありと述べて下さったと私は思っております。寄稿文碑が「山寺立石寺」の川を挟んだ対岸の小高い丘「風雅の国芭蕉記念館」前庭に有ります。時間がありましたら是非お立ち寄り下さい。

二人の見つめた「やまがた」の光景と事象は先人が創り出した貴重な財産、まさしく「山河さやけく 四季奏でる」自然と人間が健全なバランスを取っている地域です。このような地で、山形らしい美味しい食べものやお酒をいただきながら、歴史・伝統・文化に触れて戴き、大会のテーマである「みらいにつなぐ木への挑戦」を語り合っていいただければ幸いです。

結びに、この大会が良き思い出となり多くの出会いが生まれ、交流を通し建築士会活動の活性化にも繋がり、地域社会において次世代に橋渡しとなる様願っておりますとともに、全国からご参集いただいた皆様に改めて御礼申し上げ、歓迎の挨拶とさせて戴きます。

2 令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会プログラム

「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」 ～雪・山・川がおりなす食文化と共に～

令和7年7月19日（土）

全国女性委員長（部会長）会議

12:00～13:30 於：山形テルサ 大会議室 / ZOOM

令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会（やまがた）

[受付] 13:00～13:45（45分） 於：山形テルサ テルサホールホワイエ

[開会式] 13:45～14:15（30分） 於：山形テルサ テルサホール / ZOOM

総合司会 小林 淑子

- ・開会の辞
- ・主催挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 古谷 誠章
- ・開催県挨拶 一般社団法人 山形県建築士会 会長 伊藤 彰
- ・委員長挨拶、運営説明 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 石貫 方子

[被災地報告・活動報告] 14:15～15:15（60分）

- ・「山形県北部豪雨 被災地からの報告」 山形県建築士会 酒田支部
- ・「令和6年 1月能登半島地震・令和6年9月能登半島豪雨 被災地報告」 石川県建築士会 山田 文恵
- ・「幻(仮)の『第1回 福島県建築士のつどい』をやってみた。」 福島県建築士会 阿部 治江
- ・「阪神淡路大震災から30年」 兵庫県建築士会 山本 和代

= 休憩15:15～15:30 =

[基調講演] 15:30～17:00（90分）

司会 大泉みどり

- ・「木造建築の可能性」
- 講師 瀬野 和広（せのかずひろ）氏 瀬野和広+設計アトリエ一級建築士事務所
- 講師 鍋野 友哉（なべのともや）氏 鍋野友哉アトリエ/TMYA主宰

[全国大会案内] 17:00～17:05（5分）

大阪府建築士会

- ・第67回 全国大会「おおさか大会」参加のご案内

= 休憩・移動・大懇親会受付 17:05～18:00 =

[大懇親会] 18:00～20:30（150分）

於：ホテルメトロポリタン山形

- ・女性委員会担当副会長挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 副会長 上原 伸一
- ・ワンバイワン（北海道・青森県・栃木県・岐阜県・奈良県・山口県・大分県）

令和7年7月20日(日)

[分科会] 9:00~11:00 (120分) 於: 山形テルサ 会議室・研修室・交流室 / ZOOM

- ・ A 分科会 自分ごととして「避難所運営」を考える。～避難所運営ゲーム(HUG)実施を通じて
司会者: 吉田 幸恵 (北海道建築士会)
コメンテーター: 金子ゆかり (北海道建築士会)
コメンテーター: 安谷 潔美 (鳥取県建築士会)
- ・ B 分科会 古民家復権作戦
司会者: 大泉みどり (山形県建築士会)
コメンテーター: 安井 妙子 (阿部和建築文化研究所)
- ・ C 分科会 ちびっこ『ちょこっとプランニング』
司会者: 萩原 香 (群馬建築士会)
コメンテーター: 安藤めぐみ (神奈川県建築士会)
- ・ D 分科会 「介護保険制度における住宅改修の適正化に関する業務」について
司会者: 長瀬八州余 (岐阜県建築士会)
コメンテーター: 下川 滝美 (岐阜県建築士会)
コメンテーター: 高野 栄子 (岐阜県建築士会)
- ・ E 分科会 建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える / 林業木材産業との協働の中で
司会者: 畠中 みか (和歌山県建築士会)
コメンテーター: 須藤 亜紀 (秋田県建築士会)
コメンテーター: 芦辺 留美 (和歌山県建築士会)
- ・ F 分科会 建築士としての「防災」を今、考える
司会者: 渡辺 睦 (岡山県建築士会)
コメンテーター: 河原 典子 (神奈川県建築士会)
- ・ G 分科会 伝統と未来をつなぐ古民家再生
司会者: 松田まり子 (沖縄県建築士会)
コメンテーター: 中野 久美 (群馬建築士会)
コメンテーター: 近藤 富美 (福岡県建築士会)

= 全体会会場へ移動 11:00~11:15 =

[全体会] 11:15~12:00 (45分) 於: 山形テルサ テルサホール / ZOOM

- ・ 分科会報告 (3分×7分科会) 総合司会 小林 淑子
- ・ 全体総評 各分科会司会者
- ・ 令和7年度第34回全国女性建築士連絡協議会アピール 連合会女性副委員長 齊藤 裕美
- ・ 開催県挨拶 連合会女性委員長 石貫 方子
- ・ 閉会の辞 山形県建築士会女性委員長 村山 紀子

※ エクスカーションを申込んでいない方は、ここで解散となります。

[エクスカーション] 出発時間 12:30 (E コース12:20) 山形テルサ東口正面玄関集合

※注意 お荷物は各自でお持ちください。A~Dコースは山形駅西口到着となりテルサには戻りません。

- ・ A コース 文翔館とコパル見学コース 12:30~17:10
- ・ B コース 羽州街道をめぐる上山コース 12:30~17:20
- ・ C コース 慈恩寺散策と道の駅 寒河江コース 12:30~18:00
- ・ D コース 「将棋の書き駒・紅花染め体験」と
「天童木工本社ショールーム見学」コース 12:30~17:30
- ・ E コース 本館 古勢起屋 (登録有形文化財) 見学と銀山温泉宿泊コース 12:20~21日10:00

3 会場案内図

7月19日（土）

12:00～13:30	全国女性委員長（部会長）会議	山形テルサ 大会議室
13:45～17:05	令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会	山形テルサ テルサホール
18:00～20:30	大懇親会	ホテルメトロポリタン山形

7月20日（日）

9:00～11:00	分科会	
	A分科会	3階 会議室
	B分科会	3階 研修室A
	C分科会	3階 特別会議室
	D分科会	3階 交流室A
	E分科会	3階 交流室B
	F分科会	3階 研修室B
	G分科会	1階 大会議室
11:15～12:00	全体会	山形テルサ テルサホール



山形テルサ

〒990-0828 山形県山形市双葉町1丁目2-3

TEL 023-646-6677

●J R山形駅からのアクセス 徒歩10分

●山形空港からのアクセス 空港連絡バスで山形駅まで 約40分

ホテルメトロポリタン山形

J R山形駅から直通



1 階平面図

全平面図

協賛
ブース

テルサホール
全体会, 基調講演

受付

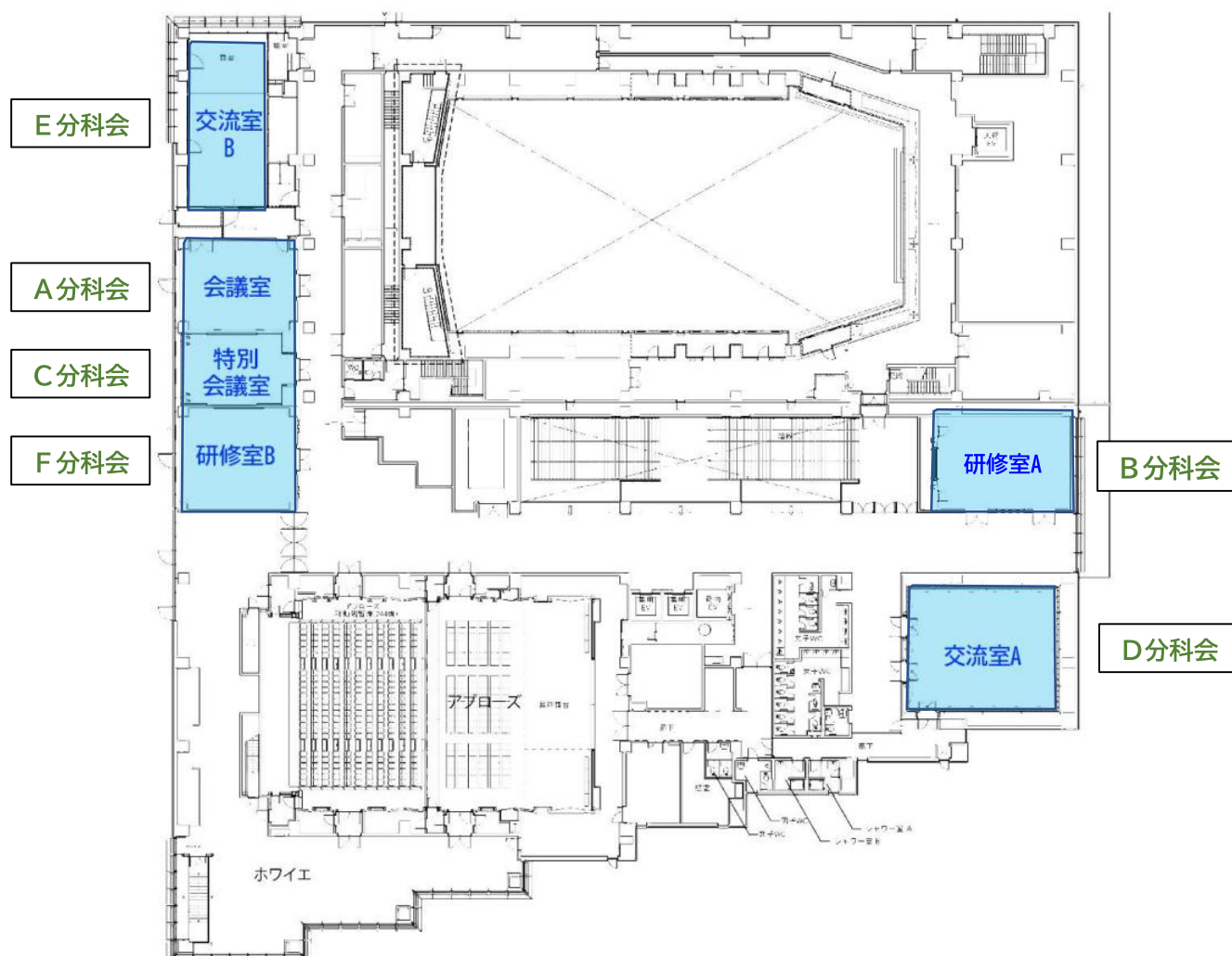
大会議室

全国女性委員長
(部会長) 会議
G分科会

西エントランス ▶

東エントランス ◀

3階平面図



オンライン配信案内

オンラインで参加予定の方は、下記事項をご理解の上参加をお願い致します。

■事前準備（ZOOMのダウンロード）

今回のオンライン配信は、全体会ではWEB会議システムZOOMウェビナーを、分科会ではZOOMミーティングを使用して行います。オンラインで視聴される方は事前に使用する端末へ下記よりZOOM最新版のダウンロード（無料）をお願いします。

<https://zoom.us/download>

ZOOMダウンロードのQRコード⇒



■視聴方法

オンライン配信の視聴URLは、事前にメールで通知する予定ですが、もし3日前（7月16日）までにURLの連絡がない場合は、7月17日中に日本建築士会連合会 事務局 竹田までご連絡ください。

日本建築士会連合会事務局03-3456-2061

メールアドレス jigyoi@kenchikushikai.or.jp メールアドレスのQRコード⇒



視聴URLの案内メールは、カレンダーにコピーするなどわかりやすい場所に保存してください。なお、URLを参加者以外の人に教えたり、SNSなどでURLを発信する行為は控えてください。

■名前の表示ルール（参加者の管理を行いますので入力をお願いします）

- ・参加者 **姓名（都道府県名）** 例）建築花子（東京）
- ・グループで参加の場合 . . **代表者の姓名（都道府県名）G** 例）建築花子（東京）G

■全体会 基調講演・活動報告・被災地報告（ZOOMウェビナー） 参加にあたってのお願い

・全体会では、参加者（主催者、発表者以外）はカメラやマイクの設定がありません。質問や連絡事項がある場合は、ZOOM画面の「**Q&A**」ボタンを押して質問内容を入力してください。

・基調講演や活動報告・被災地報告では、質問したい相手を最初に入力してから質問内容を入力してください。

・質問の最後に、所属士会（無所属の場合は「無所属」）とお名前の記入をお願いします。

・当日お答えできなかった質問に関しては、後日ホームページに回答を掲載する予定です。

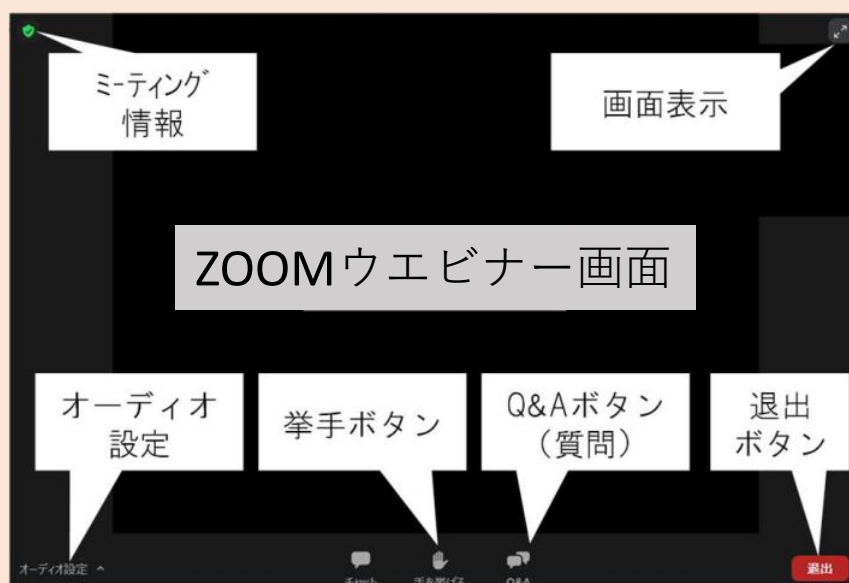
■分科会（ZOOMミーティング）参加にあたってのお願い

・分科会では、カメラやマイクの設定については司会者の指示に従ってください。

■視聴終了

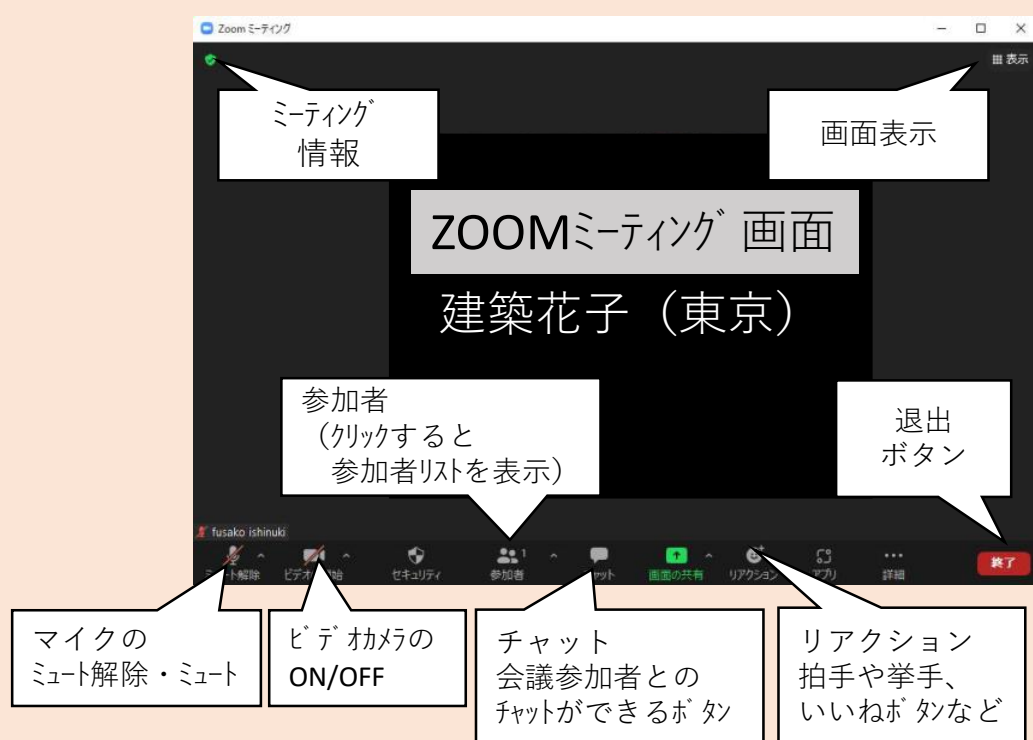
- ・「退出」ボタンを押して、ZOOMから退出してください。

■ ZOOMウェビナー画面の操作ボタン例（全体会 基調講演・活動報告・被災地報告）



※「手を挙げる」挙手ボタンは、司会者からの指示があるまでは押さないでください

■ ZOOMミーティング画面の操作ボタン例（分科会）



※ マイク、カメラのON/OFFについては、分科会開始時にはOFFとし、司会者からの指示に従ってください

※ 挙手ボタン等は、司会者からの指示があるまでは押さないでください

4 基調講演

木造建築の可能性

「ウッドチェンジからウッドリターンの理由」

せの
瀬野

かずひろ
和広

瀬野和広+設計アトリエ一級建築士事務所主宰



プロフィール

1957年山形県村山市生まれ。1978年東京デザイナー学院
スペースデザイン科卒業。大成建設設計本部等を経て、
1988年有限会社設計アトリエ一級建築士事務所開設。建
築士会連合会賞、日本建築家協会環境建築賞等受賞多
数。東京デザイナー学院・東京都市大学非常勤講師歴任。
現在、河北メディア学院大学(中国)美術設計院客員教授。
山形県/やまがた森ノミクス大使・APDCアジア太平洋デザイ
ンセンター名誉理事。日本サステナブル建築協会「すま
い検討小委員会」委員。東京建築士会会員・日本建築家協
会会員。著書に「これからの木造住宅のつくりかた」xk刊・他。



はじめに「木を知らない」

日頃住宅を中心に、多くの木造建築と設計的立場で関わっている。東京中野の小さなアトリエから、木造作例を通じ「木」の使い方に触れながら木造建築のこれからを少し述べたい。木造には全く縁のなかったゼネコン設計部で10年、建築の何たるかを叩き込まれ独立。設計アトリエ開設からもうすぐ40年を迎える。大半を木造建築に関わることで400件余り。その最初の木造は、山形の実家（※1.2）の建て替えだった。茅葺の所謂古民家を解体、大工主導での工程で、追加工事費の請求書整理に追われながらの情けない失敗作。木材も船に乗ってやってきたKD材の良し悪しに目もくれず、調達から木取り、墨付け刻みに至る軸組設計も大工の板図に委ねる有様。正直、木造選択は経済的事情以外の何物でもなく、設計屋の関心ごととは、もっぱら姿形の出来栄のみ。そんな「木を知らない」自邸で初木造。それでも、その失敗からの教訓をその後の仕事に活かしているとしたら幸甚だが、いまだに木造の難しさと奥深さを痛感しながら、木造建築の可能性を探り続けている。



※1 初木造は郷里の実家。
姿形優先の豆腐の切損ね。



※2 木を知らない設計者の大工頼み軸組。接合部はパンソウコウだらけ。

「ここは木の国なのだが」

そもそもここは木の国だ。我々が暮らす各地域の裏山には、先人たちが残してくれた杉・桧の資源が豊富に森林を形成している。家づくりをはじめ、広く建築資材として活用すべく山づくりが育まれてきた。そんな森林資源から伐り出した丸太を、葉枯らし、製材、乾燥、修正挽きして資材にする。設計者としてはこのサプライチェーンを単純かつ視える化しながら、無添加材を大工手刻みによって加工、そして組み立てる手順の建築にしたいだけと常々考えている。

しかし現実には時間と経済効率の折り合いから、そ

の山が放置され、サプライチェーンは森林資源の川上で既に麻痺している。理由は単純。経済効率は時間が生命線の中、取り分け乾燥の時間短縮が最優先された。結果、認定数値を求めながら、早く安く、が市場的常識となり、裏山に市場の目が向かなくなっただけである。その昔、木材乾燥は自然乾燥以外に術はなく、数年単位の時間を要することが商いの常識だった。腐朽菌を寄せ付けず、丈夫で永持ちする資材は乾燥の時間にこそ担保された。経済効率を上げる時短こそが美德とされる現代において、木材生産のほとんどをプラント化、乾燥も数日で終了しながら合理化推進のため、その機械設備開発にも拍車がかかることは仕方ないことか。そして市場は、その時の含水率から強度的数値のみを認定された基準達成に安心し、耐久性能には目を向けられていないことが制度的問題をはらんでいるようでならない。結果自然乾燥での手間暇辛抱仕事の川中、小中規模製材の存在もなくなることに憤りを隠せない。



「古民家は何故腐らない」

腐る建築が昨今取り沙汰されている。外気に木を思いっきり曝露させているのだから然もありなん。屋根、壁といっても主要構造体以外の化粧が剥がれただけなので、費用的問題はさておき、工法的問題まで誇張するのはいかがなものかとの思いで各界の議論を聞いている。

いうまでもなく木は腐る。裏山地場産材を宣伝文句にしても木は腐る。ましてや人乾材、しかも高温乾燥材となればいくら塗装剤がすぐれていても、更には含浸系であっても細胞が潰れていては、化けの皮は剥がれ腐朽菌が入り込む。だから二次加工材が曝露に弱いのは、接着剤もさることながら、まずは乾燥問題にあると考えられる。一方、200年経過の茅葺民家（※3）等、草で葺かれた屋根のメンテは欠かせない。しかし壁面構成の屋台骨や板壁など、

すまし顔の風体は多く現存する。流石に深い軒に守られていると言えばそれまでだが、足元からの風化は避けられない。しかしこの長寿命！腐食部の交換次第で朽ちることを知らない。同じ建材の差はひとえに乾燥の仕方にあると言って良い。天乾材の200年物は押並べて精油を含む細胞膜がしっかり残っている。その性質上、強度も保持しているというから先人の経験値に勝るものはない。蒸し風呂から出された瞬間から強度低下が始まる細胞膜破壊の木とは正にここが違う。本来、木は再生可能な永持する自然素材として認知されるべきである。（※4.5）



※3 腐らない茅葺民家の屋根の連なり。



※4 綺麗な桧の角材束。これから乾燥窯へ。

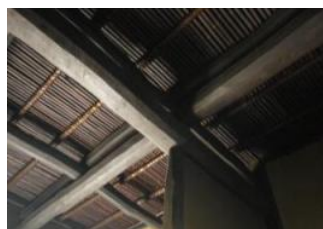


※5 乾燥後の木口は焼けただけ、細胞膜も潰れてしまう。

「表装美人より骨美人」

面構成でツルピカ空間デザインを競い合う建築界。とりわけ住宅はほぼ木造だが、その屋台骨自慢話題もほぼない。別にコンクリート打ち放し仕上げを賛美するわけではないが、せっかくの木軸構成なのだから、かつての民家がそうであったように、架構の線的美しさによる、所謂骨美人をテーマに、構造的合理性も兼ね備えた建築意匠(※6.7)にしたい。軸材を見せる、見せないが真壁・大壁なら、その両方をいいあんばいに組み合わせながらのエスキース(※8)を心がけながら、伝統構法的仕口や継手加工採用も惜しまずに軸組意匠化を計っている。

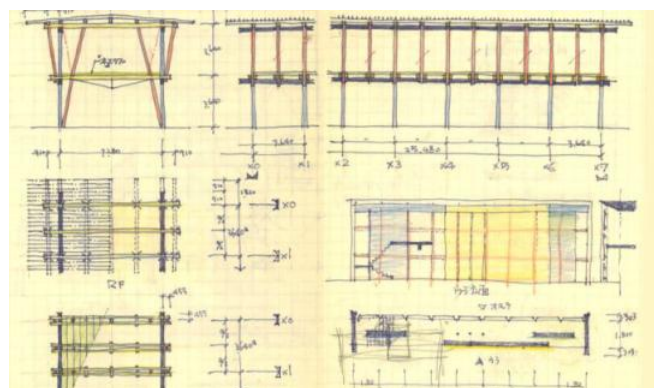
墨付け手刻みができる大工棟梁の激減に嘆きながらも、軸組設計そのものをプレカット工場の技術に委ねてしまつては、その嘆きの先に何も生まれない。木造を選択する以上、軸組設計こそ、我々設計者の役割をあたりまえにしないといけない。大壁で隠れるから良いは言い訳で、隠れるからこそその軸組み設計こそ、耐力耐久両面からの検討を含めた設計仕様づくりでなければならない。



※6 どこの古民家も、軸組意匠が実に美しい。



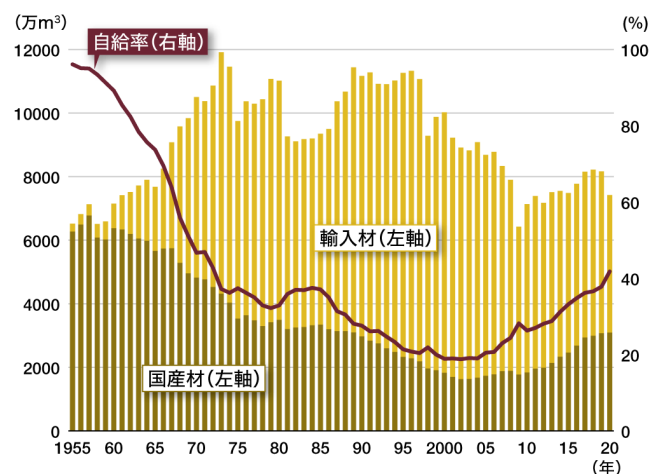
※7 流通製材木で組み上げた、我々の軸組意匠。



※8 軸組検討エスキース。いつもこれの繰り返し。

「木の使い方原則論」

現在国産木材の自給率が40%(※9)を超え、その需要が高まっている。最近では公共施設を含め、大型建築の木質化が増加していることも効果を上げ、望ましい傾向ではある。一方で、その国産材の使い方にはどうしても不安が付きまとう。原木を製材、そのまま使うのならいざ知らず、建築が大規模になるにつれ製材そのままとはいかず、ラミナにされ化学接着剤頼りの所謂集成材化しながらの架構にならざるを得ない。ただCo2を温存した木材活用としては大いに賞賛されよう。しかし建築にも寿命がある。いずれの解体時に、二次加工材の再活用の可能性は極めて低い。焼却処分ともなれば温存Co2はおろか、加えて焼却時のCo2排出等も招いてしまう。これは直近の話題として、大阪博の回遊リング(※10)の残材処理(27,000m³)問題でも明らかになる。つまり山の消費は、国内外問わず無添加製材利用が原則と言えないか。その上で、ばらせば転用可が環境を守るための木の使い方、その設計的工夫でなければならない。



※9. 2023年度で43%と回復傾向の国産材自給率。無駄遣いにならないことを望むばかり。
出典:農林水産省「木材自給率の推移」



※10. 大阪博回遊リング。大断面集成材組の解体後の行方を憂いる。(出典:TECTURE MAG)

「だから私たちは木をこんな風に使いたい」

・こんな木を使いたい(※11.12.13)

1. 何はともあれ裏山の木を視る、知る。
2. 旬伐り
(でんぶん質低下の冬季伐採。)
3. 材に応じた葉枯らし放置期間を設ける。
4. 粗挽き製材後の天然乾燥養生とその時間。
5. 修正挽きを経て出荷、買取り。

川上から川中、そして消費地である川下までの流れを単純化箇条書きにしたが、実はこれで以上の項目でもある。つまり川中製材から川下消費者(大工)までの流通は極力淀みがない方がよい。こんなサプライチェーンを探りながら普遍的製材の流通網が増えることを願っている。木をこんな風に使いたい架構の前に、こんな木を使いたい流通的願望を先に書いたのは、一部に直販体制はあるものの上箇条書きまで満たしての山は限られている。ただ、箇条書き条件は製材所、もしくは製材協力者がいて、土場確保さえできれば正直誰でもどこでもできる。事実数年前、その条件が揃い「手前味噌」天然乾燥に挑戦、120㎡ばかりを見事上手い実績に繋げた自負もある。つまり使いたい木は、かつての木造の木がそうだったように、ひとえに丈夫で永持ちする木材で組みたいという事。その上で使い方の話に繋がたい。

・木をこんな風に使いたい(※14.15.16)

1. 表装美人より骨美人
2. 木は木で組む仕掛けづくり
(杢と渡り顎が肝)
3. 歩留まりを考慮した木取り
4. 間崩れのない間取り方
5. 解体後再利用可能な接合部の加工

そんなことを信条にプランニングエスキース(※17)を繰り返している。住宅、非住宅の区別はない。事務所や診療所。小さな工場や旅館まで、木でつくる以上、住宅の設計態度と何も変わらない。その上で、かつてあらゆる建築が木造だったことに想いを馳せ、ウッドチェンジが叫ばれる中、チェンジではなくウッドリターンにしなければならないと考えている。建築が大型化すればするほど二次加工材の受け入れもやむなしだが、架構的工夫を重ね、可能な限り流通製材木を駆使した木構造体での建築が、木に対する、あるいは地球環境に対する最低限の責任と役割ではないだろうか。



※14.骨美人を目ざし構造的合理性優先に架構を考える。



※15.木は木で組む架構と造作材の調和も図る。



※16.1,2階の間崩れを生じさせないモジュール設定が重要。



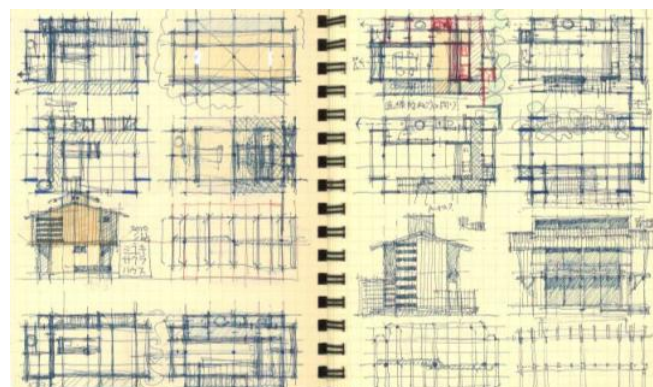
※11.トレーサビリティデータ付きの天然乾燥材。100年生材も珍しくない天竜杉。



※12.陸前高田で試みた「手前味噌」天然乾燥土場状況。



※13.山形県産西山杉。天然乾燥で仕立て上げてもらった。



※17.セオリー通りの平立断に軸組を加え、同時進行するエスキース作業。

人工林の山の疲弊は環境問題としても深刻。自らを含め多くの建築士は木造を主に設計や施工を生業としている。当然それは樹種選定から強度数値を物差しに断面サイズや長さが決められ、接合部の仕掛けを含め仕様化する役割がある。杉、桧等の樹種選定書き込み時、スギ（上小）の括弧書きに（・・・ウラ山杉・天乾材）追記載を加えるだけで、積算的話題になること必至。施工者と共にそのウラ山に目を向けなければならなくなる。つまり、地材地建は設計者の手にかかっていると言って良い。我々設計者の意識こそが荒廃の山を蘇らせ、山、里、そしてヒトの好循環がCo2を抑制、環境保全のきっかけづくりを担っているとも言える。緑の募金よりも山にダイレクトゲイン的効果をもたらす必策と考えるがいかがだろう。付け加えれば、住宅の材積くらいは小規模製材所で入手が簡単なうえ、天然乾燥もやらざるを得ない経済的事情も抱えているため、是非あったってもらいたい。

「設計者よ 山に來い（恋！）」は、我々建築士の普段の業務に、この括弧書き(※18)を標準仕様化しながら山と共に考えるべき責任ではないだろうか。

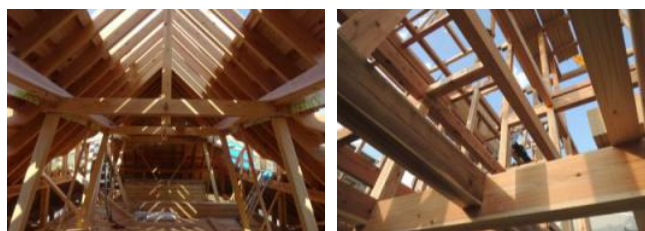
違文化に気付かされる。世は正に核家族化に歯止めがかからず、家はライフスタイルの変化を理由に、短命な消費物と化していた。これでは家族が危ない！地域が危ない！まちが危ない！が、地球が危ない？を考えた時、建築などつくっている場合ではないという思いに駆られる。建築の前に家。その家も、住まいより住まい方の研究成果を設計に活かさなければならぬことを知る。このまち、この場所、この家を世代循環しながら住み継ぐことこそ、まち育てでありまちづくり。その原点が我々目の前の家庭にあると同時に、建築家本来の使命も正にその創造にあることを思い知る。かつての農的暮らし方の応用や、子供は子供部屋で育たない等、時代に学び次の時代の住まいと建築を、「木」の使い方で繋げていきたいがためのウッドリターンを強く感じている。



ex1.大工師弟関係の作業風景も時間の問題か。

特記事項			
1. 各製品の組合せは、「標準仕台・標準型・標準組立」に準拠する。			
2. 標準仕台と標準型は必ずセットとする。			
■ 部材リスト(記号凡例)			
品名	記号	材質	寸法
天板	天板10	120 ¹	1200×1200(標準型用)
天板	天板15	150 ²	1500×1500
天板	天板20	180 ³	1800×1800(標準型用)
天板	天板25	210 ⁴	2100×2100(標準型用)
天板	天板30	240 ⁵	2400×2400(標準型用)
天板	天板40	300 ⁶	3000×3000(標準型用)
天板	天板50	360 ⁷	3600×3600(標準型用)
天板	天板60	420 ⁸	4200×4200(標準型用)
天板	天板70	480 ⁹	4800×4800(標準型用)
天板	天板80	540 ¹⁰	5400×5400(標準型用)
天板	天板90	600 ¹¹	6000×6000(標準型用)
天板	天板100	660 ¹²	6600×6600(標準型用)
天板	天板110	720 ¹³	7200×7200(標準型用)
天板	天板120	780 ¹⁴	7800×7800(標準型用)
天板	天板130	840 ¹⁵	8400×8400(標準型用)
天板	天板140	900 ¹⁶	9000×9000(標準型用)
天板	天板150	960 ¹⁷	9600×9600(標準型用)
天板	天板160	1020 ¹⁸	10200×10200(標準型用)
天板	天板170	1080 ¹⁹	10800×10800(標準型用)
天板	天板180	1140 ²⁰	11400×11400(標準型用)
天板	天板190	1200 ²¹	12000×12000(標準型用)
天板	天板200	1260 ²²	12600×12600(標準型用)
天板	天板210	1320 ²³	13200×13200(標準型用)
天板	天板220	1380 ²⁴	13800×13800(標準型用)
天板	天板230	1440 ²⁵	14400×14400(標準型用)
天板	天板240	1500 ²⁶	15000×15000(標準型用)
天板	天板250	1560 ²⁷	15600×15600(標準型用)
天板	天板260	1620 ²⁸	16200×16200(標準型用)
天板	天板270	1680 ²⁹	16800×16800(標準型用)
天板	天板280	1740 ³⁰	17400×17400(標準型用)
天板	天板290	1800 ³¹	18000×18000(標準型用)
天板	天板300	1860 ³²	18600×18600(標準型用)
天板	天板310	1920 ³³	19200×19200(標準型用)
天板	天板320	1980 ³⁴	19800×19800(標準型用)
天板	天板330	2040 ³⁵	20400×20400(標準型用)
天板	天板340	2100 ³⁶	21000×21000(標準型用)
天板	天板350	2160 ³⁷	21600×21600(標準型用)
天板	天板360	2220 ³⁸	22200×22200(標準型用)
天板	天板370	2280 ³⁹	22800×22800(標準型用)
天板	天板380	2340 ⁴⁰	23400×23400(標準型用)
天板	天板390	2400 ⁴¹	24000×24000(標準型用)
天板	天板400	2460 ⁴²	24600×24600(標準型用)
天板	天板410	2520 ⁴³	25200×25200(標準型用)
天板	天板420	2580 ⁴⁴	25800×25800(標準型用)
天板	天板430	2640 ⁴⁵	26400×26400(標準型用)
天板	天板440	2700 ⁴⁶	27000×27000(標準型用)
天板	天板450	2760 ⁴⁷	27600×27600(標準型用)
天板	天板460	2820 ⁴⁸	28200×28200(標準型用)
天板	天板470	2880 ⁴⁹	28800×28800(標準型用)
天板	天板480	2940 ⁵⁰	29400×29400(標準型用)
天板	天板490	3000 ⁵¹	30000×30000(標準型用)
天板	天板500	3060 ⁵²	30600×30600(標準型用)
天板	天板510	3120 ⁵³	31200×31200(標準型用)
天板	天板520	3180 ⁵⁴	31800×31800(標準型用)
天板	天板530	3240 ⁵⁵	32400×32400(標準型用)
天板	天板540	3300 ⁵⁶	33000×33000(標準型用)
天板	天板550	3360 ⁵⁷	33600×33600(標準型用)
天板	天板560	3420 ⁵⁸	34200×34200(標準型用)
天板	天板570	3480 ⁵⁹	34800×34800(標準型用)
天板	天板580	3540 ⁶⁰	35400×35400(標準型用)
天板	天板590	3600 ⁶¹	36000×36000(標準型用)
天板	天板600	3660 ⁶²	36600×36600(標準型用)
天板	天板610	3720 ⁶³	37200×37200(標準型用)
天板	天板620	3780 ⁶⁴	37800×37800(標準型用)
天板	天板630	3840 ⁶⁵	38400×38400(標準型用)
天板	天板640	3900 ⁶⁶	39000

※18.木材仕様リスト



ex2.木造だから、木は木で組む仕事にするために。

・ おわりに

設計アトリエ開設からの40年はあったという間だった。気付けば古希に手が届こうとしている。その40年間、各地の住宅建築をつくり続けながら、その時々暮らす人々の様々な暮らし方と向き合ってきた。とりわけ子供たちとの交流から得た生活学は、建築即ちモノづくりの態度や姿勢に大きな影響を受けた。と共に、我々は家の設計を依頼されているわけで、決してフォトジェニックな建築を要求されているわけではないことを教わる。当初の設計態度は、ともあれ格好良い建築的フォルマリストを目指していた。多少の使い勝手の悪さはデザインに免じて我慢してもらおうなどと、モノ優先の設計に粹がっていたのも事実。その後崩壊するバブル経済の煽りも受けながら、モノだけづくりに何のためらいもなく没頭していた。更に住宅建築バブルはその後10年余り続き、住宅作家たちはコンビニの雑誌グラビアにへらへら笑いながら掲載されることに喜びを感じながら、擬似的個性を競い合っていた。そんな建築家ブームも下火になる頃、家づくりにおける建築的勘



ex3.構造的架構体をそのまま意匠にしたい。

木造建築の可能性

「山と地域と未来をつなぐ架け橋」

なべの ともや
鍋野 友哉

一級建築士事務所 鍋野友哉アトリエ/TMYA主宰



プロフィール

鍋野友哉（なべの・ともや） /

東京大学 農学部 木質材料学研究室を卒業、同大学院修了。木造建築の構法研究開発に取り組んだ。河野泰治アトリエ（2005～2014）で河野泰治氏に師事。2014年に鍋野友哉アトリエを開設。これまでにグッドデザイン賞、土木学会デザイン賞、木材活用コンクール 優秀賞など受賞。東京と山形の二地域居住を行い地域活性化についても取り組んでいる。

現在、東京大学、法政大学、お茶の水女子大学、東北芸術工科大学、山形大学にて建築デザイン教育に携わっている。

私は農学部出身で、学生の頃には大学の演習林で林業実習があって測量や枝打ちなども行いました。このような環境の中で、自然と山や森を取り巻く状況に対して常に関心を持つようになりました。現在、私は東京で設計事務所を営みながら、山形県との二地域居住を行っています。東京と山形の行き来のか、この日本列島の風土や自然資本の可能性を最大限に活かせないかと日々考え、設計活動に取り組んでいます。

今、日本の山では戦後植林されたスギ林の手入れもなかなか進まず、山は荒れ林業従事者は減少の一途です。日本は世界的に見ても有数の森林率を誇ります。なんとOECD加盟国34カ国中フィンランドに次いで2番目の高さです。しかし、それを活かしてないのが現実です。輸入材の流通が価格を押し下げ、手間をかけて山に入るよりも、コストの低い素材に頼るほうが合理的だとされてしまう。その背景には、戦後の国策、経済至上主義、都市集中と地方衰退といった構造的な課題が根を張っています。

私はこの現状を素材の孤立と考えています。山で生まれた木が、そのまま社会の循環に組み込まれることなく、立ち枯れていく。そうした断絶は、私たちの暮らしの根元にある地球との関係性をも失わせてしまうのではないかと危惧しています。建築がそれにどう応えるのか。それを考えることが、私の設計活動の出発点でもあります。

自邸「東根の家」では、その思想と実践を具現化したプロジェクトです。そこでは単なる「家づくり」を超えた、大地との対話、森との共生、そしてこの地域で生きるという感覚が反映されています。

この住宅の計画にあたり、私は「木の使い方」を再構成することに挑みました。大きく特徴的なヴォールト屋根とそれを支える白いボリュームという形態構成をしていますが、この白い箱状のヴォリュームには県産材を用い、ヴォールト屋根には鳥取CLTで製造された厚さ36mmの「薄物CLT」によるレシプロカル構造としています。この薄物CLTをミヨシ産業で切り出して部材製造し、山形まで搬送して現場で組み立てました。

私はこれを「列島単位での地産地消」と捉えています。素材の生産地、加工地、使用地が持続可能な関係で結ばれている限り、それは現代における健全な建築的循環であると考えています。国産材でありその加工や輸送のプロセスが透明であることに意味があります。また、部材設計に当たっては原板サイズ、歩留まりなどを考慮して建築の形態を決定しています。歩留まりをいかに高めた設計とするかということは、短期的には建築コストに反映される問題ですが、長期的には川上と川下の関係を良好にするための非常に重要な考え方だと思っています。



写真1 東根の家 東側ファサード



写真2 東根の家 内観

空間に物語を編む

「東根の家」の設計で目指したのは、素材・場所・人の関係性を呼び起こすような「装置」として立ち上がることでした。

薄物CLTを用いたヴォールト屋根は、そのまま現し仕上げとして空間に露出させています。木の積層が見えることで、住まい手は日々の暮らしの中で「どうやって作られたのか」を想起できる。そうした感覚の回路を開いておくことが、私は現代の建築においてとても大切だと思っています。空間に仕掛けを埋め込むこと。建築が環境と共鳴しながら、住まい手の感覚を更新していくこと。そこに建築の本質があると私は考えています。

敷地は住宅地の一角にありながら、周囲の山の稜線や風の流れを読み解くことで、家の内と外がなめらかにつながるような構成を目指しました。また、北



写真4 薄物CLTを用いたヴォールト屋根

現代建築において表現主義や装飾性というものは20世紀インターナショナルスタイルの潮流とともに大きく排除されましたが、そのバックラッシュとしてポストモダニズム建築に移行。現代はさらにその反動期へと突入し、ミニマル表現への回帰やまた構造表現が好まれる時代にいます。

しかし、建築にとっては何らかの「装飾性」は失ってはいけない個性のひとつだと私は考えています。素材選択も広義には「装飾性」の側面があり、私たちは無意識にこの問題と直面しています。結局のところ調和の問題だと捉えています。

私はこれまでも建築の中に芸術表現を積極的に組み込んでいく試みをおこなってきました。例えば、東根の家では主屋部分のヴォールト屋根と壁が取り合う部分は大きく異なる要素が交わりつつ、雨の収まり等が複雑に絡み合います。そこで、今回はこの部分を友人の金属彫刻家の高田純嗣氏と協業して、彫刻となる雨樋と太陽光パネルや井水の配管カバーとしても機能するステンレスの彫刻としました。

国ならではの問題として積雪問題があります。今回の敷地では近くを流れる川の伏流水により地下水が豊富であるという地域性を活かして、井戸水を用いた融雪と夏場の冷却水、庭への散水利用しています。また、敷地形状から南向きに設置したヴォールト屋根には太陽光パネルを載せていますが、屋根散水によりパネルに積もった雪を落とす役割も担っています。



写真3 周囲の山並み



写真5 雨樋と各種配管カバーを兼ねた彫刻

また、離れに設置した螺旋階段は日常的な用途がある触れる彫刻というものを目指しました。これは総合芸術としての建築とは何かということを問い直し、再構築してみたいという思いからの取り組みでもあり、また、空間に物語を編んでいくためにも大事なだと考えています。

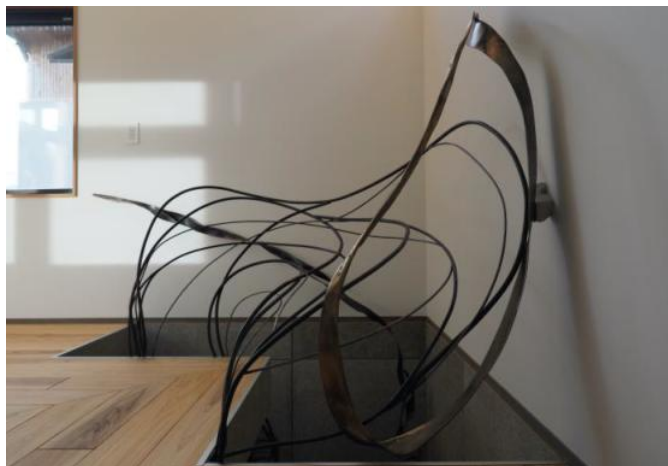


写真6 螺旋階段手摺の彫刻

エンジニアリングウッドの可能性

建築において素材の変遷は、空間の感触や構造に直接変化を及ぼしてきました。「東根の家」で採用した薄物CLTは、私自身が学生時代に水平構面を構成する材料として研究対象としてきた素材であり、とてもなじみ深い材料であったのですが、その軽量さと強度、そして加工精度の高さにより木質構造の新しい可能性を感じてきました。

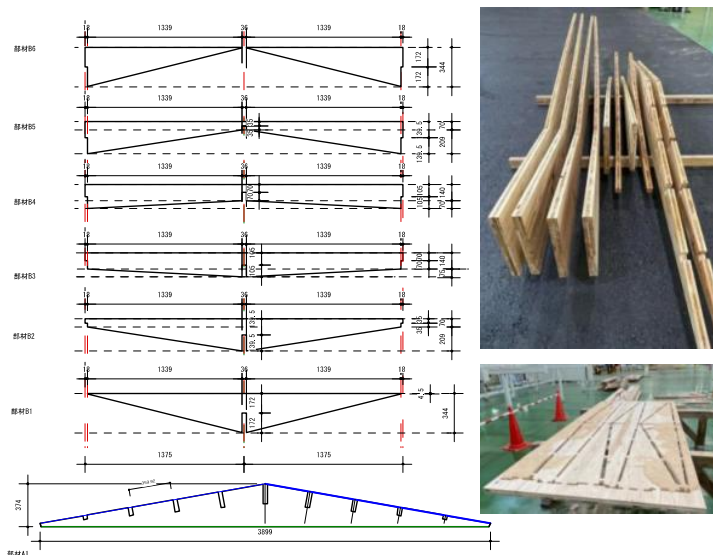


写真7 加工部材図と工場加工時の様子

エンジニアリングウッドは、単に便利な構造材ではなく建築と同じく「再編集された森林」の一形態と捉えています。木材は伐って乾燥させ、適切に使いさえすれば、そのままで安定する非常に優れた素材ですが、人の技術と知恵によって、設計の自由度と建築の持続性を支える存在へと変わります。



写真8 くりばやし整骨院外観

ローテクとハイテクはそれぞれの良さがあり、適材適所で使用し、これらを両立させていくことに山と建築の未来があると考えます。

エンジニアリングウッドは、かつて限界とされてきた部材断面サイズや長さ、また構造性能の枠を超えることで、都市木造やインフラにも応用可能な新たな素材文化を築きつつあります。実際に、CLTを初めとするエンジニアリングウッドは都市部での中高層建築物や大規模木造にも適用可能であり、ひいては工業化による地域の活性化も目指すことが出来ます。また中大規模建築物だけではなく、住宅スケールでの導入も今後の普及に向けたひとつの足がかりになると考えています。

例えば、2015年に竣工した「くりばやし整骨院」では2150mmのキャンチレバーを在来木造に5層5プライ150mm厚のCLTを2F床プラットフォームとして在来軸組構造に挿入することで実現しました。これはCLTがまだ指定建築材料に指定される以前の試みでしたが、地方都市での都市型狭小敷地住宅が抱える問題の一つを解決できるモデルケースとしても示せたと考えています。

また、2022年に竣工したAQグループの川崎純木造5階建てプロジェクト「キノビル」では純木造で5階建て都市木造を実現しました。1階が二時間耐火、2階以上は一時間の耐火被覆型の木造耐火建築物なのですが、ここではCLTを用いた耐力壁やヒノキ製材による格子状の水平力抵抗要素、また一部の被覆については耐火LVLを被覆材として用いる事で、木質感を表すことに成功しました。

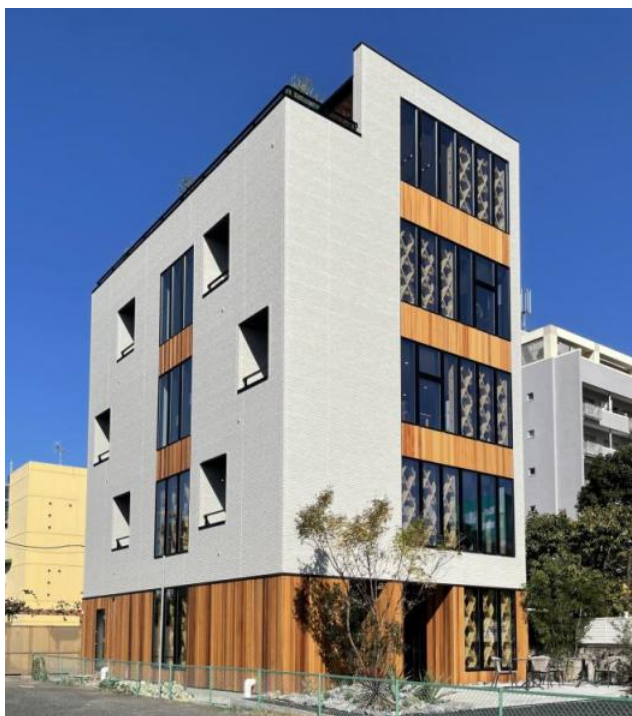


写真9 純木造5階建「キノビル」外観

素材と向き合い、素材から考える

建築と素材に対する向き合い方においては、私は特に「素材から考える」という事を大事にしています。例えば、製材を使うことを考えたとき、材料の流通からある程度の断面と長さが決まります。これは断面や長さの自由度が低いという側面もありますが、一方でそれをいかに活かして建築化していくか、という創意工夫が問われているのだ、と考えています。

「アプリウス芝スタジオ旧社屋」では、築40年を超える旧社員寮の改修プロジェクトで、非常に低予算の中クライアントと設計者達の手でつくるという事を大事にして、小経材によるトラス補強小屋組という手法で大空間を実現しました。

また、「東根の家」の附属屋で、アトリエ+ゲストスペースとして整備された離れでは、1階が車庫用途の為、最大5010mmのスパンが必要で、主屋と外部の関係から、なるべく低く抜けのある2階建ての木造建築物とすることを目指して、柱材と横架材の全てスギ105mm角材のみで構成しています。

2階床がある大スパンが部分については、105mm角材を日の字組した上に構造面材を表裏両面張り、ビスピッチも上げて補強した面材充腹梁としました。また同じく雪荷重を受ける公園側の大庇については、105mm角材@120で並べることで、スギ製材のみでスパンに対して薄く広い庇を実現しました。

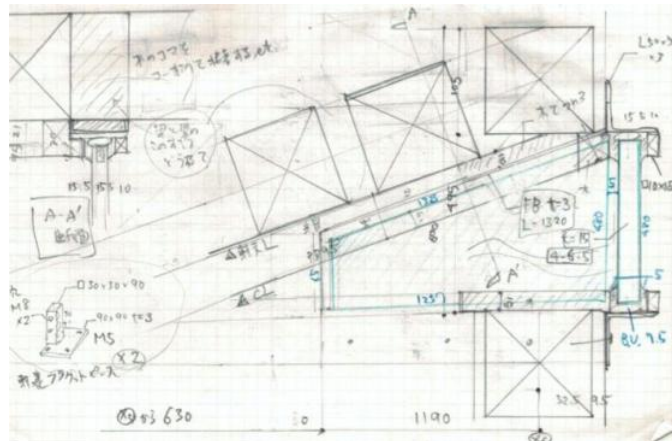


写真10 庇一開口部取り合いディテールスケッチ

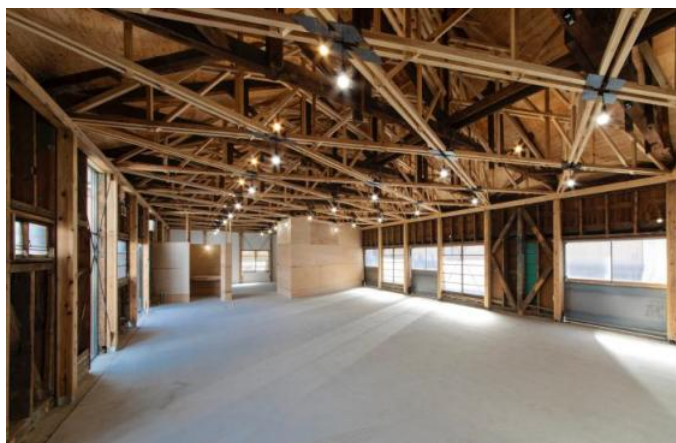


写真11 小経材によるトラス補強小屋組



写真12 正面公園からのファサード

地球単位の視座で、地域と建築の繋がりを考える

素材をどう使うかは、その素材が持つ文化的・空間的価値をどう読み解くかという態度にも関わってきます。木材の性能に加えて、その意味をどう設計に織り込むか。それが設計者としての問いでもあります。建築とは、物質と人間、自然と社会、個人と地域をつなぐ媒介の装置の側面も持っています。

施主や設計者が積極的に山や林業現場に足を運び、流通のあり方を知り、場合によっては地域の学校や市民と連携して森林教育や素材の再評価の機会を創出することも大事です。そうしたプロセス自体が、建築の「地力」を高め、結果的に長く愛され文化につながるのではないのでしょうか。

今、建築は「そもそも何を、なぜ、どこからつくるのか」というリージョナルな設計思想がますます大事になってきていると感じます。これまでも私は建築が果たすべき責任と可能性を模索してきましたが、

これはその地域に住む人々とともに育てていくべき運動であり、営みであると思っています。建築家はその触媒であり、翻訳者であり、時には交渉者でもあります。だからこそ、私たちは目の前の風景の中に、未来の手がかりを見つけ出さなければならないと考えています。



写真13 林業現場：伐り出された原木

5 被災地報告・活動報告

「山形県北部豪雨災害 被災地からの報告」

山形県建築士会 酒田支部

「令和6年1月能登半島地震・

令和6年9月能登半島豪雨 被災地報告」

石川県建築士会 山田 文恵

「幻（仮）の『第1回 福島県建築士の
つどい』をやってみた。」

福島県建築士会 阿部 治江

「阪神淡路大震災から30年」

兵庫県建築士会 山本 和代

令和6年7月25日 山形県北部豪雨災害・被災地からの報告

山形建築士会 酒田支部

■はじめに

令和6年7月25日から26日にかけて、酒田市を含む山形県北部で記録的な豪雨が発生しました。この豪雨によって、河川の氾濫、土砂崩れ、橋の崩落、冠水などが発生し、特に酒田市の荒瀬川流域や府田地区で甚大な被害をもたらし、激甚災害に指定されるほどの大きな災害となりました。市内の施設やインフラも被害を受け、床上・床下浸水など多くの住宅が被災しました。その結果、避難所生活を余儀なくされる住民が多く、生活に深刻な影響が及びました。

■災害発生時

7月25日（災害発生日）

朝から市内道路の冠水対応に従事。昼過ぎに一時的に落ち着き職員を帰宅させたが、14時頃に八幡の上禅寺で氾濫の報が入る。深刻な住宅被害を確認し、緊急対応を開始。しかし、西荒瀬地区の被害把握が遅れ、避難者対応で誤解を招く説明をしてしまう。県に被災住宅2～300戸の対応が必要と連絡、市営住宅の早期転居を決定。住宅相談支援を依頼するも、水害の特性上、正式な応援には至らず。夜間に被害調査を断念し、23時に一時帰宅。

7月26日（翌日）

深夜2時に最上川氾濫警報が発令。河川カメラ等を確認し氾濫の可能性を判断、家族を避難させ自ら市役所へ。午前4時に職員を再招集し市内応援体制を整える。松山・竹田地区の浸水は翌朝の報道で把握。その後、避難者受け入れや国の制度に応じた支援体制の整備に追われる。

～酒田支部刊行斜線 阿部哲幸・備忘録より～

災害対応における初動の重要性や、現場で直面した課題、当時の意思決定の背景を知るうえで、多くの気づきを与えてくれる記録となっています。

■大雨による出水の山形・秋田の概要

前線の影響により、秋田県と山形県を中心に記録的な大雨となり、総雨量は多いところでは500mmを超過。多くの雨量観測所で観測史上1位や、7月の平年値を上回る雨量を記録。

秋田県や山形県では記録的短時間大雨情報が計5回発表されるとともに、山形県では線状降水帯が2回発生し、大雨特別警報が2回発表された。

◆記録的短時間大雨情報発表（計5回）

秋田県（北秋田市、上小阿仁村、五城目町）

山形県（遊佐町、酒田市）

◆線状降水帯発生（2回）

山形県（村山地域、庄内地域、最上地域）

◆大雨特別警報（2回）

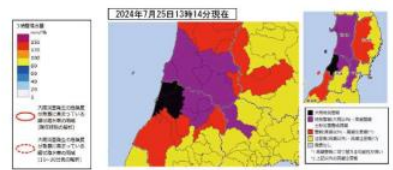
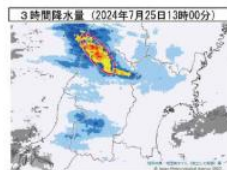
山形県（酒田市、遊佐町、庄内町、新庄市、舟形町、鮭川村、戸沢村）

大雨特別警報（1回目）

山形県 酒田市・遊佐町

発表：7月25日13時07分

解除：7月25日20時15分

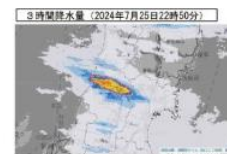


大雨特別警報（2回目）

山形県 酒田市・庄内町・新庄市・舟形町・鮭川村・戸沢村

発表：7月25日23時40分

解除：7月26日05時15分



◇新庄雨量観測所（新庄市）

403.5mm※1.50倍（1時間最大68.0mm）

◇東由利雨量観測所（由利本荘市）

275.0mm※1.34倍（1時間最大55.0mm）

◇差首鍋雨量観測所（最上郡真室川町）

444.0mm※1.33倍（1時間最大60.0mm）

◇瀬見雨量観測所（最上郡最上町）

400.0mm※1.28倍（1時間最大58.0mm）

◇湯沢雨量観測所（湯沢市）

250.0mm※1.28倍（1時間最大39.0mm）

◇向町雨量観測所（最上郡最上町）

337.0mm※1.27倍（1時間最大63.0mm）

◇東成瀬雨量観測所（雄勝郡東成瀬村）

236.5mm※1.20倍（1時間最大25.0mm）

◇酒田雨量観測所（酒田市）

304.0mm※1.19倍（1時間最大71.0mm）

◇湯の岱雨量観測所（湯沢市）

254.0mm※1.03倍（1時間最大22.0mm）

◇笹子雨量観測所（由利本荘市）

250.0mm※1.02倍（1時間最大22.0mm）

10地点で72時間雨量が観測史上1位を記録。

■山形・秋田の被害状況



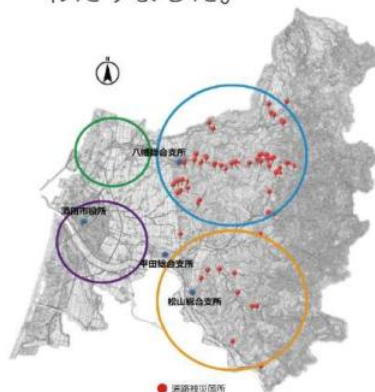
2. 西荒瀬地区（日光川下流）

荒瀬川の下流に位置する日光川が溢水し、旧河道の集落に流れ込む事態。短時間で浸水が進み、背丈を越える水圧によって建物が浮き上がるなどの甚大な被害が発生しました。



1. 八幡地区（荒瀬川上流～麓）

荒瀬川の氾濫および土砂崩れが複数箇所で発生し、住宅被害に加えて橋梁・道路などインフラの破損、流木や土砂による災害が発生しました。復旧作業に支障をきたす状況が数週間 続きました。避難所も約2ヶ月間と長期にわたりました。



■各地区の災害状況について
今回の水害は市内で大きく4つのエリアに分かれ、それぞれ異なる特徴と被害状況が見られました。

4. 市内各所

排水能力を超える豪雨により冠水が発生。道路通行制限や住宅の床下浸水も多く報告されています。



3. 松山竹田地区（最上川支流付近）

給水ポンプ施設への浸水により最上川への排水機能が停止。これにより地区全体が2日間 にわたり冠水状態となりました。



■被害状況（住宅）

（１）住家の被害認定件数（R7.1.31現在）

（単位：件）

	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊 （床下浸水）
	13	15	31	182	47	511
地区別内訳						
酒田	1	4	13	48	8	261
八幡	12	11	15	90	35	235
松山			3	43	4	7
平田				1		8

■ボランティア活動

設置日 令和6年7月27日

活動拠点 ①ひらたタウンセンター内（酒田市飛鳥字契約場） 設置期間 令和6年7月30日～8月19日
②八幡タウンセンター内（酒田市観音寺字寺ノ下番地） 設置期間 令和6年8月20日～10月31日

活動内容 ①活動開始日令和6年7月30日

②活動内容・個人宅や避難場所等における被災者の状況調査、被災者ニーズの把握（～）ボランティアが支援を行う被災者ニーズを判断し関係機関などへの情報提供・各種広報媒体等によるボランティア活動希望者への情報発信・災害ボランティア活動を支援する物資の確保

③ボランティア活動人数（現在）・活動件数905件（軒）
活動人数7,900人（1）設置日●令和6年7月27日

	活動実績計	西荒瀬	観音寺	日向	大沢	内郷(竹田)	他地区
支援延件数	905	134	392	32	287	47	13
活動延人数	7,900	908	3,516	285	2,838	280	73

※令和6年11月1日以降の酒田市被災者生活支援・地域支え合いセンターでの活動実績を含む



※酒田支部青年部で災害支援ボランティア活動に参加。
強い日差しと蒸し暑さの中での活動は決して楽ではありませんでしたが…略…地域の一員として支えあうことの大切さを改めて実感する機会となりました。
（青年部にゆとんコメントより）

■まとめ

今回の災害を通して、被害が局地的かつ不均一に発生するため、全体の状況を把握することの難しさを実感しました。被害の大きい地域のすぐ隣では通常どおりの生活が続いており、「自分は無事だったけれど、何をすればよいかわからなかった」「何もしないまま時間が過ぎてしまった」といった声もありました。

また、報告をまとめる中で見えてきたのは、被害状況の写真が残されておらず、支援申請に時間がかかるケースがあったという課題です。特に水害では、水が引くとすぐに泥出しやごみ出しが始まり、原状を記録する前に片付けが進んでしまうため、写真を残すのが難しい状況になります。その結果、被害申請や手続きに時間を要し、支援が届くまでの遅れが被災者の負担を長引かせてしまうことにつながっているのではないかと感じました。

こうした経験から、災害の記憶が新しいうちにできる備えを行い、また起こる可能性に備えておくことが重要だと感じています。中でも、初動の段階から被害を記録し、申請を補助できる「迅速で組織的な支援体制」の構築が不可欠です。

建築士として、何ができるかを考え、個人ではなく組織として動けるしくみを、平時から整えておくことの必要性を強く実感しました。

『令和6年能登半島地震』 令和6年1月1日

令和6年7月の全国女性建築士連絡協議会にて被災地報告後、数名で現地視察(令和6年7月28日)

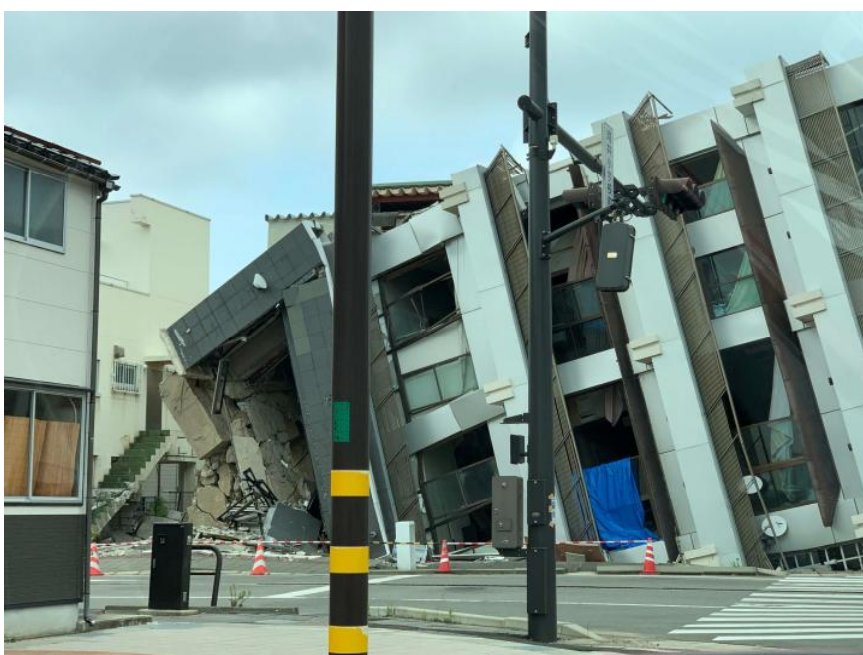


途中の道路も仮復旧した状態で蛇行、傾斜、通常ではありえないほどの勾配でのぼる道路がありアスファルトの亀裂も多数ある状態。

能登へは応急危険度判定、住宅相談や被災度区分判定など、支援目的で向かうことが多く、広く状況を見て廻ることがなかったため、今の状況を目で見ておくべきという声があがり希望者のみで視察に行くことになった。



輪島朝市通り 木造の上屋などは撤去され、鉄骨や基礎のコンクリートが残る風景。



輪島市 7階建のビルの転倒

地震後の状況のまま、隣の木造家屋が押つぶれている。裏通りも倒壊、傾いた家屋が多く、道路に瓦屋根が落ちていて、車では通れないところもある。カメラを向けることも気がひける光景で、地震後半年以上経過したとは思えない状況であった。

実際に見るとあまりに甚大で広域な被害状況に驚いた。住民は避難所にいるからか、町は閑散として業者の車ばかりが走っている。地震から半年経過しても解体すら着手したばかりのような状況。



珠洲市 倒壊した家屋の黒瓦屋根が地面を覆う風景が何棟も続く

応急仮設住宅

応急仮設住宅の建設が進んでいた。仮設住宅の形状・仕様は様々で、住環境としては厳しいと感じるものもあった。

令和6年12月末で 159か所で応急仮設住宅が完成している。



保育園の敷地に建てられた応急仮設住宅



車両専用道路脇に建てられた応急仮設住宅



周辺道路より低い敷地で大規模の応急仮設住宅



海沿いに建てられた応急仮設住宅

『令和6年奥能登豪雨』 令和6年9月21日

能登半島地震から9か月。地震で地盤が緩み、護岸が崩れたり道路が沈下している能登に近年各地でおこる豪雨の予報。
地震被害で大変だった七尾市のメンバーから「今日の大雨の報道を見ていると心配で泣けてきます。こちらは今のところ大丈夫なようですが。今晚ですね」とメールがあった。
不安な気持ちが痛いほど伝わってきた。



石川県HPより

令和6年奥能登豪雨による被害等の状況について



【第54報 令和7年4月30日（水）14時00分現在】

被害の状況（人的・建物被害）

市町名	人的被害(人)					住家被害(棟)						非住家被害(棟)	
	死者	行方不明者	負傷者		小計	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	小計	公共建物	その他
			重傷	軽傷									
七尾市										4	4		
輪島市	11		1	34	46	68	586	67	54	444	1219	18	408
珠洲市	3			9	12	14	64	11	18	230	337	調査中	128
内灘町										1	1		
志賀町													
穴水町													2
能登町	2		1	2	5		6	74		218	298		19
計	16		2	45	63	82	656	152	72	897	1859	18	557

※ 非住家被害については半壊以上のみ記載

石川県HPより

奥能登豪雨は、輪島市、珠洲市、能登町で再び甚大な被害を起こした。地震で傾いた家に土砂が流れ込み、倒壊、1階が土砂で埋まるなど、またも大きな被害が発生。
土砂をかき出すにも、重機がなかなか届かないといった状況で「なんで能登ばかり」という声。



未だ傾いたり、危険の判定の赤札がついた家屋が立ち並ぶ門前総持寺前通りで地域の商店の仮設店舗のイベントに参加させて頂いた。
家屋が倒壊している横で屋台が出て、傾いている建物の横をチンドン屋が歌いながら廻る。
土地への愛着やこれからここで暮らしてゆく覚悟、少しづつでも元の生活に戻すんだという逞しさを感じた。

現在の状況

能登半島地震による応急仮設住宅は令和6年12月末までに6882戸が建てられ、能登半島豪雨による応急仮設住宅も令和7年4月にすべて建設が完了

公費解体は順次進み、地震で寸断された奥能登までの道路も応急的に通れるよう敷設されたので大変な状態であったが少しずつ改善されている。

輪島の朝市通りは3月に全て解体完了し、更地になった。

和倉温泉は、護岸工事に着手、全ての旅館ではないが、建替えの計画が進んでいる。

復旧へと一歩進む動きもある中で、どうしようもないと傾いた家に暮らし続ける人も多い。職人の人手不足、建設費の高騰、能登での工事の不便性で工事の目途がつかない。

新築を依頼しても3年待ちと言われるとも聞いている。

地震の被害を受けた状況から、ほとんど変わっていない地域もあるが、ひとまず一旦落ち着いた。という状況

恒久的に住むための能登復興公営住宅が来年から着工予定

幻(仮)の『第1回 福島県建築士のつどい』をやってみた。

令和6年度、福島県建築士会では初となる、女性委員会と青年委員会の合同による「つどい」を下記により実施しました。

【大会テーマ】「福幸～私たちが描く未来」

【日 時】令和6年9月21日(土)14:00～(受付13:30～)

【会 場】Jヴィレッジ コンベンションホール(楡葉町)

【参加人数】来賓15名、青年委員43名、女性委員21名

【プログラム】基調講演、各支部活動報告、記念写真撮影～つどい終了後に合同懇親会



題して、『第1回 福島県建築士のつどい』—青年委員会 第39回「青年の集い」および女性委員会 第35回「女性建築士のつどい」の合同開催です。

この合同開催に至った背景には、近年顕在化している会員の減少や高齢化といった様々な課題があり、つどいの開催自体も危ぶまれる中で、「いっそのこと一緒に開催してはどうか」という声の一部が上がっていました。

ちょうどそのような時期に、両委員会のつどいの開催予定地が偶然にも同じ地域となったため、「やってみなければわからない」と強行突破での合同開催に踏み切りました。

紆余曲折の末、女性委員会主導で準備を進め、いよいよ本番へ。結果として、それぞれの委員会で開催形式が異なっていたこともあり、互いの進行方法や工夫を知る良い学びの場となりました。

多少の戸惑いはありませんでしたが、大きな問題もなく、つどいは無事に終了しました。

青年委員会に所属する女性委員からは、「一度の参加で済むので効率的で良い」といった肯定的な声もありました。懇親会も合同で実施したことで、「女性だけで気楽に楽しむのも良いが、他支部の青年委員と交流できたのが楽しかった」との意見も聞かれました。





【エクスカーショ】令和6年9月20日(金)10:00～

◆ 大熊町立 学び舎ゆめの森 ◆

大熊町は2011年に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故を受け、町全域が警戒区域となり避難生活を余儀なくされていましたが、避難指示の解除により2023年4月に「大熊町立 学び舎ゆめの森」を開校しました。

この学校の特徴は児童生徒一人ひとりの力や個性を最大限伸ばしていき、0歳から15歳までの子供たちがともに協働して1つの空間で遊び、学ぶというインクルーシブな学び舎だということだそうです。案内をしていただきながら、校内を見学したのですが、従来の典型的な学校をイメージしていると驚きの連続で、校舎の中央に位置する吹抜の「本の広場」の廻りに各エリアが配置されており、その中央に立つと360°の視界と吹抜で解放感は抜群でした。



◆ 東京電力 福島第一原子力発電所 ◆

昼食後、東京電力廃炉資料館で厳重なセキュリティチェックを受けた後、概要説明、東京電力の職員の方から事故の謝罪、そして震災と事故を振り返る映像の視聴がありました。

その後、線量計を身に着けるためのベストを着用し、電子機器や撮影機材の持込は不可の為、カメラ・携帯・バック類はロッカーに入れてから専用バスで福島第一原子力発電所に移動しました。

構内に入ってから放射線量はとても高く、決められたルートのみでの走行です。

説明を受けながら、車窓からはアルプス処理水の装置を眺めながら、目的地の1～4号機を見渡せるデッキに到着しました。

目の前に広がる建屋は想像よりもはるかに大きく、静かにそびえ立っていました。

構内は写真撮影が不可なので、東京電力さんより提供頂いた写真のみ紹介しています。

専用バスにてスクリーニング会場へ移動し廃炉の現状とアルプス処理水の説明をお聞きしました。

1号機、2号機、3号機には燃料デブリがあり、私たちが見学に訪れた時は、まさに「最初の取り出しを行ったがカメラが故障をした」という報道があった時でした。何よりも喫緊の課題が燃料デブリの取り出しなので、取り出せること、そしてこの未知の物体の解明ができないと廃炉の作業が進められないという説明をお聞きして見学終了になりました。

◆ BAUM HOUSE YONOMORI ◆

このお店は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の後、現福島県建築士会会長の遠藤一善さんが立ち上げたバウムクーヘン専門店、富岡町産のブランド米「天のつぶ」を100%使用した米粉のバウムクーヘンを製造・販売しています。

地元の食材を使って地域経済を活性化させるだけでなく、安全・安心な食品を届けるという使命も果たしています。

震災後、富岡町は多くの人が避難し、町の姿も大きく変わりました。そんな中で遠藤さんは、「地域に賑わいを取り戻したい」「富岡町の特産品を作りたい」という強い想いをもち、行動に移しました。

店名にある「夜ノ森」は、地元で有名な桜の名所です。その桜のように、人々に笑顔と希望を届ける存在になりたいという想いが込められています。

実はこのお店、震災前までは歯医者さんだった建物をリフォームして活用しています。ただのお菓子屋さんではなく、「復興の象徴」として、多くの人に足を運んでもらいたい。そんな願いが込められたお店です。



◆ YONOMORI DENIM ◆

このお店は、震災を経験したからこそ生まれた、新しい価値を創造する場所です。

2011年の震災でバラバラになってしまった人々を、もう一度「デニム」でつなぎ直そうという想いから始まりました。

店内に入ると、まず驚くのが、山のように積まれた使い古されたデニムたち。外にあるコンテナボックスに詰め込まれてきたその多くは、もともと廃棄される予定だったもので、まさに“捨てられるはずの命”が、ここで手作業によって再び生き返るのです。

この場所は、ただの洋服屋ではありません。

誰もいなくなった夜ノ森で私たちは気づかされたのです。人間の「衣食住」が実は環境を壊していたことを。震災後、「こんなところで本当に生活できるのか」「子育てしても大丈夫なのか」と多くの不安の声がありました。しかし、今はまったく問題ない線量で日常が送れています。

だからこそ、私たちは「だいじょうぶだよ」と安心して伝える役割を担っています。非日常の中で日常を続ける。私たちの大切な役目です。

YONOMORI DENIMは、震災の記憶をただ語り継ぐだけでなく、「過去と未来をつなぐ拠点」として、今を生きる人々の希望にもなっています。





◆ 一般社団法人とみおかワインドメニュー ◆

代表の遠藤秀文さんは、富岡町で生まれ育ち、2011年3月11日に新築したばかりの自宅を津波で失い、その翌日には原発事故によって町全域に避難指示が出され、町は人の姿を失いました。

2016年、彼は高台にある土地に約400本のブドウの苗を植えました。そこは、最初にワイン用ブドウを育て、収穫した特別な場所であり、植えられたブドウの木の本数はもう少しで1万6000本になります。これは、震災前の富岡町の人口と同じ数です。海岸沿いの津波被害で塩害を受けた土地にも、地元の人々やボランティアとともに苗を植え続けてきました。

その歩みの中で、ブドウの木は根を張り、この土地に新たな命の風景をつくり出していったのです。

これまでは収穫したブドウを町外で醸造していましたが、ついに2025年4月、富岡駅の東側、海岸線から150メートルの場所に、「とみおかワイナリー」が誕生しました。

この場所には、津波に唯一耐えた“蔵”があり、その場所に、醸造所とレストランとショップが生まれ、地域の新たなシンボルとなっています。

ワインづくりは単なる産業復興ではなく、土地を再び愛するための文化的営みであり、人々の心を再びつなぐ手段でもあります。とみおかワインドメニューの歩みは、震災を記憶し、復興を感じる拠点になっています。



【フィールドワーク】令和6年9月21日(土)8:45～

◆ 東日本大震災・原子力災害伝承館 ◆

この「フィールドワーク」は、東日本大震災・原子力災害伝承館で行われている研修プログラムのひとつで、原発の見学とセットになっています。

あいにくの雨模様でしたが、震災以降、活動を続ける語り部さん達の活動を垣間見る事ができ、解説を聞きながら周辺地域を周る事ができたおかげで、少しずつでも着実に復興一福幸(ふっこう)に向かって歩んでいる事を実感する事ができました。

今回の「つどい」合同開催では、終了後に多くの課題も見えましたが、実際に開催してみて得られた気づきも多く、「やってみなければわからない」という言葉の重みを実感した次第です。

しかしながら、強行開催であったこともあり、「やはりつどいは合同でも、親睦会は別がよい」「女性だけの開催の方が気楽で楽しい」といった反対意見も上がりました。

そのため、今年度は合同打合せの時間的余裕も加味し、つどいは青年・女性別々に開催される予定です。

この合同開催が一過性の「幻」に終わるのか、それとも新たなスタイルとして発展していくのかは、今後の議論に委ねられています。

阪神・淡路大震災から30年～建築士会活動と一建築士として～

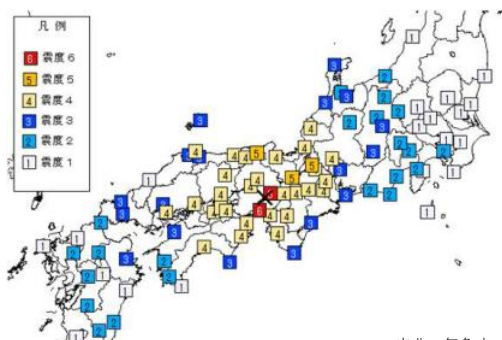
(公社) 兵庫県建築士会／女性委員会 山本和代

阪神・淡路大震災から30年が経ちました。これまでに被災地では長年の多様な活動があり、全てをここでは語りつくせませんが、建築士会での主な活動や最近の動きを紹介するとともに、一建築士として関わってきたことを中心にお伝えしたいと思います。

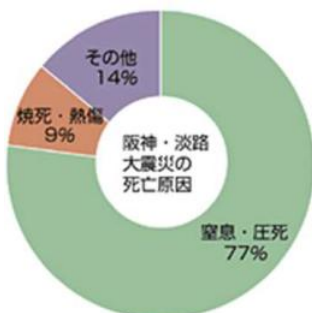
1. 阪神・淡路大震災の概要

震源地	淡路島北部
震源の深さ	16km
規模	マグニチュード7.3
発生時刻	午前5時46分

1995（平成7）年1月17日（火）午前5時46分、兵庫県南部地震が発生しました。国内史上初の震度7が観測された都市直下型地震でした。神戸市須磨区から芦屋、西宮、宝塚へと続くエリアで、おおむね30パーセント以上の家屋の倒壊があった地域が震度7と定義されました。



出典：気象庁



出典：「阪神淡路大震災の経験に学ぶ」
近畿地方整備局

関連死を含めた死者が6434人、住宅被害が約64万棟。死因の77%が「窒息・圧死」ということは、建築に関係していることを意味します。仮設住宅や公営住宅の入居が抽選で行われたため、コミュニティの分断という課題も見られました。

2. 建築士会での主な取り組み

■阪神・淡路大震災 30周年記念事業 シンポジウム 震災対応新時代へ 全国の地震災害から学んだ教訓の警鐘と発信

- 第1部の記念講演会では神戸大学名誉教授の室崎益輝氏を迎え、大震災の全体像、教訓や課題について話していただきました。
- 第2部では、宮城、石川、熊本、兵庫の各建築士会の方々に登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。

■災害対策委員会

- 2023（令和5）年10月に特別委員会として設立。2024年度からは専門委員会の一つとなりました。初期の目標として、「平常時の防災及び発災時に組織的に対応する」ためのネットワークづくりを進める、ということ掲げています。

- 平常時：「普段づきあい」活動、「事前の備え」活動
- 発災時：「組織体制の再構築」・「広域災害対策」
- 発災後：「被災者・被災建物の支援」活動

主催 公益社団法人 兵庫県建築士会
阪神・淡路大震災 30 年記念事業
震災対応新時代へ
全国の地震災害から
学んだ教訓の継承と発信
いつどこで大規模地震が起こるかわからない今、
これからの備えについて一緒に考えてみませんか。

宮城県 石巻市
熊本県 熊本市
兵庫県 神戸市
石川県 能登半島

令和 7 年 1 月 25 日(土) 13:00～17:20 受付 12:30～
会場:こうべまちづくり会館 2 階ホール 兵庫県神戸市中央区元町 4 丁目 2-14
参加費:無料 定員:会場 90 名・WEB110 名(先着順) 定員を超えた場合は参加を
お断りする場合がございます。

第 1 部 13:00～ 記念講演会
講師 室崎 益輝 氏
神戸大学名誉教授、防災学、都市計画学、建築学、都市工学の各分野で活躍中。阪神・淡路大震災の被災地を視察し、被災者の生活支援に尽力。著書『震災から学ぶ防災』など。

第 2 部 13:00～ パネルディスカッション
震災対応新時代へ
～全国の地震災害から学んだ教訓の継承と発信～
パネリスト
宮崎 清志 氏 室崎 益輝 氏
宮城 小川 健吾 氏 石川 龍一 氏
石川 龍一 氏 熊本 龍一 氏
熊本 龍一 氏 兵庫 龍一 氏
兵庫 龍一 氏 石川 龍一 氏
石川 龍一 氏 宮崎 清志 氏
宮崎 清志 氏 室崎 益輝 氏



■兵庫県ヘリテージマネージャー養成講習会

- ・阪神・淡路大震災の教訓から、1996（平成8）年に文化財保護法が改正され文化財の裾野を広げる登録文化財制度が創設されました。兵庫県ではその制度を支える人材が必要と考え、2001年度に教育委員会と建築士会が連携して「兵庫県ヘリテージマネージャー養成講習会」を開講しました。
- ・2012（平成24）年、（公社）日本建築士会連合会は、全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会が設立されました。

■女性委員会

- 女性部会：会勢強化と情報発信
- 研究部会：自主的な研究研修
- 普及啓発部会：市民向け普及啓発
- ・兵庫県は日本海と瀬戸内海に面した南北に長い地域であるため、女性委員会の定期会議はオンラインが中心ですが、年1回は懇親会を開催し、楽しい会を心掛けて活動しています。市民向け講座では「住まいの防災 台風や地震にどう立ち向かう？～誰にもでもできる事前の備え・インテリア～」（2020年）を開催しました。



18期最終講義後の集合写真



旧甲子園ホテル見学会

3.一建築士として関わってきたこと

仕事や、復興関連の様々な団体や専門家とのつながりを通じて、活動してきたことを紹介します。

■フェニーチェ魚崎（阪神魚崎市場再建事業）

- ・きっかけは魚崎小学校グラウンドで行った相談会。関西建築家ボランティア 魚崎まちづくり支援研究会で相談を受けました。
- ・被災した市場借地権者の共同再建組合による自力事業。弁護士、税理士等の協力を得ながら、共同化コンサルタントとして関わりました。

神戸市東灘区
構造規模：RC5階建て
竣工年：1999（平成11）年3月
事業主：共同建設組合
戸数：12戸 店舗2戸



フェニーチェ魚崎

■ココライフ魚崎（コレクティブハウス）

- ・公園にあった高齢者・障害者向け仮設住宅の入居者が「一緒に暮らし続けたい」と希望し、当時生活援助員の方が中心となり、中間支援団体や建築士らと一緒に実現しました。
- ・1階はグループハウスと交流室・食事室など、2～4階はコレクティブハウスを計画。高齢者の自立と支援、地域との交流を、地元NPOが運営する新しい居住形態の集合住宅となっています。

神戸市東灘区
構造規模：RC造4階建
竣工年：1999（平成11）12月
事業主：魚崎北町コレクティブハウス共同建設組合
戸数：コレクティブハウス 7戸
グループハウス 4戸



ココライフ魚崎

■阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワークと若手ネット

- 震災前より主に神戸のまちづくりに何らかの関わりのあった都市計画家、建築家、大学研究者らのネットワーク。連絡会議の定期開催、ニュースの発行、まちづくり協議会の情報共有、各種シンポジウムの開催等が行われました。
- 当時20~30代メンバーらが集まり、若手ネットと称して様々な活動を行いました。

■住吉呉田まちづくりの会（まちづくり協議会）

- 震災の翌年1996（平成8）年に今後のまちを考えていくため準備会を立ち上げ、1997（平成9）年にまちづくり協議会を発足しました。まちづくりコンサルタント派遣制度を利用し、まちづくり構想の策定、会議運営やニュース発行等の支援を行いました。

■神戸まちづくりワークショップ研究会

- 震災直後から、神戸市内各地でWSを用いた住民参加の計画づくりが進められました。2002（平成14）年、WSが適切に使われ、技術を磨いていけるように、有志が集まり設立。勉強会では報告をはじめ、実施に向けての企画相談なども。2005年には、10年間の市内WSの記録を「WSの本」としてまとめました。

■神戸高校の校舎を考える会（保存活動）

- 保存活動は震災の前年の1994（平成6）年に始まりました。世話人会開催、会報誌発行12回、シンポジウム開催7回、見学会5回、要望書複数回提出などを経て、最も象徴的な玄関部分を残す「部分保存」ととなりました。2002（平成14）年改修竣工し、記録集を発行し活動を終えました。



住吉呉田まちづくりの会のわいわいまつり



公園の使い方WS



神戸高校正面玄関

4.これから～話し合うことと伝えること、そして動くこと

■能登支援

- 能登地震の被災地に、神戸まちづくり研究所の一員として赴いています。主に珠洲市でまちづくり協議会の設立支援等を行っています。また、神戸まちづくり研究所メンバーを中心に、毎月1回、能登地震支援会議を開催しています。

■こうべあいウィーク／能登カフェ

- 神戸まち研主催で毎年1月にこうべあいウィークを開催しています。
- 能登カフェ：こうべあいウィーク内での持ち込み企画として、能登カフェを企画し、開催しました。珠洲市内作業所から仕入れたコーヒーや能登塩を使った能登塩クッキーの提供、能登町の移住者の方とのオンライントークなどを行いました。



能登カフェチラシ



公民館での会議の様子



能登町の方とオンライントーク

6 分科会

A分科会 自分ごととして「避難所運営」を考える。
～避難所運営ゲーム（HUG）実施を通じて

B分科会 古民家復権作戦

C分科会 ちびっこ『ちょこっとプランニング』

D分科会 「介護保険制度における住宅改修の適正化に関する業務」について

E分科会 建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える
／林業木材産業との協働の中で

F分科会 建築士としての「防災」を今、考える

G分科会 伝統と未来をつなぐ古民家再生

A分科会プログラム

6

A

A分科会

■自分ごととして「避難所運営」を考える。

～避難所運営ゲーム(HUG)実施を通じて

■分科会の趣旨

近年、自然災害が頻発し、防災への関心がますます高まっています。しかし、いざ災害が発生したときに、適切な対応ができるかどうかは、日頃の意識と準備にかかっています。そのため、災害時の避難所運営をシミュレーションする「HUG（避難所運営ゲーム）」は、防災意識を高める有効なツールの一つとしてご存じだと思います。今一度「HUG（避難所運営ゲーム）」を通じて、「自分が動く」という意識を持ち防災力向上の機会となるよう企画しました。

■司会 吉田幸恵（北海道建築士会） アシスタント 後藤朋恵(北海道建築士会)

■コメンテーター 金子ゆかり(北海道建築士会)

北海道の東に位置する釧路市は昔から地震の多い地域と言われてきました。2011年に発生した東日本大震災時は人命には影響がなかったものの津波被害による経済的な損失は大きく、衝撃が走りました。そんな中、東北で大きな被害を被った方々のもとに駆け付けてボランティアをする事ができない歯がゆさから、大規模な地震や津波被害を受ける可能性のある地元のための活動をしたいと、2011年から建築士会釧路支部は釧路市と協働事業を開始。それが本格的な防災活動をスタートさせるきっかけとなりました。

沿岸地域町内会対象のDIG（災害図上訓練）を皮切りに、国の機関や港湾事業者とのBCP検討ワークショップ実施など、様々な事業を展開するうち更に深く防災に取り組みたいと防災士を取得して本業の一環としたほか、仕事以外でも防災に取り組みたいと思いと同じくする仲間と「チームくしろ防災女子」を結成。様々な組織と連携しながらワークショップ、防災運動会、講演会などを行う傍ら、北海道や市町村の防災委員などを務め地域防災力向上を目指しています。

■コメンテーター 安谷 潔美(鳥取県建築士会)

平成12年の鳥取県西部地震、平成28年の鳥取県中部地震の被災経験を活かし、「建築士として防災のために何ができるのか」を意識し、防災活動を身近に感じてもらえるようにと、防災ゲームのワークショップHUG（避難所運営ゲーム）、DIG（災害図上訓練）を実施しています。その活動が認められ、平成22年に鳥取県知事表彰を受賞しました。その後も継続的に活動を実施していることが評価され、鳥取県より推薦いただき、令和6年に防災担当大臣表彰を受賞しました。ワークショップの参加者には、ただのゲームで終わらず災害をより身近に感じられるように前半は地震、大雨や時事などを盛り込み、より具体的に災害をイメージしながらゲームを進められるように準備し、ワークショップ中は動画や効果音なども用い、楽しみながら参加できる工夫をしています。本日はHUG（ハグ）を実際に体験いただき、防災意識向上の一助としていただければ幸いです。

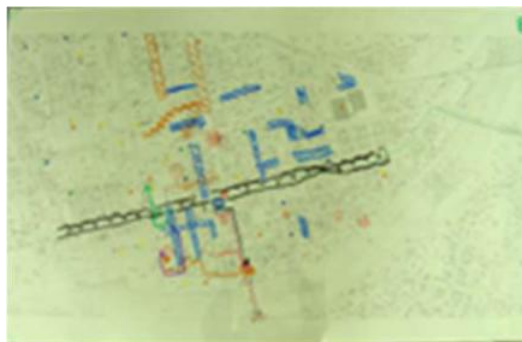
■分科会の進め方

1.進行説明 コメンテーター紹介	(05分)	9:00～ 9:05
2.コメンテーターによる活動報告	(20分)	9:35～ 9:55
3. HUG（避難所運営ゲーム）	(55分)	9:55～10:50
4.まとめ	(10分)	10:50～11:00

◇防災と北海道建築士会◇

北海道建築士会釧路支部では、東日本大震災をきっかけに防災に関する活動を活発化させましたが、北海道建築士会女性委員会も動き出していました。北海道大学から講師を招いてHUGの体験会を実施したり、備蓄食品の試食会をするなど活動を開始。

チームくしろ防災女子とのWeb懇談会などの企画を行うなど、外部組織と連携しながら活動を行っています。また、各支部での動きも活発で、札幌支部では「わたしの防災手帳」を発行するなど、内外に向けての啓発に力を注いでいます。



◇チームくしろ防災女子◇

チームくしろ防災女子が出来たのは1冊の本がきっかけでした。「女たちの避難所（板垣美雨 著）」をとある会で回し読みしたところ、その中のメンバーが「こんな避難所に行かなくてはならない事態になったら大変。自分で出来る事を始めたい」と防災団体を作る事を提案してきたのです。「女たちの避難所」は東日本大震災の実際にあった避難所をモデルにしている小説で、女性であるがゆえに遭遇する苦難と、それに立ち向かう女性たちの姿を描いた物語です。小説の中で繰り広げられる苦境を自分事として捉え、万が一の時、自分が困らないようにリーダーを育成するのではなく、まずは、きちんと意見を述べられ、互いを守る事ができる人材を増やす防災活動をしたいとチームを結成する事になりました。



◇心がけているのは外部との連携◇

結成した2021年、すぐに取り組んだのは「災害0次の持出品」作成です。避難所などへ持って行く「持出袋」を準備している方は多いと思いますが、常日頃からそれを持ち歩くわけにはいきません。重さが300グラム程度のいつもバッグに忍ばせておける防災ポーチを作ろうと事前に150名ほどの女性に持ち物についてのアンケートを実施し100個の試作品を作成。モニターに配布して意見を聞く以外に赤十字看護大学根本昌宏教授に助言を受けるなど専門家の意見も得て持出品を作成しました。



翌年2022年には、モニターのアンケートから「子育て中だと防災の知識を得難い」との声を受け、親子で参加できる防災ワークショップを開催。釧路市防災危機管理課の協力を得て、中心市街地の避難施設の備蓄状況を公開し、釧路教育大学酒井多加志教授を講師に親子に防災まち歩きのポイントを伝授。まちづくりのスペシャリストである建築士会と技術士会ともタイアップして事業を実施しました。また、東日本大震災で大きな被害のあった岩手県大槌町から「おらが大槌夢広場」理事でもある語り部を招聘し、体験談を語ってもらう講演会を開催しました。

2023年には同じく防災活動をしてる釧路市防災士ネットワークと防災授業に利用できる教材の開発を実施。忙しい教員でも予備知識なしで簡単に防災授業を行えるツールを作成しましたが、実際に普及させるための取り組みが課題となっています。2024年から2025年はツールの活用を促進する事、自らの学びを深める事、そして情報発信に力を入れ様々な団体との連携に努めているところです。



◇女性の視点の需要に驚き◇

近年、「女性の視点を活かす」「女性目線で」と言った言葉を多く目にします。チームくしろ防災女子はネーミングの効果もあってか、女性ならではの視点で防災について話をして欲しいとの要望が多く、中でも女性団体での防災講演依頼が多数を占めます。「女性目線の防災」としてのチームへの注目度は高く、前述の親子ワークショップ開催時にはNHKの密着取材もありました。ただ、女性の防災グループを理由としての注目は単純に喜びだけではなく複雑な気持ちにもなります。「女性の視点」を特別視しなくても良い世の中こそが私達の目標の一つでもあります。

残念なことにこれからの社会は自然災害だけでなくミサイルなどの脅威についても対策を講じる必要があるかもしれません。こうした世の中で性別に関わりなく、多くの人たちが手を携えて、苦境を乗り越えるためには防災・減災の備えだけでなく、平常時においてジェンダーレスな社会を構築し、如何に円滑にあらゆる連携ができるかが鍵になると考えます。互いを思いやる心を大切にして多くの人たちとより良い関係を築きながらこれからもチームくしろ防災女子は草の根的な防災的活動を継続して行きます。



◇こんにちは、鳥取県です◇

鳥取県は日本で一番人口の少ない県です。支部数は東部・中部・西部のたった3支部で活動をしています。建築士の絶対数が少ない県です。そんな小さい県ですが、他都道府県の皆さま同様に、建築に対する思いはあります。



◇活動のきっかけは 鳥取県西部地震◇

平成12年10月6日に起きた鳥取県西部地震は「震度6強」「マグニチュード7.3」とやや大きなものでしたが、人口が少ない山間部が中心だったこともあり、幸い死者はありませんでした。発災から11日後の10月27日に全国大会（とっとり大会）が予定されており、応急危険度判定を行いながら、大会準備を平行するという、とんでもない状況でした。全国大会内容は一部変更し、災害現場にバス数台で視察に行く事態になりました。そこで感じたこと、災害・防災は建築士の関心事の上位にあると。

被災経験を活かし、「建築士として防災のために何ができるのか」と、防災活動の展開の一助になるように活動をスタートしました。



◇鳥取県中部地震◇

平成23年の東日本大震災により、世間も防災・減災の意識が大きく変わりました。そんな中、平成28年の鳥取県中部地震「震度6弱」「マグニチュード6.6」が発生しました。中部で活動している私達の身近に感じる大きな震災。いっそう、防災意識が高まりました。



◇私たちの活動◇

防災、災害という言葉は、何となく固く敬遠されがちです。女性の私たちだからこそ、ハードルを下げて気軽にワークショップに参加いただいていると感じます。

ワークショップの内容はDIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）です。

普及対象は、小学生から、防災意識の高い自治体や防災士などと幅広く、様々なケースに対応できるよう、日ごろから情報収集を心がけています。ワークショップの参加者には、ただのゲームで終わらず災害をより身近に感じられるように前半は地震、大雨や時事などを盛り込み、より具体的に災害をイメージしながらゲームを進められるように準備し、ワークショップ中は動画や効果音なども用い、楽しみながら参加できる工夫をしています。

何度もワークショップを希望される団体もあり、時間や災害条件などテーマを変えて、毎回新しい学びを感じてもらう内容としています。また、使用する配置図は実際の学校の図面を用いて、参加者がよりイメージしやすいなど、企画（依頼）者の意向を考慮しています。

また、防災士を4名が取得しました（令和2年度）。



◇防災担当大臣表彰 おまけ◇

平成22年に防災活動が認められて、鳥取県知事表彰を受賞しました。その後も継続した活動が評価され、内閣府防災担当大臣に表彰いただきました。受賞者はほとんどが男性です。被災現場では女性や子ども、障がい者などの立場が弱い者の声が届きにくいのが現状です。しかし、それこそが大切にするべきことで、私たちは活動を継続する意義でもあると感じています。



B分科会プログラム

■テーマ 古民家復権作戦

■分科会の趣旨

30年前から高断熱高気密構造補強を施した古民家30数棟の設計監理をして作品は雑誌やTVで紹介され、日本建築学会東北支部にて顕彰もされました。うち6件が登録文化財になりました。冬でも暖かくなった古民家は次世代家族に引き継がれ、大切に住み続けてくださっています。

2000年に寒くない古民家集『古民家復権』を出版しました。後継の古民家作品集を2026年の出版を目指して編集作業に邁進しているところです。修理技術の伝承や技術者の養成に役立てようと出版した古民家の『修復工事報告書』は現在までに16冊を数えます。

阿部和建築文化研究所は4年余り前から、宮城県建築士会女性部会のご協力を得て、古民家の高断熱高気密補強の手法を中心に据えて「語ろう学ぼう木の建築講座」をZOOM配信しており、2025年7月で14回目を数え、これからも継続する覚悟です。この分科会をきっかけにどうぞご参加ください。

当分科会では、古民家の品格を損なう事なく、本来の美しさを取り戻した「寒くない古民家修復」をご理解のうえ、一人でも多くの方に取り組んでいただきたく、惜しみなく断熱気密の手法を開示します。加えて、実体験をもとに文化財登録までの多事多難も丸っとお伝えします。

■司 会 大泉 みどり（山形県建築士会）

■コメンテーター 安井 妙子様（阿部和建築文化研究所）

発表建物：白川郷合掌造り迎賓館「好々庵」（村営宿泊施設）

実際には見たことも無い茅葺合掌造りの高断熱高気密補強設計を引き受けてしまいました。いったいどうやったらいいのでしょうか。外観も内部も伝統的に仕上げるには、断熱材を挟み込むしかないか。伝統的建具の外側に、ガラスの雨戸を取り付けましょう、冬にコートを着こむように。宿泊施設なんだから排煙はどうしましょう。茅葺屋根って気密にならないしい、葺き替えはどうするの。すべてオリジナルの部材を考えて制作してもらわねばなりません。建築確認申請はだいじょうぶかしら。まあ何とかなるさと無鉄砲に設計に取り掛かったのです。

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00 ~ 9:05
2. コメンテーターによる報告	(60分)	9:05 ~ 10:05
3. 質疑・意見交換	(40分)	10:05 ~ 10:45
4. まとめ	(15分)	10:45 ~ 11:00

白川村合掌造迎賓館「好々庵」

『BE建築設備』2007年6月号32・33頁より転載



白川村合掌造迎賓館「好々庵」

岐阜県大野郡白川村宇島

村営迎賓館(公共宿泊施設)

延べ面積 197.09㎡ (一階 173.27㎡ 二層目23.8㎡)

■ さむい民家をあたたかい迎賓館へ

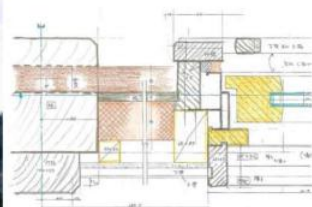
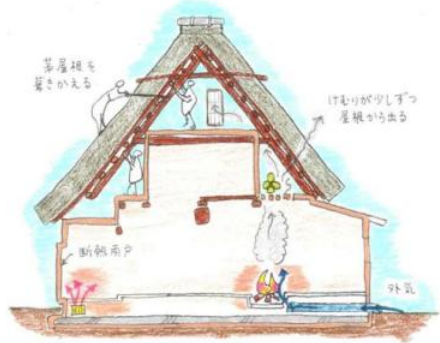
白川郷合掌造のふるさと、霊峰白山に源を持つ庄川上流の山の中にある。木々の色づきとともに、村人たちは冬のきびしい寒さと豪雪に備えはじめる。

白川村は、次世代省エネ基準では二番目にきびしいII地域に属する。伝統民家合掌造は、基本的に開口部は腰高障子、外壁は厚さ30ミリの板1枚で、屋外とあまり変わらない屋内環境であるため寒い。このため近年雨戸を付加する家々が増えた。

「合掌造迎賓館好々庵」は、白川村役場から庄川を渡り車で3分ほどの距離の島集落にある。島集落で最も古い宮部家を、村の迎賓館として活用できるよう復原整備を行なった。宮部家は、建物の構造形式や角釘を用いていることなどから推定して、江戸時代末期の建築と考えられる。復原整備にあたり、伝統的建築文化の外観、内部空間とも守った上で次世代省エネ基準に準拠した高性能であたたかい建築に変えた。



修復を待つ冬の旧宮部家



左図)伝統を生かす断熱気密ボックスのシステム図

写真)正面外観 ガラスのコートが消失し伝統的外観が保たれている

右図)ガラスのコート詳細図

■ 伝統を生かす断熱気密の仕掛け

断熱気密ボックス

屋根、壁、地盤で断熱気密補強をして暖かくしたい。しかし茅屋根の20年毎の葺き替えは必須。矛盾する要求を合掌組の二層目に「断熱気密ボックス」を置くという発想で茅屋根の葺き替えを可能にした。それは「ガラスボックス」でもある。一階の暖かい空間に居ながら、吹抜を通して合掌造りの構造を觀賞できる。ボックス内に上れば詳細に構造の勉強ができる。出入口をつけて合掌空間に出れば寒い空間の体験もできる。オペレーター付サッシを取り付け防災設備の排煙装置となった。

囲炉裏で薪を焚く仕掛け

しかも気密空間で。この要求には、床下で外気調和して直接囲炉裏付近に導き、煙は伝統的「ヒアマ」の直上に設置したダクトで「断熱気密ボックス」外側の換気扇にて、茅屋根を燻しながらゆっくりと出て行く仕組みで解決した。

■ 設備は黒子-存在を消す仕掛け

暖房パネル

好々庵は低温水放射暖房のパネルによる全室連続暖房で設計した。あるものは床下にもぐり、壁に張り付き、あるものは光を通す間仕切りとして存在する。存在すれども存在しない歌舞伎の黒子のように伝統的合掌造りの内部空間を物言わず暖める。

ガラスのコート(実用新案登録済)

白川村は山深く寒い。夏は暑い夜間は気温が下がり涼しい。伝統的外観を損なうことなく守り、夏は開放し冬は閉鎖する装置は無い。

そこで開放時には戸袋に入って視界から消滅するガラスの断熱雨戸を開発製作した。夏は開放してひんやりと、冬はガラスのコートに包まれて暖かく過ごせる。

■ 建築性能確保のための装置

断熱: イソシアヌレートフォームボード外張り断熱を基本とする。外壁の一部は2枚の壁板間に挟みこむ。合掌二層目の空間に断熱気密ボックスを考案。

気密: 気密シートを断熱材の内側に張巡らす。開口部: 木製断熱気密サッシ。正面に開放可能な雨戸型サッシを開発製作。

暖冷房: 床下から合掌内断熱ボックスまで一空間とし、低温水放射暖房のパネルを一階床及び床下に設置。冷房は設置していない。

換気: 外気は床下から取り込み、床下に設置した低温水放射暖房のパネルで外気調和して供給する第3種換気。炉の上部から、断熱気密上外部扱いとしている合掌二層、三層目の空間に排出する。

防災設備等: 宿泊施設としての延焼防止・排煙装置・避難誘導灯等の設備を法に従い設置した。

■ 文化財的価値を高める現状変更

合わせて詳細な痕跡調査の結果に基づき、増築部分を建築当初に復する、失われていたものを復原するなど、貴重な建築資料としての価値も高めた。

左)一階交流広間 あたたかい空間にしながら吹抜上部の断熱気密ボックスを介して伝統的合掌をみることができる。

右)二層アマ風除室 茅の葺き替えを可能にする断熱気密ボックス(ガラスボックス)



□審査講評

世界遺産である白川村への来訪者の宿泊所として、合掌造りの民家を改修した計画である。設計者はそれまで培ってきた東北地方での古民家再生の経験と技術を集結し、今回の応募作品への提案となった。構造のみならず室内環境の補強（冬場の快適性を重視）を行ない高断熱高気密による建築仕様や建具の開発と機械設備の適切なシステムを組み合わせ、高い性能をもたらすことに成功してい

る。また、民家の空間的特徴を温存し、小屋裏を見せて茅葺屋根の構造や空間の利用の仕方をさりげなく処理する等、来訪者に伝える語り部としての役割も付け加えることに努めている。こうした実例は日本の地理的要因と結びついた固有の文化や暮らしの魅力を改めて思い起こし、これからの環境や社会構造を作っていく上で貴重な資料となり財産となることと思う。

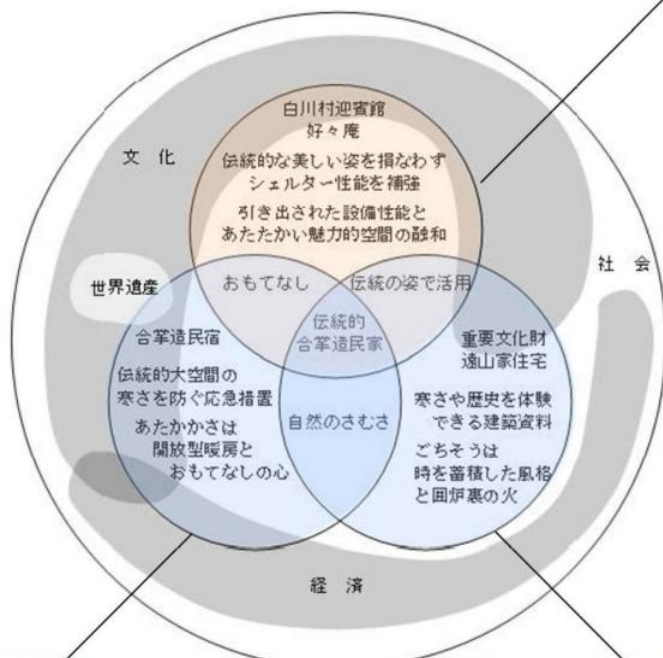
評者：審査委員 平倉 直子氏

■社会経済概念図

ここに同じ社会に属する伝統的合掌造民家三棟がある。

旧遠山家民俗館として活用されている国指定重要文化財 遠山家住宅、合掌造民宿、そして白川村迎賓館 好々庵。独自の性格で、経済や文化と異なる関わりを持ちながら、どこかで重なりあっている。社会の中での民家のあり方を比べることで、好々庵の性格を探る。

世界遺産に登録されている荻町集落内に在る合掌造民宿と重要文化財遠山家住宅は自然のさむさを受け止める。遠山家住宅と好々庵は内外共伝統的姿のまま活用されている。好々庵はあたたかい空間、合掌造民宿はあたたかい心で宿泊客をおもてなしする。建築と設備は別々の存在ではなく、お互いの性能を引き出し合うことで文化や経済社会における付加価値が生まれる。好々庵はそれが実現した。



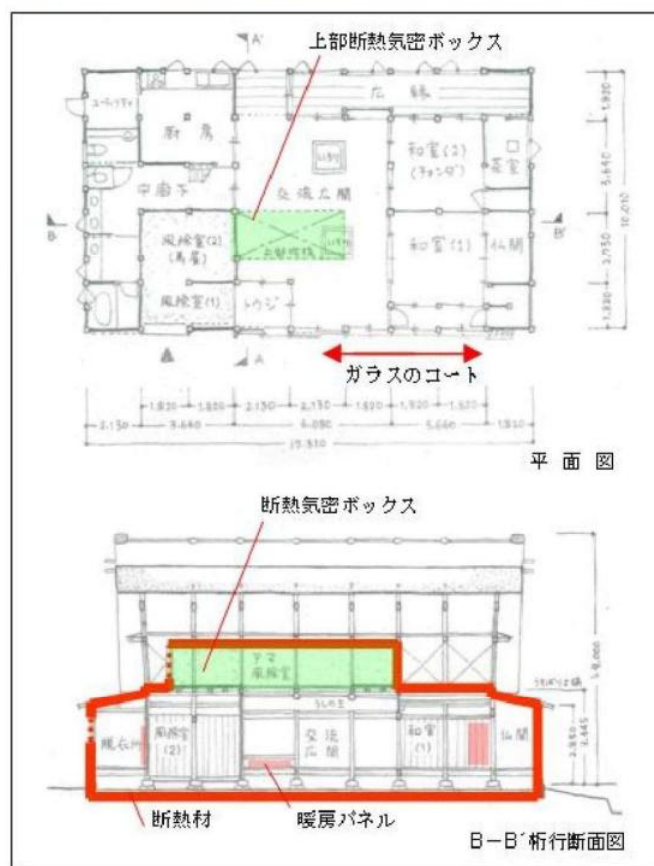
合掌造民宿



重要文化財 遠山家住宅



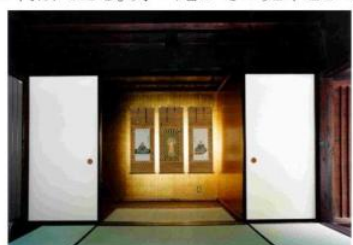
平成17年度10月から翌18年3月まで
連続暖房の灯油消費量は 1,580ℓ(8.7ℓ/日)
1,580ℓ × 36.7MJ/ℓ = 57,988MJ
57,988MJ ÷ 197.09㎡ = 294MJ/㎡ < 390MJ/㎡※
※次世代省エネ基準Ⅱ地域の年間冷暖房負荷



暖房パネルは光を通す間仕切り

■好々庵の可能性

好々庵は、合掌造民家の伝統を生かしながら性能を高めたはじめての成功例である。シェルター性能の補強は同じ量のエネルギーで何倍も大きな空間をあたたかくすることを可能にした。これからも白川村の合掌造を護っていく上で断熱気密化は不可欠と考える。100年先を見据えてどの方法を選択していくかは村民の判断である。好々庵がその見本として役に立つことを願ってやまない。



宿泊室より仏間をみる



好々庵で開催された省エネ住宅シンポジウム



暖房パネルは黒子としてたたく

C分科会プログラム

■テーマ　ちびっこ『ちょこっとプランニング』

■分科会の趣旨

横浜で開催された児童向け職業体験イベント「はまっこスクール」にて「建築士」という職業の紹介ブースを出展したことからスタートした「ちょこっとプランニング」。今年の秋には4回目を迎えます。近い将来進路を考える子供たちに「建築士」という職業を知ってもらうための種まきのような活動になればという思いで取り組んでおられます。限られた時間内で体験してもらうのは「建築士」という職務の中でも設計前段階「プランニング」の作業です。日々暮らしている空間と紙面での縮尺のリンクなど、配置計画だけでなく必要スペースなど想像力が必要となる作業に子供たちは何を戸惑うのか、途中で飽きてしまう児童はいたのか、など手法や実績、問題点について紹介し、共有していきたいと思います。

■司　会　萩原　香（群馬建築士会）　アシスタント　関　美和子（群馬建築士会）
石田　尚見（神奈川県建築士会）

■コメンテーター　安藤　めぐみ（神奈川県建築士会）

2000年　意匠建築+建築設備の2本柱としたアーバンクルー一級建築士事務所を設立
仕事が順調になるにつれ、生活のほとんどが仕事中心になっていることに危機感を覚え、12年前より建築士会活動に参加。全建女始め大会に参加する中で、多くの建築士の活動報告を聞き世界が広がり、女性委員長任期中に2027年全建女神奈川大会開催を誘致。委員会引き継ぎ後の現在は、皆様に喜んでいただける神奈川大会を成功させたいと日々奮闘中です。

今回の活動は、令和5年の全国大会青年地域実践活動発表会で本活動の発表したことから他県からも関心が高く、アレンジされた企画が他県で実施されたと報告を受けております。今回参加の皆様も是非本企画をお持ち帰りいただきお役だていただければ幸いです。

■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00～9:05
2. コメンテーターによる報告	(70分)	9:05～10:15
3. 休憩	(05分)	10:15～10:20
4. 質疑・意見交換	(30分)	10:20～10:50
5. まとめ	(10分)	10:50～11:00

ちびっこ『ちょこっとプランニング』

(一社) 神奈川県建築士会 安藤めぐみ

1. 「ちょこっとプランニング」という活動

会員減少局面に突入している現在、士会に入会している事で得られるメリットは何か、女性委員会が受け持つ事のできる範囲で貢献できるイベントとはどういうものか、女性委員長となった時から模索が始まっていました。そんな折、共に士会活動をしているメンバーの一人から地元商工会で開催される児童向け職業体験イベントに「建築士」を紹介する職業ブースを出展しないかと女性委員に連絡が入りました。会員向けのイベントを考えていた私にとって市民向けのイベントは思わぬ方向からの打診ではありましたが、委員会内では「将来の建築士が誕生するきっかけとなる」

「同行する家族にとっても建築士を知ってもらう良い機会となる」と前向きな意見が多く、それではやってみましょう、となったのが今から3年前です。

それからは有難いことに毎年依頼元が代わりながらも、他団体イベントの1ブースに出展するという形式でこの活動が続いております。去年開催した横浜市では、建築・土木に特化した子供向けイベントを今後も開催していくということで、士会からの継続的な参加をと要請されたところです。

もはや「ちょこっとプランニング」は神奈川県女性委員会の代名詞となるまでに至りました。

2. 「ちょこっとプランニング」の概要

建築士という職業は何をする者であるか一言では言い表せません。多くの人は家の設計を行っているのだと考えるでしょう。児童が時間内に身近な住まうという事を想像するのであれば、家具、動線、内壁や建具の配置あたりではないか、という事で、マンションという躯体を提供した中でのプランニング作業に絞りました。自身も子供の頃、不動産広告の間取りに鉛筆で家具の配置をする事を楽しんでいたと思い出し、将来の建築士誕生の予感に期待を膨らませました。



1 回目 横浜商工会
児童 約50名 参加



2 回目 大和商工会
児童 約50名 参加



3 回目 横浜市
児童 約70名 参加

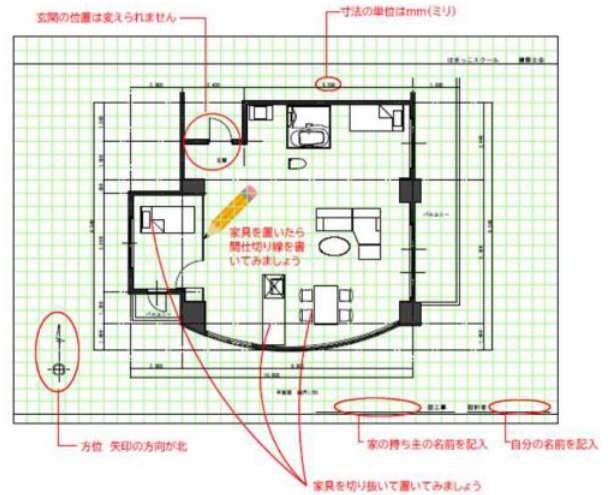
建築士のお仕事とは

1級建築士、2級建築士、木造建築士の国家資格を持った人を建築士といいます。
建築士はいろんな仕事があります。
例えば、
図面を描く設計の仕事。
家や学校を建てる工事施工の仕事。
土地や家を売る不動産の仕事。
トイレやキッチン、お風呂などを取り扱う仕事。
家具を作ったり販売する仕事。

このようないろんな建築士がいろんなところで活躍しています。



図面を描いてみましょう



今日体験してもらうこと

建築士のお仕事の中で、今日は設計のお仕事を体験してもらいます。

マンションの1室の間取りを自由に設計してみましょう。

- ・自分が将来住みたい家
- ・今の家族と一緒に住む家
- ・自分一人だけの自由な空間

などなど



必要なお部屋

住宅にはどんなお部屋が必要か考えてみましょう

- ・寝室 子ども部屋
- ・リビング(居間)
- ・ダイニング
- (食事をする部屋 居間と一緒にする場合もあります)
- ・キッチン
- ・洗面所
- ・お風呂
- ・洗面所
- ・トイレ
- ・クローゼット(収納)



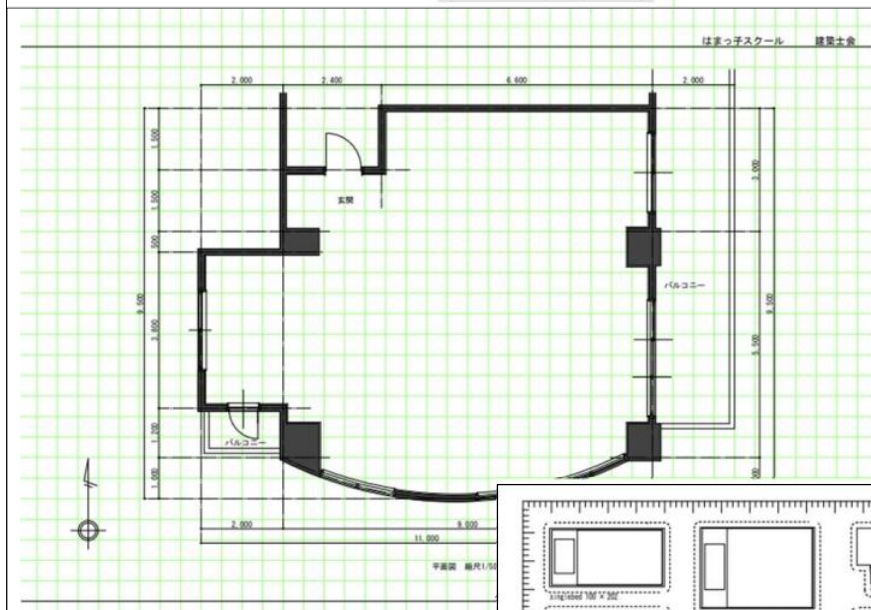
家具を置いて部屋の大きさを考えてみましょう。

「日当たりがよいところを自分の部屋にしたい」
「家族と過ごす居間は大きいほうがいい」
「トイレは二つあったほうがいいのか」

いろんなアイデアで自分の家を設計してみてください。

家具の配置が終わったら、定規を当てて間仕切り壁を書いていきましょう。

時間内に終わらなかったらおうちで続きを描いてみましょう。
設計で大事なことは考えることです。考えた時間の分だけ良いものが作れます。
頑張って設計していきましょう！

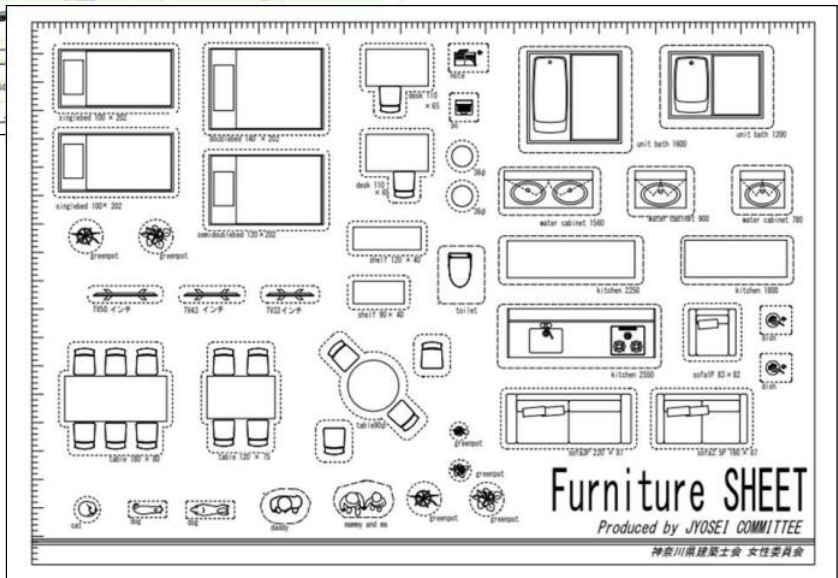


▲上 当日配布したテキスト
1,2回目まではマンションの配置
3回目は2階建ての戸建てに挑戦

◀左 配布用基本躯体図
厚紙に500mm方眼を印刷、当日
500mmはどのくらいであるか説明

配布用家具シール 右▶
漠然と時間が過ぎてしまわぬ様、基本モジュールでの家具シールを作成

子供はシールが好きだという発想から方眼付きの躯体図にシールでプランニングする事にしたが、念のため記載した切り取り点線の通りに切ることに夢中になる児童多数





3. 「ちょこっとプランニング」の実践

2024年に開催した横浜市主催でのイベントの状況です。当日は晴れ渡るイベント日和、横浜市庁舎1階アトリウムにて12ブースが出展する中、私達は45分コース全5回を開催しました。集客やサインパネルなどは横浜市によるもの。希望したデジタルサイネージには建築士会70周年の記念動画を放映し士会をアピール。前日に荷入れ、会場チェックを行うのみで当日は担当者集合後スタートです。

この前年度横浜市ではイベントの集客のため、数万枚のチラシを用意し横浜市立小学校全校全児童に配布したとのこと。そのため予想をはるかに超える市民が来場し煩雑になってしまったという反省を踏まえ、この年はSNSと抑えたチラシ数でのアピールに留め、加えて事前予約制を導入していました。結果としては大変盛況でした。

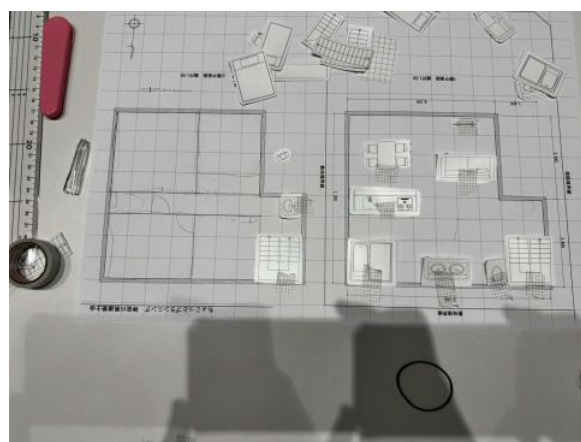
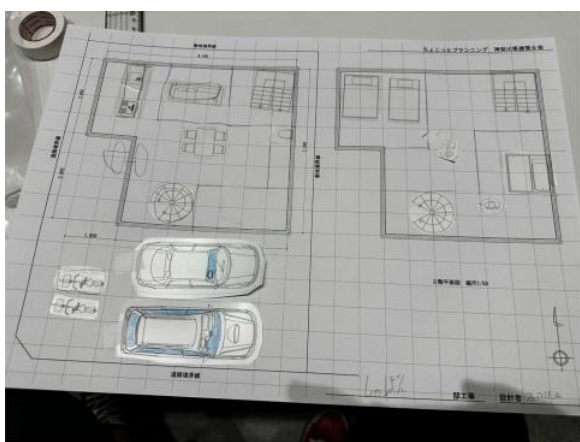
士会の単独イベントだと、どの様に告知をし、どこまで集客が望めるかも開催成功のカギになるところです。参加型イベントであることから集客の心配が要らないばかりか、会場費や大型サインパネル、そして出展費も全て無料というありがたい状況でした。

3回の活動を通して想定外であったのは、児童一人にかかるスタッフの数です。当初はアドバイザー1人につき2～4名程の児童を受け持つ事ができるのではないかと想定していましたが、創作の手を止めないためにはマンツーマンで進行していく必要がありました。毎回大人数のスタッフが必要になってしまうので、今後続けていくには“しくみ”の改善が必要だと感じています。



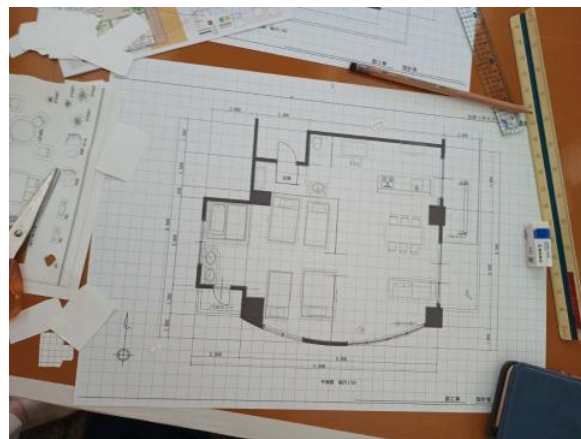
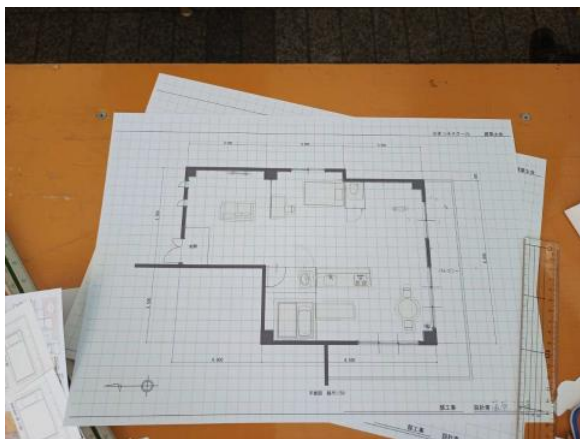
4. 「ちょこっとプランニング」の成果と課題

成果について、まず一つ目は児童各々の集中度合い、仕上げた理想の家についての達成感など参加側の結果です。時間が限られていますので途中で終了する子もありますが、作業が終わらなかっただけでプランニングを楽しめたかで成果が計れます。私が受け持った男児は家の前の駐車場の車の配置に多くの時間を費やしましたが、きらきらと光る目で車種の説明をしてくれるのを見て「成果有」と感じました。二つ目は主催者側の成果について。職業体験としての建築士を能動的に取り組んでもらうことはできたのか、何割かの児童の記憶に残ることは出来たのか、という事です。二階戸建てに挑戦した3回目については全体的に時間が足りなかったという問題がありました。想定躯体ボリュームについては対象年齢の違いや時間配分などを考慮し今後改善していきたいところです。



▲上 戸建て編 自転車の配置まで終了と2階未完成バージョン 問題点は時間配分

▼下 マンション編 角やアールのある躯体で変化をもたせる 凡その児童が終了



5. 「ちょこっとプランニング」の展望

全国大会青年地域実践活動発表会での発表では実施資料を配布したこともあり、千葉県、栃木県、新潟県、島根県がこの取組みをアレンジして行ったと聞きました。また令和6年新潟県で開催された、士会会員増強の取組みを考えるシンポジウムに参加し、活動の手応えなどを軸に県を跨いだ意見交換をさせて頂きました。その中で、「建築士」への種まきは高校生向けがより有効との意見がありましたので後日、「建築士の私たちができること学校教育における住居学」と題しまして、県立高等学校家庭科教職員を交え、学校教育の中で建築士が実践できる活動は何か、について考えるイベントを行いました。その内容も共有できればと思います。

D分科会プログラム

■テーマ 「介護保険における住宅改修の適正化に関する業務」について

■分科会の趣旨

岐阜県建築士会では、まちづくり委員会の福祉まちづくり部会が立ち上げた「福まち建築士」が5年前から3か所の保険者と「介護保険制度における住宅改修の適正化に関する業務」についての協定を結び活動をしています。

介護保険における住宅改修の適正化業務を遂行するには、制度の理解や担当者間の情報の共有が重要となります。私たちが工夫していることをお話したいと思います。

また介護保険における住宅改修はその地域の慣習や利用者の身体状況、住宅の状況により異なる「保険者判断」という特徴もあります。各地域から集まっているみなさんの「保険者判断」について情報交換したいと思います。

■司 会 長瀬 八州余（岐阜県建築士会） アシスタント 酒井 朋子（富山県建築士会）

■コメンテーター 下川 滝美（岐阜県建築士会） 福まち建築士

第一部 介護保険適正化事業の報告

- ・岐阜県における「介護保険制度における住宅改修適正化事業」について
- ・適正化業務を担当している方との情報の共有についての工夫
- ・毎回同じような指摘事項への対応「介護保険における住宅改修チェックリスト」について

■コメンテーター 高野 栄子（岐阜県建築士会） 福まち建築士

第二部 意見交換 保険者判断について

対象となる工事ならない工事、保険者判断の疑問などを情報交換

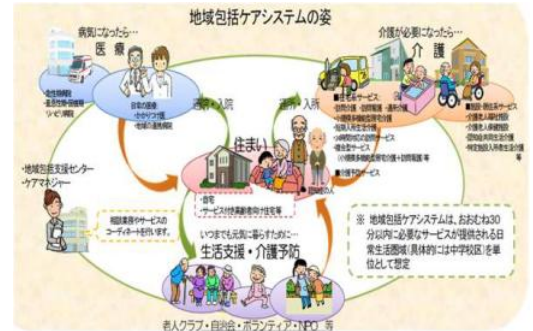
- ・諸経費ってどこまで対象？
- ・これは付帯工事に含まれますか？など

■分科会の進め方

1. 進行説明	(10分)	9:00～9:10
2. 第一部	(40分)	9:10～9:50
質疑応答	(10分)	9:50～10:00
3. 第二部	(50分)	10:00～10:50
4. まとめ	(10分)	10:50～11:00

■ 岐阜県建築士会「福祉まちづくり建築士」

平成28年連合会の福まち部会の誕生に合わせ岐阜県建築士会のまちづくり委員会の中に福まち部会を立ち上げました。地域包括ケアシステムの中、私たち建築士にできることはありますか？と県の高齢福祉課に相談に行くことからはじめました。「2025年問題を見据えた地域包括ケアシステムの真ん中にある住まい」住み慣れた地域、住まいで暮らし続けたい。でも身体にあっていない住まいに住んでいる方が多い。誰に相談したらいいかわからない。そのような現状の中、私たちに出来ることを探しました。福祉住環境コーディネーター2級程度の基礎知識があり、多職種と連携のできるやる気のある建築士。介護保険制度や疾病、福祉用具、介護保険における住宅改修についての研修もしました。平成30年4月「福まち建築士」として活動をはじめました。任期は3年ごとに更新。現在は新旧交代もあり34名で活動をしています。



■ 介護保険適正化事業への点検業務を依頼される

令和元年、県の高齢福祉課から介護保険適正化事業として住宅改修の点検に協力してもらえないかという話があり現在3保険者と連携協定を結び業務に携わっています。



■ 介護保険における住宅改修制度

厚労省資料より

介護保険における住宅改修

1 住宅改修の概要

在宅介護を重視し、高齢者の自立を支援する観点から、福祉用具導入の際必要となる段差の解消や手すりの設置などの住宅改修を、保険給付の対象としている。

住宅改修を行う際（＊）は、必要な書類（住宅改修が必要な理由書等）を添えて、事前に市町村へ申請書を提出し、工事完成後、領収書等を提出することにより、保険給付される。

（＊）やむを得ない事情がある場合には、工事完成後に申請も可能。

2 住宅改修の種類

- （１）手すりの取付け
- （２）段差の解消
- （３）滑りの防止及び移動の円滑化等のための床又は通路面の材料の変更
- （４）引き戸等への扉の取替え
- （５）洋式便器等への便器の取替え
- （６）その他前各号の住宅改修に付帯して必要となる住宅改修

3 支給限度基準額

生涯20万円（要支援、要介護区分にかかわらず定額）

- ・ 住宅改修が個人資産の形成につながる面があること、賃貸住宅等に居住する高齢者との均衡等を考慮。
- ・ 保険給付は原則9割（上限18万円）、所得に応じて8割（上限16万円）・7割（上限14万円）
- ・ 限度額の範囲内であれば、複数回の申請も可能。
- ・ 要介護状態区分が重くなったとき（三段階上昇時）、また、転居した場合は再度20万円までの支給限度基準額が設定される。

第一段階	第二段階	第三段階	第四段階	第五段階	第六段階
要支援1	要支援2・要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5

■住宅改修の適正化業務の流れ

介護保険における住宅改修の事前申請の書類審査における点検作業を委託されています。

住宅改修の流れ

手続きの流れ

ケアマネジャー等に相談

施工事業者の選択・見積もり依頼

市町村へ **工事前** に申請

市町村は内容を確認し、結果を教示

改修工事の施工→完成／施工業者へ支払

市町村へ **工事後** に改修費の支給申請

住宅改修費の支給額の決定・支給

事前申請時のポイント

- 利用者は、住宅改修の支給申請書類の一部を保険者へ提出
- 保険者は提出された書類等により、保険給付として適当な改修かどうかについて、事前に確認する。

提出書類

- ①支給申請書
- ②工事費見積り書(複数事業所からの見積もり提出を促進)
- ③住宅改修が必要な理由書(※)
- ④住宅改修後の完成予定の状態が分かるもの(日付入り写真又は住宅の間取り図など)

※理由書の作成者

介護支援専門員、地域包括支援センター担当職員、作業療法士、福祉住環境コーディネーター検定試験2級以上その他これに準ずる資格等を有する者

事後申請時のポイント

- 利用者は、工事後領収書等の費用発生の実状がわかる書類等を保険者へ提出→「正式な支給申請」が行われる。
- 保険者は、事前提出された書類との確認、適切な工事が行われたかどうかの確認を行い当該住宅改修費の支給を必要と認めた場合、住宅改修費を支給する。

提出書類

- ⑤住宅改修に要した費用に係る領収書
- ⑥工事費内訳書
- ⑦住宅改修の完成後の状態を確認できる書類(便所、浴室、廊下等の箇所ごとの改修前及び改修後それぞれの写真とし、原則として撮影日がわかるもの)、
- ⑧住宅の所有者の承諾書(住宅改修した住宅の所有者が当該利用者でない場合)

※ただし、やむを得ない事情がある場合については、住宅改修が完了した後に、①及び③を提出することができる。

適正化業務
点検作業

介護保険の給付対象となる福祉用具及び住宅改修の取り扱いについてより抜粋

4 支援体制等の整備

(1) 支援体制の整備

住宅改修は、被保険者の心身の状況及び日常生活上の動線、住宅の状況、福祉用具の導入状況、家族構成、住宅改修の予算等を総合的に勘案することが必要であり、福祉用具と同様に個性が強いものである。また、ひとたび住宅改修を行うと、簡単に修正できるものではないことから、2の(1)で事前に提出される申請書又は書類により、当該申請に係る住宅改修が保険給付として適当なものかどうかを確認し、事前に被保険者に対して、その確認結果を教示するとともに、被保険者からの事前の相談に対し適切な助言等を行うことができるよう、市町村は、都道府県、関係機関、関係団体、居宅介護支援事業者等とも連携を図り、住宅改修に関する専門的知識及び経験を有する者等による支援体制を整備することが望ましい。

■参考資料

岐阜県建築士会
福まち建築士相談員派遣制度



もとす広域連合
住宅改修改修に関する様式等



介護保険における住宅改修
チェックリスト



■岐阜県における「介護保険制度における住宅改修適正化事業」について

岐阜県の保険者 33市町村 3 広域連合



もとす広域連合	人口 107,619	高齢化率 /42
本巣市	33,092	30.66 ⑳
瑞穂市	56,388	21.48 ㉔
北方町	18,139	24.72 ㉙

本巣市北部は山間部であり高齢化率が55%と過疎化も進んでいる。本巣市南部や北方町、瑞穂市は平野部で岐阜市や名古屋など市街地にも近い。瑞穂市は県内で最も高齢化率が低い。南北に長く気候風土など地域差による課題が多い。

揖斐広域連合	人口 64,930	高齢化率
揖斐川町	19,529	38.54 ㉑
池田町	23,360	29.64 ㉓
大野町	22,041	30.06 ㉒

揖斐は岐阜県の北西部に位置し森林面積は85.9%を占めている。平坦地域と山間地域の格差はかなり大きく、山間地域の冬季積雪は交通網を途絶えさせ、集落の孤立を招くこともある。高齢化率は、毎年伸びてきている。

関市	人口 85,537	高齢化率
関市	85,537	30.79 ㉖

関市は、合併によってできた市です。人口規模が大きい市中心部、農山村部で過疎化が進む西ウイング、東ウイングではその特徴（基幹産業、歴史や文化、気候、有している地域資源など）に大きな違いがある。

※○内数字は県内の高齢化率の順位（42市町村）

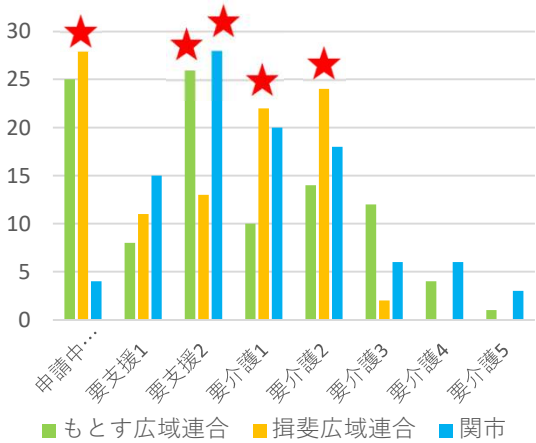
■令和6年度 介護保険における住宅改修適正化事業についてのまとめ（3保険者）

（建築士会で審査した分を対象）

1.申請の概要（令和6年4月～令和7年3月）（1回2時間程度）

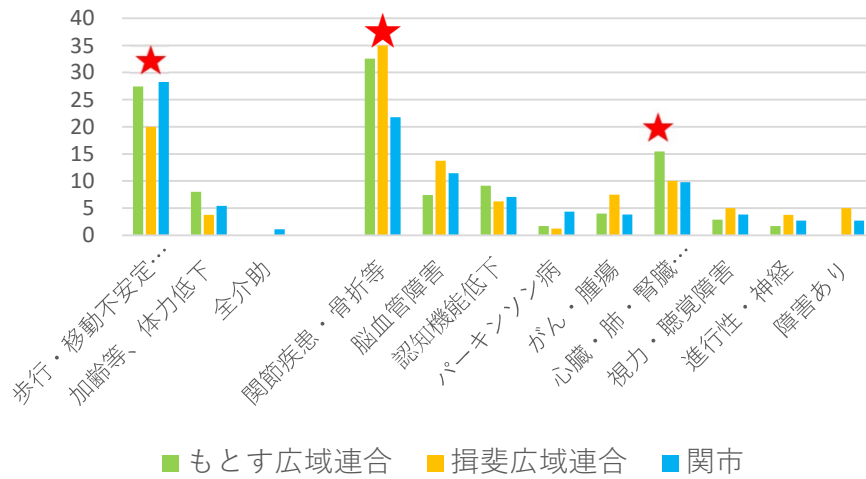
審査件数	もとす広域連合	112件	毎週（1名）	1回平均2.7件
	揖斐広域連合	54件	隔週（1名）	1回平均2.3件
	関市	90件	隔週（2名）	1回平均2.5件/人

2.介護の程度



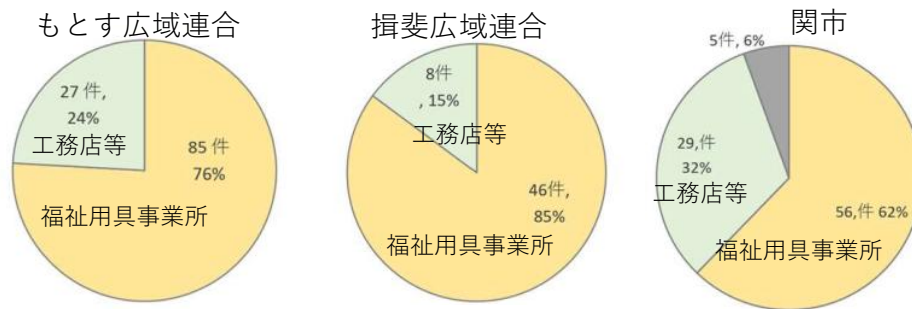
★介護が必要になることがきっかけや軽度のうちに住宅改修を申請することが多い

3. 疾病の割合



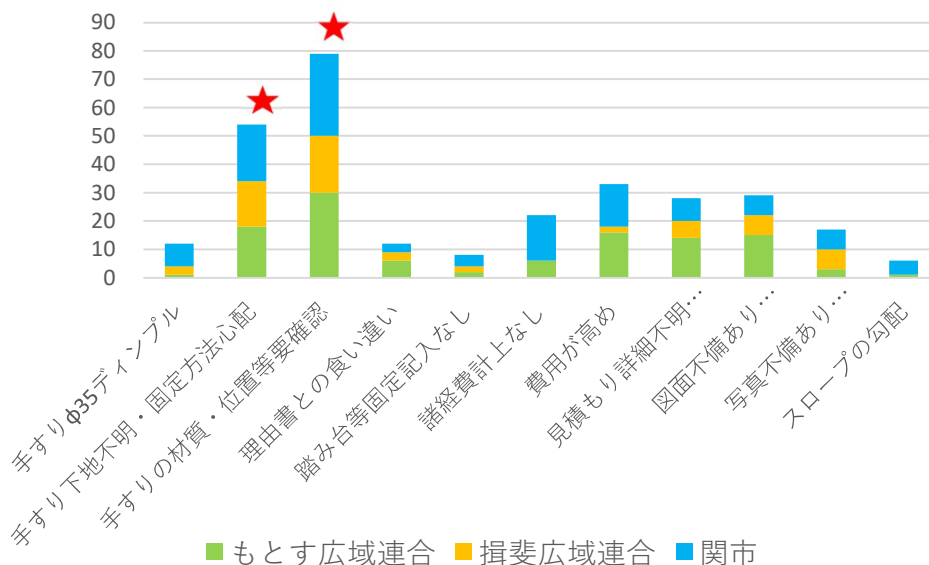
共通として
下肢筋力の低下により
歩行や移動に不安
があり住宅改修をする。
骨折や、関節の障害
の方が多い。
次が脳血管障害や内
部障害で認知機能の
低下も併発している
方が多い。

4. 申請業者の割合



福祉用具事業所の
申請が多い。また
申請の多い業者も
保険者により固定
されている。

5. 指摘事項の割合



手すりの下地が不明で
あったり屋外手すりな
どは固定方法が心配な
申請が多い。
また手すりの材質や径、
位置などを利用者と確
認することが多い。

■ 私たちの工夫 (内部の情報交換)

- 共通の報告書で情報を共有する。(メール)
- 回答が難しいときはラインやメールを利用する。
- 適正化業務意見交換会 (ZOOM)
毎月第3水曜日 30分程度
- 資料の作成 (福祉用具・疾病等)

介護保険制度における住宅改修の適正化に関する支援業務報告書 (もとす広域連合)

業務報告			○月○日
報告書作成者名	勤務時間	備考	
報告書作成者名	勤務時間		
審査件数	件数 (件)		
回答・再審件数	件数 (件)		

事例報告							※個人情報に配慮した上で報告します。		
事例番号		利用者の状況					施工業者		
もとす24000		部	才	性別	介護度	介護保険のみ		施工業者の職種	
報告書作成者名		改修に関わる疾患							
		生活の状況							
		介護の状況							
もとす広域連合の経緯									
意見・報告等									
事例番号		利用者の状況					施工業者		

■私たちの工夫（外部への働きかけ）

- ・ 介護保険における住宅改修チェックリストを作成
- ・ 保険者で企画される研修に講師やファシリテーターとして参加
- ・ 保険者からの相談への対応
- ・ 岐阜県介護研修センター 研修に協力
- ・ 県への報告等

介護保険における住宅改修 チェックリスト	目次
	
	全体について 1
	手すりの取付けについて 2
	段差の解消について 4
	共通 4
	ミニスロープ 5
	踏み台 5
	屋外スロープ 6
	屋外通路 6
	床材の変更について 7
	扉の改修について 8
	トイレの改修について 9
	共通 9
	手すりの取付け 10
	扉の変更 10
	便器の変更 11
	段差・床材 12
	その他 12
	浴室・洗面脱衣室の改修 13
	共通 13
	在来浴室からユニットバスへの変更 14



■意見交換会

- ① 各県の介護保険による住宅改修について 現状、報告、事例等意見発表
- ② 具体的な保険申請書での疑問点の検討（各保険者判断について）

【見積書について】

諸経費の割合、諸経費の内容、相見積の有無
トイレの間仕切り壁 撤去費用について
在来工法からユニットバスへの変更等金額の按分について
美観だと思われる舗装材や華美な手摺りなどの金額について

【理由書の内容について】

扉が重たくて開けにくい証明は
複数の出入口の改修についてその理由は
複数のトイレや浴室の改修について対象になるかどうか
屋外トイレから宅内トイレへの改修は対象になるかどうか

【各改修項目の内容について】

<手摺りの取付>

手すりに付属品がついている場合
階段手すりが危険だと思われる場合
家具への手すりの取り付けについて

<段差の解消>

床材変更に伴い断熱材を新たに追加する場合断熱材は保険の対象となるか
扉の改修に伴い干渉するものの扱い（スイッチやコンセントなど）

■今後に向けて

介護保険による住宅改修制度はひとたび行くと、簡単に修正できるもので無いため、専門的知識をもつ私たち建築士が適切な工事が行われるよう支援する必要があると思います。岐阜県内でもまだまだこれからですので、今後県下全域でこの事業が展開されるよう活動を進めていきたいと思っています。

E分科会プログラム

■テーマ 建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える／林業木材産業との協働の中で

■分科会の趣旨

建築士という資格についての知名度は高い一方で、実際の仕事(社会の中での役割)についての認知度は低いと感じる方も多いのでは無いでしょうか？でも建築士の仕事をわかりやすく説明するのは難しく、難しいながらも建築という社会への影響が大きい行為の理解につながる、大事な事だと思います。

そこで秋田市の金足農業高校にて行われた出前講座で「建築士の仕事」についてお話された経験のある須藤様と、木工製品を利用して木育活動をしている和歌山県建築士会女性委員会に活動報告をして頂き、建築士の基本的な役割を説明するポイントや方法について考えたいと思います。またコメンテーターのお二人と共に活動・ご協力頂いている林業木材産業の方にもゲストコメンテーターとして参加頂き、リアルな林業木材産業の情報を共有しお互いの仕事についての理解を深める機会にもしたいと思います。木育活動で利用している木工製品の組み立ても交えながら、皆でアイデアを出し合える楽しく有意義な分科会にしたいです。

■司 会 畠中 みか(和歌山県建築士会) アシスタント 松井 美香(和歌山県建築士会)
森 智佳代(和歌山県建築士会)

■発表① コメンテーター 須藤 亜紀(秋田県建築士会)

木材関連産業の活性化を目的として始まった「出前講座」で、農業高校の造園緑地科1年生に話す機会を得て、木造建築にからめて建築・土木の仕事について話しました。身近に起きた水害や地震災害の記憶が新しいうちに、災害復旧の状況等にも触れ、建築士を含めたこの業界の重要性を伝えたいと思っています。

■発表② コメンテーター 芦辺 留美、田上 順子(和歌山県建築士会女性委員会)

福井県建築士会女性委員会の開発した木の時間割キットを参考に、和歌山県産材を使った木のカレンダーキットを作成しました。これを利用して林業木材産業との協働で木育活動を行っています。この木育活動の中で建築士の役割をどのように伝えていくか現在模索中です。

■ゲストコメンテーター(林業木材産業) ※ZOOM出演

- ・能代木材産業連合会
(能代市技術開発センター・木の学校 佐々木 松夫様)
- ・わかやま木育キャラバン実行委員会
(株式会社山長商店 経営企画室 取締役企画部長 迫平 隆志様)

■分科会の進め方

- | | | | | |
|-------------------------------|-------|-------|---|-------|
| 1. 進行説明 | (05分) | 9:00 | ～ | 9:05 |
| 2. コメンテーター、林業木材産業による活動報告と意見交換 | (75分) | 9:05 | ～ | 10:20 |
| 3. 会場からの質疑応答、意見交換、まとめ | (20分) | 10:20 | ～ | 10:40 |
| 4. 木工製品の組み立て体験 | (20分) | 10:40 | ～ | 11:00 |

■ゲストコメンテーターの紹介①

● 能代木材産業連合会（能代市技術開発センター・木の学校 佐々木 松夫さん）

秋田県能代市在住、能代木材産業連合会 事務局長兼務

能代市から指定管理を受けて木産連が運営する、能代市技術開発センター・木の学校 所長

能代で木育を推進する会 事務局長

平成28年3月 能代市役所を定年退職

平成30年4月から現職

・ 能代木材産業連合会について

昭和41年6月、木材産業の振興と発展に寄与することを目的に、能代市内に所在する多くの木材関連団体や事業所等で組織する木材産業基幹団体として設立。現在までの60年近くに渡り、木材需要の拡大や林業・木材関連産業の振興を図るため、原木の安定確保と地域産材の利用拡大のための体制づくり、地域産材活用住宅の建築促進に加え、公共建築物や店舗・事務所等の木材利用拡大に取り組んでいる。

「木の部材や相談なら、全て能代で対応可能」をモットーに活動をしている。

< 能代木産連、能代市木の学校のHP >

<https://mokusanren.com/>

<https://kino-gakkou.com/>

・ 一般市民・県民への木工教室

「能代市木の学校」の指定管理者として、子供から大人まで幅広い年代を対象に、木工体験や木工教室を開催している。木工体験で使用する材料は、主に秋田スギを使用しており、秋田スギの香りや手触り等、木のぬくもりを感じながら木工の楽しさを普及している。

・ 県内高校への出前講座

県内の高校に対して、木材利用を普及するための出前講座を秋田県立大学木材高度加工研究所や山本地域振興局と連携して令和2年から継続的に行っており、これまで延べ17回開催している。



パンフレット「木都の木人」

製材会社の他に能代市内にある木に関する施設やお店を紹介している。

東洋一といわれた木都能代に関する説明もわかりやすく記載



出前講座



組子体験（組子制作）

■ゲストコメンテーターの紹介②

●わかやま木育キャラバン実行委員会

(株式会社山長商店 経営企画室 取締役企画部長 迫平 隆志さん)

和歌山県田辺市にある山林経営から製材、乾燥、プレカット加工までを一貫生産体制で行い、年間約1,000棟分の構造用木材製品を地域工務店へ届ける紀州産木材の老舗企業である株式会社山長商店に勤務。

2017年に結成した『わかやま木育キャラバン実行委員会』のメンバー。

<わかやま木育キャラバン実行委員会>

<https://www.facebook.com/wakayama.mokuiku/>

<山長商店>

<https://yamacho-net.co.jp/>

(木の国わかやま木育キャラバンについて)

<https://yamacho-net.co.jp/2024/09/post-2190/>

<東京おもちゃ美術館>

<https://art-play.or.jp/ttm/>

<オークヴィレッジ(株)>

<https://www.oakv.co.jp/>



・木の国わかやま木育キャラバンについて

【事業の目的】

未来の木材消費者である子どもたちに、木のおもちゃに触れる機会を作り、子どもや子育て世代の木への関心を高めることを目的に「わかやま木育キャラバン」を開催する。本事業では、「紀の国わかやまを再び『木の国』に!!」をキャッチフレーズに、木が好きな人を育てる活動「木育」を通じて、紀州材をはじめ和歌山の魅力的な森林資源のファンを増やし、既存団体や地域の枠組みを超え事業者や個人が集い、和歌山県の森林・林業・木材加工産業の活性化に寄与するきっかけとする。

【事業の概要】

様々な木のおもちゃを集め、触れて遊んで木の良さを体感して頂き、またその様子を親御さんに見て頂くことで、子供や子育て層の木材や森林・林業への関心を高めるため「木の国わかやま木育キャラバン」を開催する。また、和歌山県内の紀州材に関わる各組織による体験型ワークショップの開催、森林について分かりやすく解説するブースの開設、森林体験ツアー、紀州材を活用した取組のPRを実施する。



2025年2月開催時のチラシ

建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える ～林業木材産業との協働の中で～

秋田県建築士会 須藤 亜紀

木材関連産業の活性化を目的として始まった「出前講座」で、農業高校の造園緑地科1年生35人を対象に、木造建築にからめて建築・土木の仕事についてお話をしました。

1. 「出前講座」での講話

秋田県では、建設業協会が担い手不足を憂いて県に訴え、2017年に県庁内に高卒採用の部署「秋田県建設産業担い手確保育成センター」が設置されました。現在は「秋田県建設産業活性化センター」と改組され、女性の活躍推進、若手の育成やICT化等、建設業界のイメージアップを図りながら、雇用問題と合わせて業界に対する意識改革に取り組んでいます。

この流れを受けて地域振興局管轄の「地域重点施策推進事業」の一つとして、木材関連企業の職場体験や会社説明を通して、地元企業への就業に向けたきっかけづくりを行う目的で、能代木材産業連合会が働きかけを行い、令和2年度からこの「出前講座」をスタートしています。

その後、令和4年度からは「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用して事業を継続し、秋田県立大学木材高度加工研究所（木高研）の教授や助教授を招いての講話、地域振興局職員によるカーボンニュートラルに向けた取組紹介、木材関連産業の会社説明等を行っています。

当初は地域振興局管内だけの活動でしたが、地域縛りのない税事業の活用により、秋田市内の高校へも出前が可能になり、私が参加した金足農業高校造園緑地科への講話も可能になりました。

会社説明には地元能代地域の工務店や木材会社をはじめ、組子キットを販売する(株)大栄木工や、約9万坪の敷地に26,500㎡の製材棟と48,800㎡の加工集成棟を建設した中国木材(株)、秋田県建築士会からは前女性委員長を務められた松橋雅子さんや、地元能代で工務店を運営されている池田建築店の池田佐保さんがお話されております。私は松橋さんのご紹介で令和5年と6年に、金足農業高校の造園緑地科1年生にお話をさせていただきました。

2. 組子制作体験

能代木材産業連合会は、H25年度から能代市の指定管理を受けて「木の学校」を運営しており、そこで組子制作の親子体験学習を行っていたこともあり、高校生が対象でも講話と会社説明だけでは興味を持たれないと考え、組子制作体験を主軸とすることにしました。

また、組子制作体験を盛り込んだことで、先生方の無償協力が得られやすかったと伺っています。

組子制作体験では(株)大栄木工さんからキットを安価にご提供いただき、作り方の説明書を見ながら奮闘している生徒達が、会社説明の時とは全く違い、いきいきとした表情で楽しんでいる姿が印象的でした。



須藤作の麻の葉とりんどう



組子キット麻の葉(¥2,700で販売中)

組子キット購入はこちらから→ Mokutopia <https://mokutopia.com/collections/shinboku>

3. 話の内容

対 象： 金足農業高校 造園緑地科 1年生

時 間： 30分

導入部 ・「建築士」と「建築家」の違い
・「建築」と「土木」
・災害復旧という役割 ※R6年
・秋田県内の建築士の人数
・自分が建築士になるまでの道のり
・かかわった仕事の内容等
(造園関係、特殊な建物、木造建築、木質化等)

主 題 ・木造建築の特徴
・世界の木造建築例

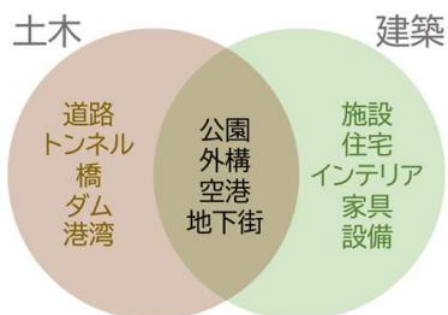
何を話すか、そもそも私は事務所を主宰しているわけではなく、営業でもない会社勤めの一技術職員ですので、会社説明で就職をあっせんするというのも何か違うと感じ、自身が文系出身（建築系の学科を卒業していない）で、造園設計もやっていた、というところから話を進めました。

それから、今回のメインである「木」にまつわる話として、設計を担当した木造建築と身近な木質化例、木造建築の特徴と、世界の木造建築等の紹介です。世界最古の木造建築（法隆寺）が日本に、世界最大の木造建築（大館樹海ドーム）が秋田にあったという事実や、アナと雪の女王のアレンデル城のモデルとなった木造の教会、アジアのサグラダファミリアと呼ばれる40年以上建築中のタイの寺院風建物（個人資産）等、建築に興味がない人でもちょっと興味をそそられる情報に、現在世界最大は万博会場の大屋根リングだよという時事ネタも交えて、ここでは「木造建築」に関心をもってもらうことに注力しました。

先にお話しされた木高研の先生の講話や、大栄木工さんの施工実績にかぶる内容もあり、産学官で連携した感じが出せたことも、結果としてとても有益だったと思います。

この出前講座を積極的に支持してくださっている担当教諭の和泉先生は、「現場で活躍する地元企業様のお力をお借りしながら、業界の魅力を伝えていきたいと思っています。業界の社会的意義、将来性、やりがい、心構えについて現場の方々から生の声を聞き、実情を学ぶことができる貴重な機会となっていて、働いた経験がなく、限られた大人としか接する機会のない高校生にとっては大変ありがたい体験です。このような経験を重ねることで、職業観や郷土愛、コミュニケーション能力も育んでいけるのではないかと思います。仕事をする上で重要となるコミュニケーション力を磨きながら、世界に目を向けることを高校生のうちから実践できる、そんな生徒を育てていけたらと思っています。」と語っていました。先に伺えていたら、内容もまた少し違うものになったかもしれません。

学校や業界関係者の協力と、県や国の支援を上手く利用し、今後この「出前講座」を地域の建築士会が主体となっていく事も不可能では無いと感じました。



建築士取得前に関わった公園の設計



R5.R6年の豪雨災害による被害



秋田県内の有名な木造建築例

紀州木の国に暮らす建築士の木育活動

和歌山県建築士会女性委員会 芦辺 留美

●木育活動スタートから現在まで

木の時間割・カレンダーキットを使ったワークショップを行うきっかけは2014年に開催された全建女東京大会のD分科会「素材と環境共生住宅」でした。その時に参加していた和歌山県建築士会女性委員会の委員が木の時間割キットを使った福井県女性委員会の先進的な住教育活動にを知り、「和歌山でも真似して作って活動してもいいですか？」と福井県建築士会女性委員会さんに相談させて頂いたところ、非常にご協力下さり和歌山での木育活動が2017年にスタートしました。その後年1～2回のワークショップを他団体の協力を得ながら毎年実施し、現在に至ります。



2017年に開催した
第1回ワークショップ風景



初代時間割表



カレンダー仕様



時間割表仕様

その後、2019年開催のF分科会「子供と住環境」にて福井県建築士会女性委員会と共に活動を発表させて頂きました。(建築士2020年3月号に掲載)

https://www.kenchikushikai.or.jp/data/josei/kaishi_R01.pdf

●和歌山で暮らす子どもたちに、身近にある木や山、 木で作られた物に目を向けてもらう

和歌山県は昔から「紀州木の国」と呼ばれ、今もなお全国有数の林産地で山に囲まれた環境に暮らしてはいますが、市街地に住む子ども達は木や山との関わりが深いわけではありません。そんな背景からワークショップの前に行く紙芝居では和歌山の山の事や木、山の木が家や身近な物になっている話をオリジナル紙芝居を使って行ってきました。紙芝居の内容は回を重ねる毎により理解しやすいように更新してきましたが、ワークショップ対象者が幼稚園児から小学校低学年であるが故に話が長くなるのは良く無く、まず和歌山県の山や木を知ってもらう事が重要であると考え、当初の絵巻物2巻目にあった植林から建物になるまでの話はかなり割愛する事になりました。

【当初】

A1バナー印刷で絵巻物にしたもので説明



(一巻目)
和歌山県の山や
木についての
一般知識



(二巻目)
植林から建物に
なるまでの話

【現在】



絵巻物が扱いにくい事と話が長すぎる事が判明し、現在は紙芝居形式に変更。



委員会で作成した紙芝居の一部

●開始から約8年経って

あれからコロナ渦でのイベント中止や、イベントが開催されてもどのような形で参加していくのか悩んだり、当初のワークショップから共催して下さっていた団体が無くなったりと、大変な事も色々ありましたが、なんとか活動を進めて行く事ができました。私たちが主にワークショップを行っているのが小学校低学年である事もあって、とにかく木材は身近なものなのだと知ってもらう事を中心にやってきたのですが、最近新しく出展依頼をしてくれた和歌山県海南市の児童書中心の図書館でのイベント(ノビノス匠の祭典)で、初めて小学校高学年～中学生の参加者が来ました。いつもの低年齢用しか用意できていない私たち。なんとかその場は乗り切る事が出来ましたがこの事件(?)をきっかけに、このキットは大人にも魅力あるもので、色々なイベントで活動が続けて行きたいのであれば、年代に応じた説明が絶対に必要である事を再確認しました。。又、同イベントで「何をしている団体なの?」と聞かれる事もありました。その方は単純に女性委員会の活動内容が知りたかったのだと思うのですが、色々な意味で建築士のアピールが出来ていない事にも気付きました。昔は作品パネル展示や説明に使わなくなった絵巻物を掲示したりしていたのですが、用意が大変だという理由で少しずつ省略化してしまっていました。今後は復活していきたいと思います。



↑コロナ渦前は紙芝居の説明と共に、本物の木や葉に触れてもらう事も行っていた。今後は再開したい。

↓コロナ渦でキットのみ販売となった時は制作方法を撮影しYouTubeにUP



↑アピール不足を反省し、Instagram始めました。

●林業木材産業の中での建築士の役割とは

和歌山県女性委員会では建築士だからこそできる木育とは、最終的には木材と建築の繋がりや可能性、その良さを子ども達や一般の人に伝えていく事だと考えていて、それは建築士の仕事の、どこにどのような木を使えば気持ちよく安全な建物になるかを設計する事につながります。そしてその木はたくさんの人の手によって守られ、育てられた山の木である事を伝えていく事も、紀州木の国で暮らす建築士の役割であると誇らしく思っています。

F分科会プログラム

■テーマ 建築士としての「防災」を今、考える

■分科会の趣旨

自然災害が各地で多発する中、建築士に求められる役割も大きくなっています。この分科会では、令和元年東日本台風（台風19号）時、床上浸水した自宅と近隣被災住宅複数件の復旧・再建支援に携わった建築士が、「防災減災、災害対応は行政や地域、様々な組織や仲間と連携協働する必要性」を痛感した体験から、更に「自然災害と復興の現実、備えの大切さ」を理解し共有し合い、防災や発災後の生活再建支援に取り組む活動をしている、神奈川県建築士会 現防災・災害対策委員会の空気をお届けしながら、「防災減災」がより自分ごとになる「意識と考え方」を、全国の仲間に紹介し共有させていただきたいと思います。また、建築士に求められる“防災力”について、令和6年11月に実施された「ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ【建築士として、災害対応を考える】」の導入と一部のワークを共に体験します。昨今は、地震や水害など様々な災害が頻発し、災害対策は待ったなしの状況です。建築士に求められる社会的役割、建築主の不安や地域の災害リスク状況に応えられる建築士とは？その意識や、今こそ必要な備えについて、分科会参加者と模索し、考えます。

■司 会 渡辺 睦（岡山県建築士会） アシスタント 日野 緑（岡山県建築士会）

■コメンテーター 河原 典子（神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 副委員長・防災士）

浸水被害15か月後、神奈川県建築士会お試し会員となり、令和4年防災・災害対策委員会委員長、土会連合会災害対策委員を務め、「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」作成に携わりました。令和5年からは関東甲信越建築士会ブロック会 災害対応会議で情報交換・共有、検討を始めています。

■コメンテーター 深谷 美登里（神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 副委員長・防災士）

建築士、土地家屋調査士、防災士でもあり、SHINK-湘南いぬねこ協議会会長、神奈川県動物愛護推進員など、「人とペットの防災」に取り組んでいます。

■ワークアシスタント 有泉 ひとみ（神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 委員長・防災士）

■分科会の進め方

1. 司会挨拶、コメンテーター紹介、趣旨説明 (5分) 9:00～ 9:05
2. 建築士に求められる“防災力” (25分) 9:05～ 9:30
ーハザードマップの正しい読み解きと伝え方ー（深谷）
3. 「建築士であり被災者」だった私から伝えたいこと（河原） (25分) 9:30～ 9:55
4. 「ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ」イントロダクション
・水災ワークの前提条件説明等（震災ワーク紹介）（深谷） (10分) 9:55～10:05
5. 水災ワーク1 発災前（A・Bさん宅）・発表（有泉・河原） (20分) 10:05～10:25
6. 水災ワーク2 発災後（A・Bさん宅）・発表（有泉・河原） (20分) 10:25～10:45
7. 質疑・意見交換・全体まとめ (15分) 10:45～11:00

防災の知識を建築士の新たな強みに！

これからきっと **こんなひと** が求められる

何をどう伝えるか
ハザードマップから重要な情報を抽出し
説明力で備えを促せる

リスクを共有
メンテナンスだけじゃない
発災時にも頼りになる存在として信頼関係を構築できる

“安心”をデザイン
もしもに備え、減災の視点で
安心・安全を提供できる

◆ 今、建築士に求められる“防災のチカラ”

- 知識で被害を抑える → 自然現象だけでなく、知識や情報格差が被害を左右する
- 見えない不安に寄り添う → クライアントの潜在的な不安に防災力に対応する
- “災害への安心”もデザインする → 建築士の新たな役割として重要性増加中！

◆ クライアントの不安を“そなえ”に変える

- 怖さを「行動するエネルギー」に変換する
- 正しく怖がり、具体的な備えへと導く
- 建築士の説明力で、クライアントの防災意識を育てる

◆ ハザードとリスク … 違いを説明できますか？

- ハザード → 自然現象そのものの危険性
- リスク → ハザード × 「建物特性／人の個性・活動等の影響」
- ハザードマップ → ハザードを可視化した地図

◆ ハザードマップの注意点 … ハザードマップには限界がある

- 過去のデータや想定モデルに基づく → 現実の災害と完全一致するとは限らない
- 想定外の可能性 → 予測を超える災害の発生リスク
- 専門知見との組み合わせ → マップを過信せず様々な知見や情報との統合が必要
*「現時点でマップ化されていないハザードの存在の有無」にも考慮する必要あり

◆ ハザードマップ取得方法 … 普段から使い慣れておくことが大事

- 紙ベース → 自治体担当窓口や公民館などで配布
- 自治体Webサイト → 自治体の担当部署ページからダウンロード
- GIS（地理情報システム） → スマホでも見やすい手軽さ（おススメ！）
*3D都市モデルを活用した立体的なハザードマップを公開する自治体も増加中

国土地理院

重ねる
ハザードマップ



ハザードマップの仕事での活用例

📢 マップ作成にあたっての前提条件を必ず確認！

❖ 色分けの意味や具体的な数値を正確に読み、設計に反映する

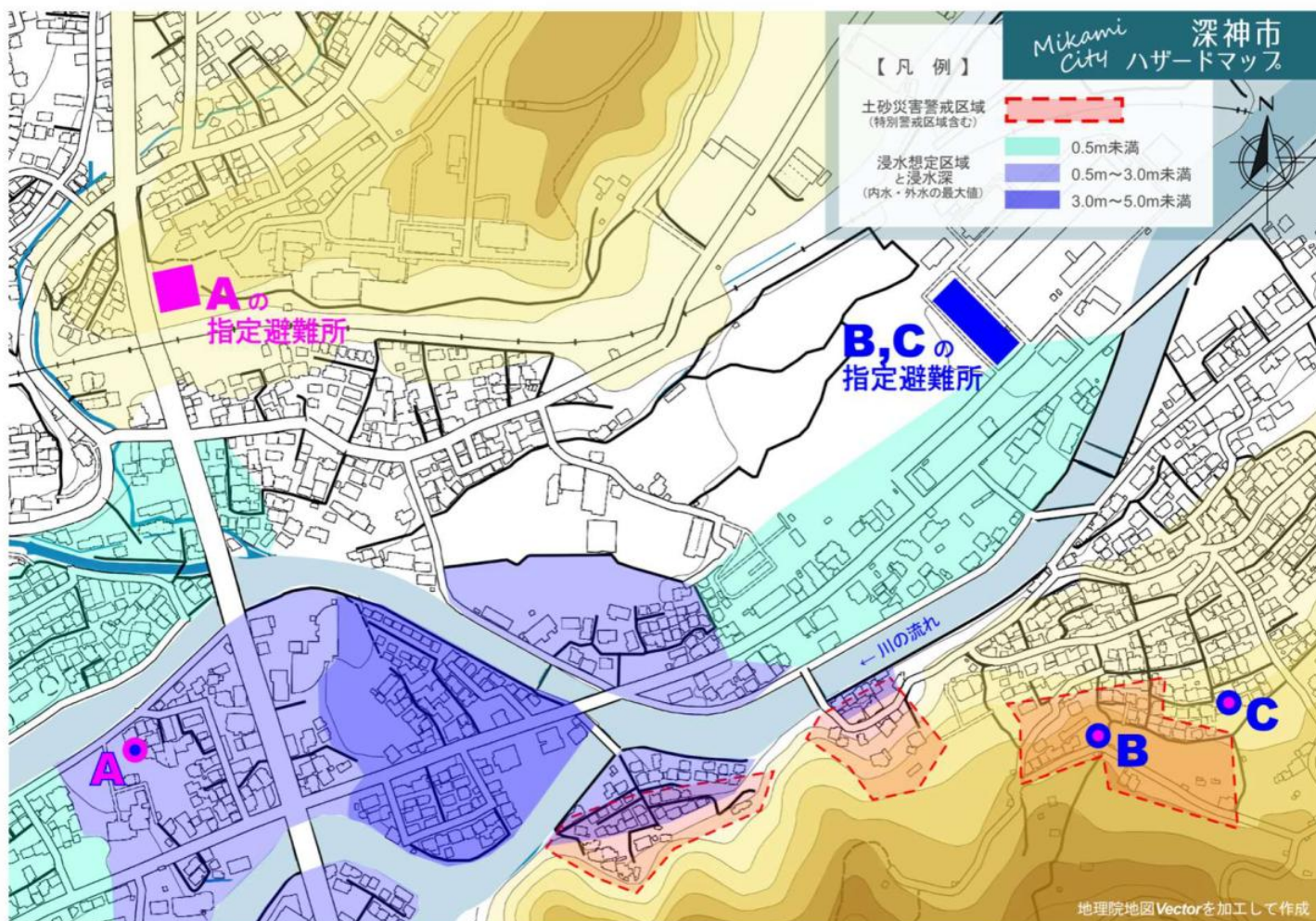
（例）『ここは最大〇〇cm浸水する想定なので…
・基礎を高くしています ・エアコン室外機の置く場所を高くしています
・コンセントの位置を浸水想定高さよりも上に設置しておくで安心ですよ』 …etc.

❖ 避難に必要な時間軸や行動を考慮した設計を提案する

（例）『ここは津波到達まで〇〇分という想定なので…
・勝手口から出て、このルートで避難すれば避難所まで△分で行けそうですよ
・最悪の事態を想定して、タラップで屋根上に上げられる設計にしています』 …etc.

❖ 建築士の視点で、クライアント自身の備えの実践につながるプラスαを提案する

（例）『各部屋の収納に、備蓄品や非常持ち出しリュックを収納するスペースを確保しました』
『ワンちゃんとお散歩しながら、危険な塀などが無いか見てみてください』 …etc.



ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ

建築士 災害対応 として を考える



水災のワーク

WORK
SHOP

全建女2025：水災対応のワーク

前提となる
災害のイメージ

◆ 災害対応状況

- 10月17日 (木) 県および県内各市町村が災害対策本部を設置
<10月18日夕方から 深神市内で被害が出始める>
- 10月19日 (土) 深神市に災害救助法が適用
- 10月24日 (木) 災害ボランティアセンターが開設
- 10月25日 (金) 『災害時における住宅再建に係る相談業務に関する協定』に基づく建築士の相談対応開始
- 10月29日 (火) 災害救助法に基づく住宅の応急修理の受付開始

2

全建女2025：水災対応のワーク

前提となる
災害のイメージ

- ◆ 発生日時 20XX 年 10 月 18 日 (金) 夕方 から
10 月 19 日 (土) 早朝 にかけて

◆ 状況と経過

- ・ 台風の接近前から前線の活動が活発で、台風本体通過に伴う暴風と大雨による被害が予測されていた
- ・ 当初から警報級の大雨が予想され、場合によっては特別警報が発表される可能性が示されていた
- ・ 結果として、道路冠水や河川の一部越水による内水／外水氾濫、土砂災害等が複数の場所で発生した

1

全建女2025：水災対応のワーク

ワーク1
個人ワーク

◆ 発災前日、20XX 年 10 月 17 日 (木) の朝のできごと

前線の活発な活動により、既に3日間雨が降り続いている中で、朝のニュースでは「今晚から台風本体の雨雲がかり始め、いよいよ雨風ともに強くなる」と伝えています。

今日は午後から、リフォームの相談対応でAさん／Bさんのお宅に打ち合わせに行く予定になっています。

すると、Aさん／Bさんから「台風が来そうだから、可能なら日程を変更してもらおうかな」と電話があったので、打ち合わせは延期することになりました。

3

ワーク1
個人ワーク

◆それぞれのお宅の立地状況

(木造一戸建て住宅)

Aさん宅

- ・二級河川のそばの低地
- ・周辺一帯が浸水想定区域となっている

【指定避難所】川を渡って徒歩約7分のやや高台にある公民館

Bさん宅

- ・市街地を見下ろす高台にある古い住宅地
- ・敷地全体が土砂災害警戒区域に指定されている

【指定避難所】急坂を下り、川を渡って徒歩約10分の小学校

深神市に台風が
最も近づく時間帯
(予想)

18日20時頃

4

ワーク1
個人ワーク災害が起きる前提で
いのちを守るための
アドバイスをしよう！20XX年10月17日(木) *発災前日
あなたはどんなアドバイスをしますか？7
分間

- ・AさんとBさん、それぞれに最善と思うアドバイスを考えます
- ・ハザードマップから情報を読み取り、避難の判断やタイミング、在宅避難の場合の備えなどをアドバイスしましょう

5

ワーク1
まとめ

◆個人ワーク発表・共有◆

8
分間

- ・個人ワークの内容を発表し、皆で共有します
- ・自分が思いつかなかったアドバイスや、新たな視点を得る機会としましょう

6

ワーク2
発災後の状況

◆災害対応状況(再掲)

- ・10月17日(木) 県および県内各市町村が災害対策本部を設置
<10月18日夕方から 深神市内で被害が開始>
- ・10月19日(土) 深神市に災害救助法が適用
- ・10月24日(木) 災害ボランティアセンターが開設
- ・10月25日(金) 『災害時における住宅再建に係る相談業務に関する協定』に基づく建築士の相談対応開始
- ・10月29日(火) 災害救助法に基づく住宅の応急修理の受付開始

7

ワーク2
個人ワーク

◆発災後の状況(Aさん)

3日後(10月21日・月)

【被害：氾濫による床上浸水】

- ・数時間で水は引いたものの、床上50~60cm程度浸水した
- ・発災直後の週末をつかって、家族総出で片付けをした
- ・断水はなく、水道を使って清掃ができた

約2週間後(11月2日・土)

【罹災証明書：半壊】

- ・リフォームで予定していなかった部分も補修が必要になっている
- ・罹災証明書交付後に、屋根と外壁の破損に気づいたのだが...
- ・和室が少しカビ臭く、ジメジメしている気もする

8

ワーク2
個人ワーク

◆発災後の状況(Bさん)

3日後(10月21日・月)

【裏山の土砂崩れによる土砂災害】

- ・道向かいの山の斜面が崩れ、大量の土砂と大木が庭に流れてきた
- ・山側の窓が破壊され、1階の室内は全面的に土砂で覆われた
- ・近隣住民が片付けを手伝ってくれたが、焼け石に水の状態

約2週間後(11月2日・土)

【罹災証明書：中規模半壊】

- ・庭には大量の土砂と大木が堆積、床下にも泥が残ったまま
- ・罹災証明は出たけれどよくわからないし、この先どうすれば...?
- ・住宅ローンに補修と仮住まいの出費が重なるのは不安しかない

9

ワーク2
個人ワーク発災から2週間後、被災の事実知覚
あなたはどんなアドバイスをしますか？7
分間

- ・AさんとBさん、それぞれに最善と思うアドバイスを考えます
- ・行政の災害対応状況から情報を読み取り受けられる支援や必要な手続きなどを検討しましょう

10

ワーク2
まとめ

◆個人ワーク発表・共有◆

8
分間

- ・個人ワークの内容を発表し、皆で共有します
- ・自分が思いつかなかったアドバイスや、新たな視点を得る機会としましょう

11

令和6年11月に実施された
ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ
【建築士として、災害対応を考える】＊震災のワーク
の内容を一部抜粋してご紹介します。
それぞれお住まいの地域に当てはめていただき、
ワークショップを開催される際の参考としてご活用ください。

ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ

建築士 災害対応 として 考える

震災のワーク

WORK
SHOP

グループワーク：震災対応のワーク

前提となる
災害のイメージ

- ◆ 災害対応状況 … 発災直後より、県及び市町村が災害対策本部を設置
 - ・ 2月11日（水） 災害救助法が適用
被災建築物応急危険度判定活動開始
 - ・ 2月13日（金） 被災者生活再建支援法が適用
 - ・ 2月16日（月） 罹災証明書の申請受付開始
災害ボランティアセンターが開設
 - ・ 2月23日（月） 住家の被害認定調査開始
『大規模災害時における相談業務の応援に関する協定』に基づく相談業務開始
 - ・ 3月 2日（月） 特定非常災害に指定（半壊以上で公費解体対象）
『災害時における住宅再建に係る相談業務に関する協定』に基づく相談業務開始
 - ・ 3月 3日（火） 『災害時における住宅再建に係る相談業務に関する協定』に基づく相談業務開始
 - ・ 3月 4日（水） 応急仮設住宅の建設開始
災害救助法に基づく住宅の応急修理の受付開始

2

グループワーク：震災対応のワーク

ワーク2
個人ワーク

◆ 発災後の状況



- 1週間後（2月17日・火）被災建築物応急危険度判定活動終盤
- ・ 多くの建物に応急危険度判定ステッカーが貼られている
 - ・ 中には判定ステッカーの色と建物の現状が合わないように見える建物もある
 - ・ 相変わらず余震が続く中、被災者は自宅の片づけを進めている
- 次の判定現場へ徒歩で移動中に、Dさんから声をかけられ相談された
- ・ 気づいたらこの赤い紙が貼られていたのですが、全壊ってこと？
建て替えないともうこの家に住めないのですか？
 - ・ はやく避難所から出たい。電気と水道はいつ復旧しますか？
 - ・ 今後の住まいのことを相談したいけれど、どうしたらいいの？

4

グループワーク：震災対応のワーク

ワーク2
個人ワーク

◆ 発災後の状況



- 4か月後（6月10日・水）
『災害時における住宅再建に係る相談業務に関する協定』に基づく相談
会にて、相談員として対応
- 【応急危険度判定：赤】【罹災証明書：大規模半壊】の相談者Fさん
- ・ 30代後半の夫婦と子ども2人の4人世帯。今は仮設にいます。
 - ・ 自宅はパッと見はたいしたことなく見えますが、室内はひび割れ
がひどいです。赤い紙が貼ってあるのになんで全壊じゃないの？
見に来てもらえばわかるんですけど…
 - ・ 中古ローンで買って、まだ返済中だけど、お金っていくらもらえ
ますか？どうせなら建て替えたいんですけどね。

6

グループワーク：震災対応のワーク

前提となる
災害のイメージ

◆ 発生日時 20XX年2月10日（火）
午後6時7分

◆ 状況と経過

- ・ 神奈川県西部を震源とする＊Mw6.7の地震が発生
- ・ 最大震度6強、県内の広い範囲で震度5弱以上の揺れを観測、
県西部を中心に人的被害を含む大災害となった
- ・ 家屋の倒壊、火災、津波等による死傷者5,500人
- ・ 建物被害は県内全体で全壊5,000棟、半壊20,530棟、火災による
焼失棟数は710棟

※Mw…モーメントマグニチュード
マグニチュードには様々な種類があり、国際統一規格はない。計算に使用するデータも計算方法も異なる。
Mwは巨大地震の規模を正しく求めることができるが、計算に若干時間を要することから、気象庁では
速報としてまず気象庁マグニチュード(MJ)を発表し、その後Mwに更新するといった対応をとっている。

1

グループワーク：震災対応のワーク

ワーク1
個人ワーク

災害
発生

20XX年2月10日（火）午後6時7分
…あなたはどのような状況に陥りますか？
そしてどんな行動をとりますか？



- エレベーター閉じ込め 大津波警報 火災
帰宅困難者 津波警報 爆発音 サイレン
- ・ 状況と行動をセットにして、赤い付箋1
枚につき1セットを書き出してください

3

グループワーク：震災対応のワーク

ワーク2
個人ワーク

◆ 発災後の状況



- 1か月後（3月10日・火）
『大規模災害時における相談業務の応援に関する協定』に基づく相談会
にて、相談員として対応
- 【応急危険度判定：赤】【罹災証明書：全壊】の相談者Eさん
- ・ 70代前半の夫婦2人世帯で避難所にいます。仮設住宅が出来上が
ったら、私たちは入居できますか？
 - ・ はやく自宅に戻りたいけれど、家の中はぐちゃぐちゃ。年のせい
もあって片付けがなかなかかどりません…
 - ・ 年金生活で余裕はなく、今の家をどうにか直して住むしかないの
かな…。これからどうしたらよいのでしょうか？

5

グループワーク：共通のワーク

ワーク2
グループワーク

◆ グループ内共有 ◆
個人ワーク発表 + グループ検討



- ・ 模造紙に付箋を貼りつけながら、個人ワ
ークの内容を共有します
- ・ 資料を用いて最良のアドバイス案を考え
検討しましょう

7

G分科会プログラム

■テーマ 伝統と未来を繋ぐ古民家再生

■分科会の趣旨

この分科会では、日本の文化資産でもある古民家が持つ魅力に光を当て、現代における再生と活用の意義を探ります。解体されがちな若しくは解体するにも費用がかかってしまう古民家の抱える課題を乗り越え、その伝統的価値を守りながら、現代のライフスタイルに合った新たな価値を創造する意義と手法を多角的に考察する場です。実際に改修した二つの地域による事例を通して、古民家再生・活用の可能性と設計手法について学びます。

■司 会 松田まり子（沖縄県建築士会） アシスタント 三根小百合（長崎県建築士会）

■コメンテーター 中野 久美 （群馬建築士会）

日本の古民家は地域に合った暮らしの知恵や、歴史を語る事ができる建物ですが、現在の暮らし方や維持管理等の諸問題により、解体されるケースも少なくありません。実際に古民家を購入・再生し、これから古民家を再生させる方への参考や相談、またはその意義や地域性について再考する場にしたと考えています。



■コメンテーター 近藤 富美 （福岡県建築士会）

福岡県うきは市に、古民家体験型ショールームも併設された“一級建築士事務所やどり木”があります。古民家をコンバージョンやリノベーションしながら、古民家の持つ新たな魅力を引き出す取組みを行なっています。またその他、古民家をホテルにコンバージョンした事例では、法律も含めて古民家活用時の設計手法をご紹介します。



■分科会の進め方

1. 進行説明	(05分)	9:00 ~ 9:05
2. コメンテーターによる報告	(40分)	9:05 ~ 9:45
3. 休憩	(05分)	9:45 ~ 9:50
4. コメンテーターによる報告	(40分)	9:50 ~ 10:30
4. 質疑・意見交換	(25分)	10:30 ~ 10:55
5. まとめ	(05分)	10:55 ~ 11:00

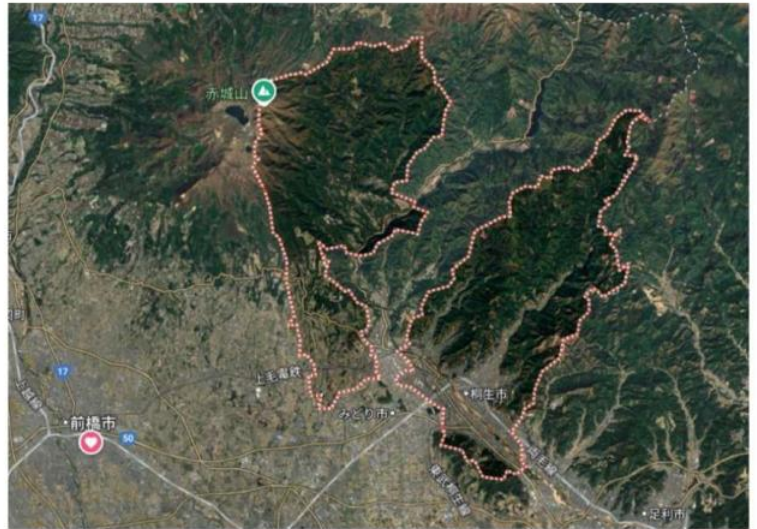
『古民家、買いました！』

(一社)群馬建築士会桐生支部 中野 久美

【地域】

我が町、桐生市は群馬県の東に位置し、山間にある人口約10万人の小さな町です。1921年（大正10年）、群馬県で3番目に市制が施工され、古くから絹織物を産する機業都市で、桐生織は京都の西陣織と並び称されました。市内には多くの産業遺産、国登録有形文化財があり、町の一部は重伝建地区にも指定されています。

また土地利用の現況は、航空写真でも解る通り、山林割合が約70%を占めており、町の中心地から車で15分も走ると山と川に囲われた自然豊かな地域になります。



【背景と思い】

近年20代から30代の若い世代が古民家に興味を持ち、安価で購入、セルフリノベーション等で住宅として、また店舗や工房として使用する事も増えてきています。しかし、住みづらい、興味が無い、不便、古臭い等の印象から、築100年前後の古民家を建替等で解体を希望される事も少なくありません。

そんな時にはリノベーションでの可能性や古民家の価値・魅力を伝え、土地からの新築相談を中古住宅のリノベーションに誘導する等して何とか古民家を残せないかと奮闘してきました。

これまで幾つもの古民家で、住宅や店舗等へのリノベーション工事に携わりましたが、元々古い物や古民家が好きだったこともあり、コロナ禍スタートの2020年、うっかり古民家を衝動買いしました。

大好きなこの地域にはまだ沢山の古民家が存在しています。時代にあった多様な目的をもつ古民家へとリノベーションし、地域の財産として増やしていく。また、魅力ある町、魅力ある建物をアピールすることにより移住者を呼び込み、地域経済への貢献も期待できる。古民家を活用する人々が増えている中、購入した古民家をリノベーションモデルとし、更に「人と地域、人と人を繋げる」新規事業を始め、地域活性化の一端を担えればと思っています。



【物件情報】

- ・ 所在地 群馬県桐生市梅田町1丁目835番地
- ・ 敷地面積 855.95 m² (258.92 坪)
- ・ 建物面積 134.21 m² (40.59 坪)
- ・ 建築年月日 公的記録上では不詳だが、
前所有者によると築170年が経過している。

【新規事業】『古民家活用による人と地域、人と人を繋ぐ事業展開』

新規事業名 『雨露』 あめつゆ ～建物は雨露をしのぐもの～

桐生の山里にある築170年の古民家。ここは敷地の道向こうに桐生川が流れ、窓を開けるといつも川のせせらぎが聞こえる。川の、さらに向こうには杉などの針葉樹の山が広がる。雨の日、東を向いた縁側に座り、川越しの山に降る雨の風景を望むと、なんとも癒される時間を過ごせる。建物は本来、雨露をしのぐもの。晴れている日も良いが雨露をしのぎ、ふらっと立ち寄って貰いたい。また、日々の忙しさや疲れをリフレッシュし、癒しや家族・友人の繋がりがりや思い出を創る場に、親戚の家や実家に戻ったような場所にしたい、という思いから「雨露」と名付けた。

① 体験型宿泊事業

＜概要＞ 地域の特性を生かし、元気な人には体験型の宿泊を、また癒しを求める疲れた人には自然の中でゆっくりと過ごすなど、宿泊プランを提案する。農業生産者やヨガなどのインストラクターと宿泊者等を繋げる、街中の店や地域の特産物（美味しい物や、おしゃれな小物・洋服、アートなど）と宿泊者を繋げるなど、人と人、地域と人、事・物と人を繋げる体験型宿泊の展開を目指す。

＜特徴＞ 古民家の中で体験するアトラクションなども提案。宿泊時体験時には宿泊客の趣向に合った地酒やスイーツ等を地元食材と併せて用意し、常設するシルクソーブやシルクタオル等も含め、気に入って頂いた品や地域の特産品（逸品）を購入できる場所も繋ぎ、地域が盛り上がるような仕掛けを作る。

＜宿泊における体験メニューとそのターゲットについて＞これからの需要の伸びが世界的に期待できるウェルネスツーリズム。開放的にリノベーションした古民家の間で、日頃気になっていた「習い事」の体験を、家族や友人グループで行う。また自然に囲まれた立地や古民家の特性を生かし、癒しの空間利用として「何もしない時間」やのんびり読書時間などアナログ提案も行う。Wi-Fi 環境を整備し、テレワークにも対応する。プロジェクターで漆喰の壁に投影し、大画面で映画やゲームも楽しめる。

② イベント ③ チャレンジショップ・カフェ支援事業

＜イベントメニュー＞写真、絵画、花などの展覧会・朗読、読み聞かせ、群大教授や美術館館長などの講話、勉強会・バイオリンやピアノ（常時設置）のサロンコンサート・ヨガ、セラピー体験・お菓子作り、パン作りなどのお料理教室・フラワーアレンジ他、体験教室・クリスマスリース、しめ縄、餅つきなど季節ものの体験・日本酒、ワイン、お茶の会・着物など展示会、ファッションショー・農産物販売会・着付け、メイク体験（着物レンタル可能）・写真撮影会等。また、写真撮影会に関しては、着付けをし、公共電動バスなどを利用して移動しての街歩きや、友達同士やご夫婦で楽しく遺影撮影もできる。

＜チャレンジショップ（カフェ）＞「お店を出したい」、「飲食店・カフェが初めてみたい」という人が周りで沢山居ることが分かった。しかし、店を出すには資金もかかり、経営が成り立つかの不安も大きく、夢のまま断念している声が多い。それらの人向けに、宿泊以外の日（空いている時間）を利用し、チャレンジショップとしてキッチンを貸し出す。

【まとめ】

子供の頃、年末になると祖母の家に親戚が集まり餅つきをした楽しい思い出。祖母が亡くなり、家もなくなり、親戚が集まる事もなくなった。古民家を持つことによってまた集まれる場所が出来たら…そんな小さな思いから始まったリフォームでしたが、色々な勉強会に参加し、沢山の思考転換のタイミングがありました。

宿泊業もカフェ営業もイベント関係も、やってみたかった事。住む家は別にある。親戚、友達だって毎日集まるわけじゃない。じゃ、纏めてここで出来るんじゃない!?更に、大好きな桐生市を少しでも盛り上げたい!古民家を残したい!私のやってきたことで誰かの役に立ちたい!そんな思いを形にしたリノベーションになりました。

上記【新規事業】の内容は、『事業再構築補助金』を受けた時の申請書に記載した内容の抜粋です。

補助金も得意分野の一つ。古民家を1棟でも多く残せるよう、こちらの建物を使って活動してゆこうと思います。



① 5年空き家だった為、床が抜け落ちている



② 雨戸開けると縁側、サッシはない



③ 縁側の先には庭がある



④ 天井は低く、黒く圧迫感がある

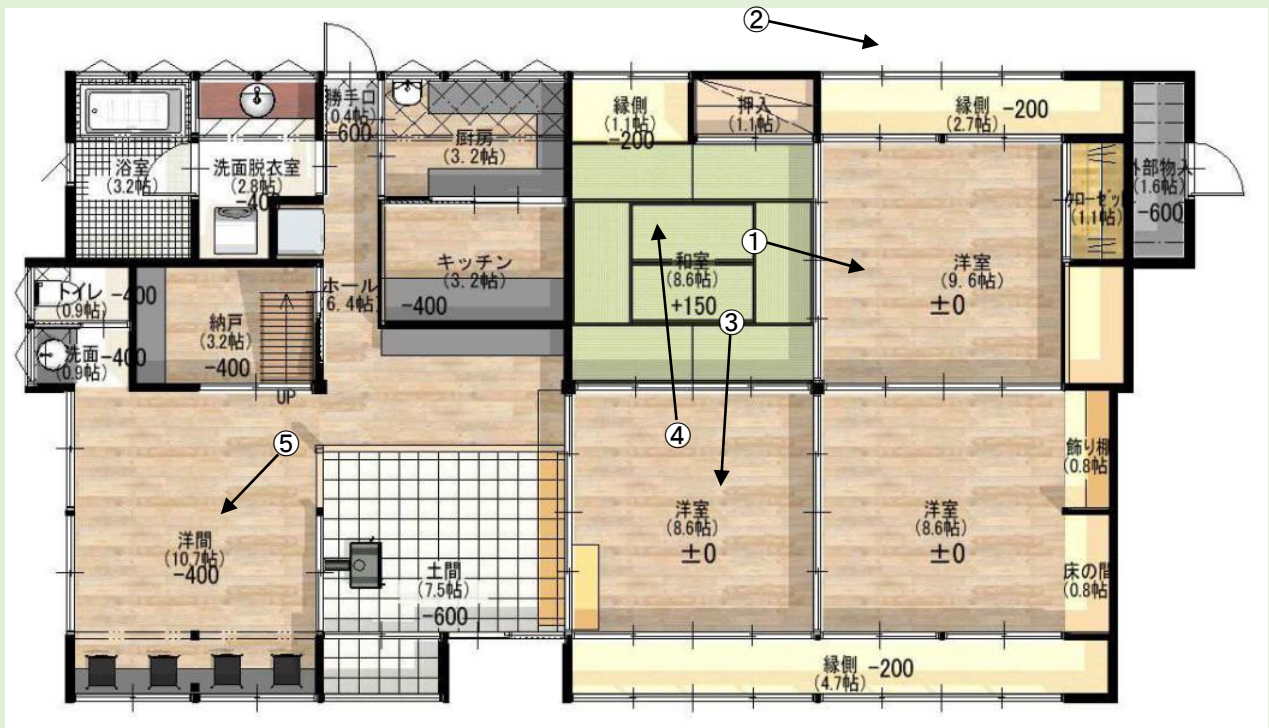


⑤ リフォーム済みの洋間



⑥ トイレと浴室はタイル仕上げだった

【予定図・現状写真】



①



②



③



④



⑤



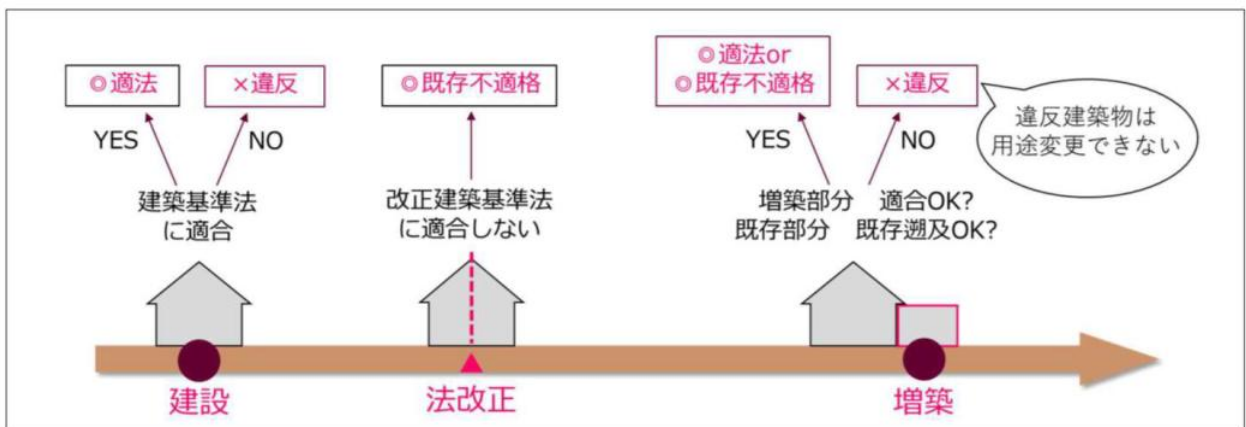
古民家の用途変更と活用事例

(公社)福岡県建築士会 近藤 富美

1. 古民家の用途変更

全国の空き家は約 900 万戸（2023 年 総務省）。空き家を活用したいという相談は、私のもとにも、夢話から具体的な話まで頻繁に寄せられます。特に、古民家に関しては、大型の物件が多く、現代の核家族では住みこなすのは難しいため、住宅ではない活用が目立ちます。そのほとんどは建築基準法上の特殊建築物です。200 ㎡を超える建物だと用途変更の確認申請が必要となるのはご存知の通りです。私は、ここ 6～7 年の間に、福岡県糸島市で市街化調整区域にある民家 2 棟（築 150 年の古民家と築 40 年のハウスメーカーの住宅）を学生寮（寄宿舍）に用途変更、福岡県八女市で古民家 3 棟を宿泊施設へ用途変更と、計 5 棟の建物の用途変更に関わり、うち 3 棟は確認申請を行いました。その経験を踏まえ、用途変更の手続きが可能な建物かを見極めるポイントを二つご紹介します。

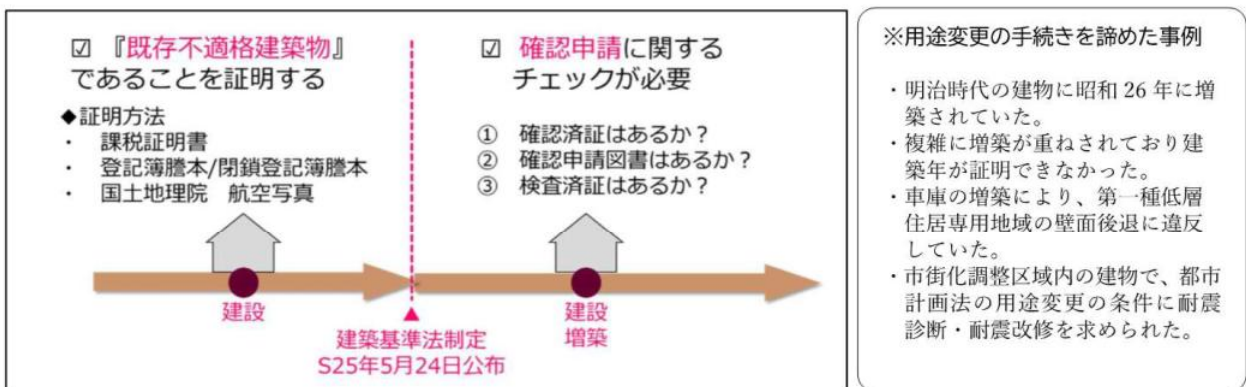
一つ目は、違反建築物になっていないかです。増築されている場合、既存部分にも遡及がかかっています。それにより知らず知らずのうちに違反となっている建物が多く存在します。



◆建物の法的な位置づけ

二つ目は、既存不適格建物、または適法な建物であることを証明できるかです。

建築基準法施行の昭和 25 年 5 月以前の建物であれば、建築年を証明する資料を揃える必要があります。昭和 25 年以降の建物であれば、確認申請に関するチェックが必要です。



◆建物の建築年と必要となる書類

※用途変更の手続きを諦めた事例

- ・明治時代の建物に昭和 26 年に増築されていた。
- ・複雑に増築が重ねられており建築年が証明できなかった。
- ・車庫の増築により、第一種低層住居専用地域の壁面後退に違反していた。
- ・市街化調整区域内の建物で、都市計画法の用途変更の条件に耐震診断・耐震改修を求められた。

2. 既存適及と用途変更で必要となる規定例

用途変更では、緩和規定により原則として既存不適及となっています。階段や廊下、排煙設備や非常照明設備等の避難施設に関する規定など一部、適及が必要な規定はありますが、新しい用途で適合させていくようにするので、そこでクリアします。特殊建築物となることで、内装制限や排煙設備など雰囲気に大きく影響する規定が掛かる場合があります。内装制限は、スプリンクラー設備を自主設置して緩和するなどし、排煙はランマを改造したり、できるだけ目立たない場所に新規で建具を設けるようにしています。

※新しい用途(特殊建築物)になることでかかる規定で影響の大きいもの

- ①内装制限 床面積 200 m²以上で壁、天井に制限。
竿縁天井が NG に
→スプリンクラー(特定施設水道連結型スプリンクラー設備)を自主設置で緩和(緩和規定に注意)
- ②114 条区画 宿泊施設等にする場合。小屋裏まで。
→避難距離等による緩和規定あり、またはスプリンクラーで緩和
- ③排煙 開口部の内法が低くて天井から 800 以内に取れない場合あり。目立たない場所に新規建具を設置。
- ④廊下幅
- ⑤階段(付け替えると大規模修繕に該当)
- ⑥消防設備(自動火災報知設備など)→300 m²以下で特定小規模施設用自動火災報知設備にできる
その他 用途によって、旅館業法、食品衛生法(保健所)、老人福祉法、児童福祉法、福祉のまちづくり条例などの確認が必要。

3. 用途を変えて活用する際に気をつけていること

古民家は文化財的な価値があります。用途を変えることによって、新しい機能の追加(宿泊施設の場合は、水回り等)が求められますが、その際、壊す範囲が最小限となるように計画をしています。

また、将来、その用途での活用が終わった時のことを見据え、元の状態に戻せるように可逆性を検討するようにしています。(水回りは元々水回りだった場所に計画する。新規壁とする部分でも鴨居や敷居を残す。畳からフローリングに変えた床でも元の大引や根太の高さを変えないなど)

4. 設計事例紹介

① NIPPONIA HOTEL 八女福島商家町「喜多屋別邸」「旧大坪茶舗」2020 年 4 月開業

福岡県南部の八女市にある重要伝統的建造物群保存地区内の建物 2 棟を、計 7 室の客室を持つ分散型ホテルへ用途変更しました。全国で NIPPONIA ホテルを展開するバリューマネジメント株式会社が運営を行っています。

「喜多屋別邸」は、酒蔵の主屋だった建物で、客室 3 室のほか、フロント機能、フレンチレストラン、日本酒バーを併設しています。

用途変更確認申請済証を取得した建物です。

◆喜多屋別邸 建築概要

所在地：福岡県八女市本町
(重要伝統的建造物群保存地区内)

規模：木造 2 階建
敷地面積：約 764 m² (今回対象敷地)
延床面積：約 352 m²
建築年：昭和 3 年記憶



喜多屋別邸 外観



客室 101



客室 103

「旧大坪茶舗」は、喜多屋別邸から徒歩 10 分程度の場所にあります。もとはお茶の製造販売店で、主屋（店舗）、離れ（住宅）、蔵、工場がうなぎの寝床状に 1 棟に繋がった建物です。長年空き家になっていたため、激しく損傷していました。比較的新しく増築されていた部分を解体することにより、2 棟に分け、（東棟）主屋、離れ、（西棟）土蔵、工場のそれぞれの特性を活かした 4 室の客室に用途変更しました。各部屋 1、2 階のメゾネットになっています。



旧大坪茶舗 外観



客室 204

◆旧大坪茶舗 建築概要

所在地：福岡県八女市本町
 （重要伝統的建造物群保存地区内）
 規模：木造 2 階建
 敷地面積：約 356 m²（2 棟分の敷地合計）
 延床面積：東棟 約 251 m²、西棟 約 177 m²
 建築年：主屋 大正 6 年 離れ 昭和 26 年
 土蔵 明治初期 工場 昭和 7 年

② Craft Inn 手[té] 2021 年 10 月開業

NIPPONIA と同じく、福岡県八女市の伝建地区内に立地し、地域文化、ものづくりを発信している八女市のセレクトショップ「うなぎの寝床」のグループ会社、株式会社 UNA ラボラトリーズが運営する宿泊施設です。私は建物所有者側の設計者として、主に建物の修理計画と用途変更に関わる設計を担当し、運営側の設計者と調整しながら設計をまとめました。農泊事業の補助金を活用し、地域の手仕事をテーマにした「藍の部屋」「竹の部屋」の 2 室に、店舗を併設しています。こちらも各部屋メゾネットです。延床面積は 200 m²を超えていますが、店舗部分は元々店舗であったことから、用途変更に関わる部分は 200 m²以下となり、確認申請の手続きは不要の建物となっています。



外観

◆Craft Inn 手[té] 建築概要

所在地：福岡県八女市本町

(重要伝統的建造物群保存地区内)

規模：木造2階建

敷地面積：約296㎡

延床面積：約240㎡

建築年：主屋(奥) 明治34年、主屋(前) 昭和27年



竹の部屋



藍の部屋

③ 古民家体験型ショールーム やどり木邸 2022年9月移転

福岡県南東部に位置する、うきは市にある私の自邸です。「事務所兼自宅」「顧客のチャレンジの場」「古民家教育の場」となることを目指して、事業再構築補助金を活用し、古民家体験型ショールームとしました。もとは昭和8年に建築された木造2階建の建物でしたが、平成8年に座敷二間を残して解体し、座敷に繋げる形で生活スペースが増築されていました。平成の増築部分を自宅に、座敷部分を事業スペースとしています。和室の可変性を活かし、民泊(登録)、飲食のチャレンジショップ、展示会等に使用できるよう整備しています。



◆やどり木邸 1階平面図

◆やどり木邸 建築概要

所在地：福岡県うきは市

規模：木造平屋建

敷地面積：約1,513㎡

延床面積：約146㎡

建築年：座敷 昭和8年

住宅 平成8年



座敷



LDK



縁側

7 エクスカーション

令和7年7月20日(日) 12:30～ 約4.5時間

A 文翔館とコパル見学コース

CPD単位 2
参加費5,500円 定員30名

スケジュール

12:30 山形テルサ発
12:45 紅の蔵 そば処 三百坊【滞在時間1時間30分】
14:20 文翔館【滞在時間1時間15分】
15:50 児童遊戯施設コパル【滞在時間1時間】
17:10 JR 山形駅(西口)着



シェルター
インクルーシブ
プレイスコパル
／第3回村野藤吾賞
2023年日本建築
学会賞(作品)
第6回BCS賞
他多数受賞

紅花商人だった長谷川家所有の蔵屋敷「紅の蔵」で昼食、敷地内のおみやげ処や地域直売所を堪能いただきます。その後、大正ロマンたっぷりの文翔館へ。1984年に国の重要文化財に指定され、1986年から10年の歳月をかけて当時の工法を元に忠実に復元が行われました。“るろうに剣心”や“賭けグルイ”のロケ地にもなっています。

バス移動し、大西麻貴+百田有希/oth設計のシェルターインクルーシブプレイスコパル(山形市南部児童遊戯施設)へ。「インクルーシブ施設」の解説を交えての見学です。明治、大正、令和の建物をお楽しみ下さい。

国指定重要文化財 文翔館



B 羽州街道をめぐる上山コース

CPD単位 2
参加費6,000円 定員30名

スケジュール

12:30 山形テルサ発
13:10 榎下宿 丹野こんにやく【滞在時間1時間30分】
14:45 榎下宿見学【滞在時間2時間】
17:20 JR 山形駅(西口)着



榎下宿 大黒屋

こんにやく懐石



江戸時代、参勤交代の宿場として栄えた羽州街道 榎下宿。地域住民により、当時の町並みが大切に保存されています。貴重な茅葺屋根の保存や、宿場にふさわしい景観づくりなど、榎下宿にこだわった活動を「榎下宿保存会」のガイドで散策します。昼食は、こんにやく懐石をご用意しました。全部食べても低カロリー！これもこんにやく？と驚いてください♪

C 慈恩寺散策と道の駅 寒河江コース

CPD単位 3
参加費6,000円 定員30名

スケジュール

12:30 山形テルサ発
13:10 道の駅 寒河江 チェリーランド【滞在時間1時間】
クラッピンさがえ見学【滞在時間30分】
15:00 慈恩寺散策【滞在時間90分】
慈恩寺テラス【滞在時間30分】
18:00 JR 山形駅(西口)着



さくらんぼ
こどもキャンパス
CLAAPIN
SAGAE
(クラッピンさがえ)

慈恩寺本堂

道の駅 寒河江 チェリーランドにて山形の郷土料理「芋煮御前」をお召し上がりいただいた後、2024年にオープンした株式会社 羽田設計事務所+株式会社 NIIZEKI STUDIO設計のさくらんぼこどもキャンパスCLAAPIN SAGAE(クラッピンさがえ)をご覧ください。

慈恩寺では、本堂周辺をガイド付きで散策します。再建から400年といわれる国指定重要文化財の本堂は、約70年ぶりの茅葺屋根の全面葺き替え等の修理工事を完了しました。工事完了を記念し11年ぶりに御本尊を御開帳いたします。生まれ変わった美しい姿をご覧ください。

国史跡慈恩寺パンフレットはこちらから→



D 「将棋の書き駒・紅花染め体験」と 「天童木工本社ショールーム見学」コース

CPD単位 2
参加費8,000円 定員40名

スケジュール

- 12:30 山形テルサ発 バス移動【所要時間40分】
昼食 山形まるごと弁当
13:10 天童ターミナルビル「バルテ」
「将棋の書き駒体験」または「紅花染め体験」【体験時間90分】
15:30 天童木工「ショールーム見学」【所要時間90分】
17:30 J.R. 山形駅（西口）着

スカーフの紅花染め「天童紅花祭り」より



天童木工本社ショールーム



将棋の駒にオリジナルの文字を描く書き駒と、天然染料を使ったスカーフの紅花染めのワークショップを開催（どちらか一つを選択）。地元で活躍する女性クリエイターを講師に迎え、山形の伝統文化を体験します。その後、世界的な家具メーカー「天童木工」にて、歴史やデザイン、最新技術についてお話を伺い名高い家具から素材の見本まで一堂に揃った本社ショールームを見学します。※昼食は、つや姫ご飯に山形牛、在来野菜の里芋などを使った地産地消のお弁当です。



書き駒体験

E 本館 古勢起屋(登録有形文化財)見学と 銀山温泉宿泊コース

CPD単位 2
参加費4,000円(宿泊費は下記参照) 定員46名

スケジュール

- 12:20 山形テルサ発
(他コースよりも早い出発になります。)
車窓から 七日町御殿、文翔館 等
13:00 昼食 白鳥十郎そば本舗（河北町）
冷たい肉蕎麦+餅1個
(きなこor小豆餡or納豆)
秘密のケンシヨウ極みて紹介された
B級グルメをご堪能ください
13:45 移動
15:00 銀山温泉入り口到着、チェックイン
自由時間
本館古勢起屋館内見学
温泉街銀坑道散策等（QRコード参照）
18:00 夕食
7/21(月)
10:00 チェックアウト

◆本館古勢起屋(定員1室2名、14室28名限定)※全館禁煙
令和5年8月に登録有形文化財に指定された当館をお楽しみ下さい。

・川側客室(大正モダン客室6室・和室2室)

2名様1室ご利用 お一人様@39,750円

・山側客室(大正モダン客室6室)

2名様1室ご利用 お一人様@37,550円

◆銀山荘

※銀山荘は4階に喫煙スペースがあります

・ベッドルーム定員2名3室 2名様1室ご利用(半露天風呂付)

お一人様@38,650円

・和室(10帖) 定員6名2室 6名様1室ご利用 お一人様@25,450円

○いずれの価格も消費税と入湯税込です。宿泊費は各自現地でお支払いください。お部屋の希望を取りますが、申し込み多数の場合は抽選とさせていただきますので、ご希望に添えない場合はご了承下さい。なお同室希望の方がいれば備考にお書き下さい。

○チェックアウト(10:00)後は、JR山形新幹線大石田駅まで時間指定(10:30と12:30の2本のみ)の無料送迎バスがありますが、それ以外は市営バス¥1,000となりますのでご注意ください。

*Eコース申込の方は、必ず右上のQRコードから質問にご回答ください。

Eコース申し込み

QRコード

(5月30日午前中まで切迫)



銀山温泉ウォーキングコース
所要時間 90分 中級コース



撮影/建築カメラマン長岡信也



本館古勢起屋HPより

ご注意とお願い

*各コース共、山形テルサ東正面玄関からの出発となります。

*参加ご希望の方は、全建女参加申込書の「エクスカッション」欄に希望のコースを第2希望までご記入ください。

*参加費は事前振り込みとなります。コース決定後、お振込みの案内をいたします。お振込みいただいた参加費は、返金いたしかねますのでご了承ください。

*動きやすい服装、靴にて参加をお願いします。また、帽子等の暑さ、日差し対策をよろしくお願いいたします。

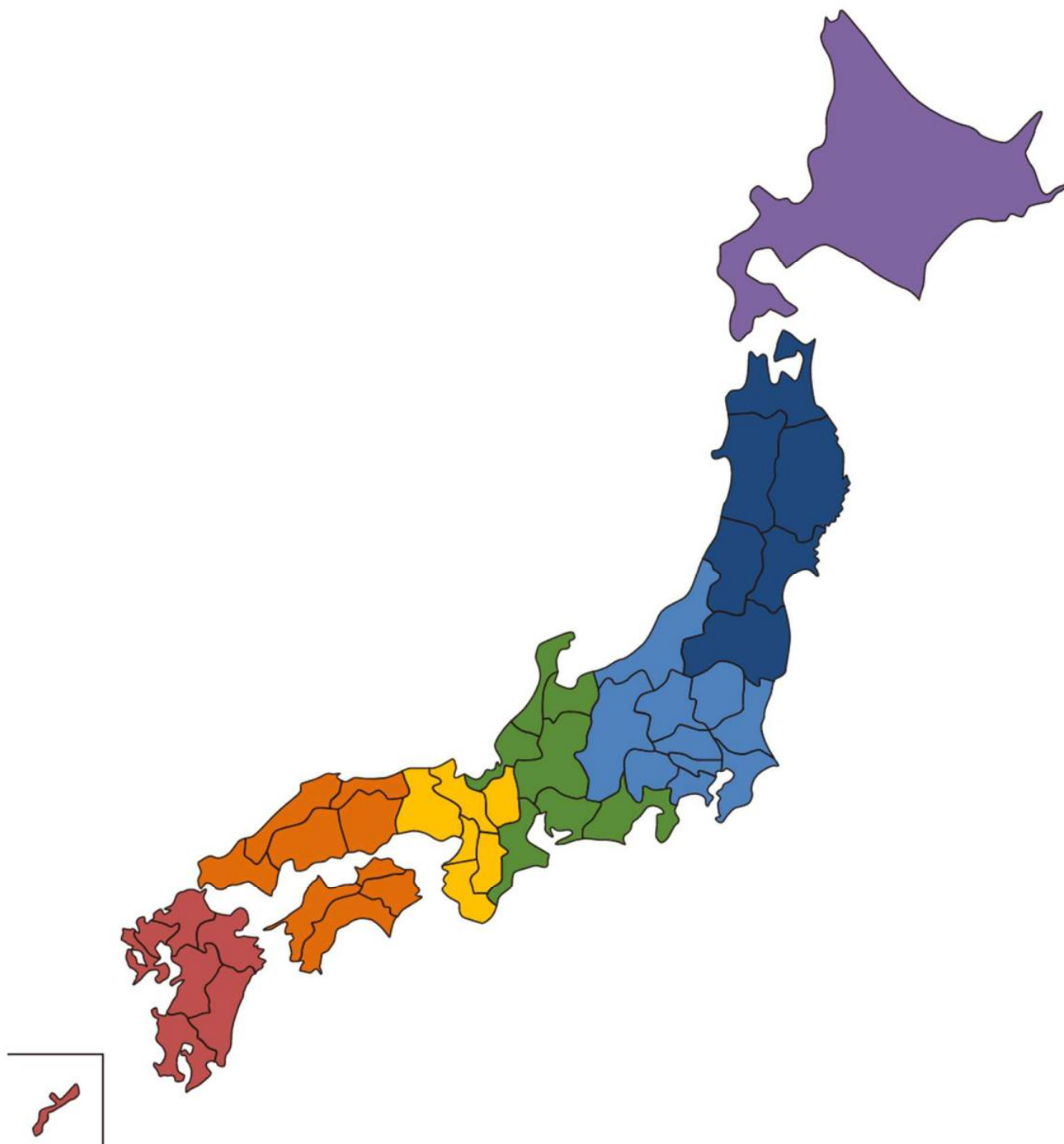
*エクスカッション参加者のお荷物は、各自お持ちください。

*道路混雑状況により帰着場所への到着が遅れる場合があります。

*介助が必要な方、幼児同伴の方は、申込書備考欄に記載をお願いします。コースによっては参加が難しいものもありますので、後日ご相談させていただく場合があります。

*申し込みの締切は5月30日午前中となります。

8 都道府県建築士会女性委員会（部会） 活動報告・アンケート集計



北海道	2024年活動報告 ・9月に札幌市近郊の江別でレンガをめぐる見学会を開催しました 江別市内には数多くのれんが建造物が現存しており、歴史ある建物をめぐり、総業85年の米沢レンガ工場の見学もさせていただきました ・全道大会日高大会では、「ひだカフェ」というトークセッションでテーブルマスターと書記のお手伝いをしました。 旭川では、街歩きツアー、北見では、出前出張講座、札幌ではホテル創生Mギャラリー見学会等、それぞれの地域で活動しています
青 森	令和6年度の活動は、東北ブロック秋田大会に参加させていただきました。令和5年度の東北ブロック青森大会を自県で運営してみて、他県でのイベントへもっと参加してみたいという、委員の良い刺激ときっかけになりました。また、県内では、青森県立美術館で行われたフランクロイドライト展の見学会・ランチ会を行いました。対面の会合は少ないですが、オンライン会議やSNSを利用したり、意見交換が密に行われ、委員会への参加者も多くなっています。今後の活動は、女性建築士会会員を増やしたい目的から、子供達や工業高校生徒と女性建築士が関わりをもち、まずは建築士に興味をもってもらえるようなイベントを企画。青森県の女性委員は子育て世代も多く、また建築士の業務に加えて他業種と兼業しているメンバーも多いので、まだまだ知られていない女性建築士の活躍している姿を発信できるツール作成を考えていきます。
岩 手	【令和6年度活動報告】 4月：講演会（会場：イコウェルすみた）及び見学会（住田町・陸前高田方面） 住田町役場建設課 田畑耕太郎氏をお迎えし「住田町の木造公共施設から発注者の職能を考える」をテーマにご講演頂きました。住田町役場、大船渡消防署住田分署、上有住公民館等の木造公共施設を見学し、次の日には、陸前高田市の普門寺、旧吉田家住宅主屋を見学しました。 7月・12月：「ダンボールハウス」WS+「魅力ある和の空間」パネル展を開催しました。 【令和7年度活動報告・予定】 5月：講演会（会場：旧達古袋小学校）及び見学会（一ノ関） NPO法人一関のなかなか遺産を考える会事務局長 阿部えみ子氏をお迎えし「廃校になった旧達古袋小学校の12年間にわたる保存活動について」をテーマにご講演をいただきました。萩荘邸、石と賢治のミュージアム、国登録有形文化財旧東北砕石工場を見学しました。 今年度も「ダンボールハウス」WS+「魅力ある和の空間」パネル展を開催したいと考えております。
宮 城	『語ろう学ぼう木の建築講座（継続）』（WEB研修会）年4回の開催。 『お泊まり研修会（継続）』多賀城創建1300年ということから多賀城南門・多賀城碑／壺碑・官衙(かんが)主屋(しゅおく)の見学を行った。 また青年地域実践活動「段ブロックで多賀城南門を作ろう」へ協力を行った。 『建築と私』（仙台支部女性部会ほか共催） 「身近な建築を観察する みんなで長く楽しむために」～いちファンから見た庁舎・石材・消えゆく建物～ 『断熱施工現場見学会』新築住宅・付加断熱施工現場見学会 次年度企画 上記（継続）と記載の事業はR7年度も開催予定。R7年度お泊り研修会はウッドデザイン賞2024受賞の「みやぎ登米農業協同組合本店・なかだ支店」様と木材納入の登米森林組合様プレカット工場を見学予定。

秋 田	【令和6年度活動報告】 ・5月 第1回学習会「秋田の酒の魅力」と題し、講師に県総合食品研修センター専門員を迎え、地元秋田の発酵文化の奥深さを学ぶ。 ・6月 第2回学習会「親子体験学習・きもちのいい家つくろう」を大館北秋田地区で開催。今回で16回目。参加家族10組・子供11名の参加で、「子どもの想像するイメージをどう引き出すか」地元の子供たちとコミュニケーションをとりながらアドバイス。翌日は、地元女性委員が案内人になり、大館市内の建物見学会も同時開催。 ・10月5日(土)・6日(日)東北ブロック建物見学会を秋田で開催。全国大会あきた大会エクスカーションで残念にも参加出来なかったメンバーに「国際教養大学・中嶋記念図書館」を主な見学場所として、一泊し交流を深めながら2日間に渡る見学会となった。県外から40名・県内40名、総勢80名の参加。 ・2月 第3回学習会 会員初めての体験「折り紙建築制作」に挑戦。 ・3月 女性委員会日より発行
山 形	[令和6年度活動報告] ・東北ブロック会参加・令和6年度は秋田主催、全国大会秋田で見られなかった「国際教育大学図書館」等、さんむね温泉宿泊を兼ねて魅力に満ちた素敵な見学会でした。 ・全建女東京大会はA分科会・山形担当、令和7年度の「やまがた大会」PRを兼ねて発表。山形のパンフレットやお菓子を少しながら配り18名参加で盛り上げました。 ・緑のカーテンPR活動、種の配付 ・女性委員会広報誌「あれこれ」3回発行 ・第6回建築女子フォーラム・令和7年度第34回全国女性建築士連合協議会 やまがた大会の準備を兼ねてエクスカーション下見を企画、各プランの視察、時間配分、参加者に問題点のアンケートを含め充実したフォーラムとなりました。(30名参加) ・みなさん！今年は全建女「やまがた大会」です。「自然・食・酒」共に「素敵・旨い・嬉しい」が揃ってます。参加申込した方ありがとうございます。お待ちしております！
福 島	令和6年度活動報告 【第1回 福島県建築士のつどい（第39回青年の集い、第35回女性建築士のつどい合同開催）】 R6年9月20日（金）・21日（土）檜葉町 Jヴィレッジ他 20日～21日AM：エクスカーションとフィールドワークで周辺地域の施設等見学、21日PM：青年委員会と合同でつどいと懇親会を実施。原発視察など、リアル参加重視の観点から、WEB配信はしなかった。 ※年4回の女性委員会会議はZoomを活用しつつ開催したが、つどい開催後「リアル会議に戻したい」との意見が複数出た為、リアル会議に戻した。 ◆令和7年度活動計画 青年委員会との「つどい」合同開催について、開催後に賛否様々な意見が出され、現状足並みを揃えるのが難しい事から令和7年度の合同開催は見送られる事になった。女性のつどいの企画についても詳細は未定で、年4回の女性委員会会議にて今後の方向性について協議を重ねて行く。
茨 城	主に県北・県央地域を会場とした「ラブアークセミナー」と県南・県西地域の「わくわくセミナー」を開催しています。内容は「茨城県南地域の水事情と住環境」「スマートハウスについて」「改正相続法・空き家問題編」「古民家の構造の成り立ち」など勉強会が10回、「教えてもらおう！剪定体験」ワークショップが1回、古民家をリノベーションした簡易宿泊所「ARTISN水府」や「筑波山グランピングゲル」の見学会2回、企画会2回の計15回の開催でした。女性委員会広報誌「アイラルネットワーク」を年1回発行、会報誌に同封し、各セミナー報告、女性会員の活動などを紹介しています。会員間の交流を目的として「愛するイバラキの郷土料理で親ぼく会」を開催。そば打ち体験とけんちん汁作りを行ないました。

栃 木	5 月	イベント協力	ダンボールハウスワークショップ 子どもたちが想像力を発揮しながら楽しめる建築体験イベントのサポート
	6 月	研修見学会	パナソニックショールーム宇都宮 ・最新機器でお料理体験、照明計画勉強会
	8 月	イベント協力	ミナテラス栃木 こども建築塾 ・建築の楽しさを伝えるワークショップ
	11月	研修見学会	スノーピーク鹿沼キャンプ&スパ ・建物見学、研修
	1 月	みやJOYけんせつ博	ちょこっとプランニング ・未来の建築士たちが設計の仕事を体験
	広報誌 「モンビュール VOL.83」 発行 (会員の増員を考え、企業、行政、教育機関、に初配布)		

群 馬	群馬建築士会女性委員会の活動は、6月に恒例の「女性委員会の集い」、同日に「環境講座」を桐生市内で開催しました。会場は定期的に一般公開している登録有形文化財「須藤家住宅」、さらに国指定重要文化財「天満宮」、会員による古民家再生の現場も見学しました。 9月には、川場村の庁舎等からなる「川場BASE」、令和7年度開校「川場学園」の見学会を開催し、その晩は宿泊合宿を行いました。令和7年1月には、女性委員会の会議終了後に、委員研修として前橋市内の「白井屋ホテル」からスタートし、著名な建築家による建物の見学をしつつ、まちなかの変容を体感しました。まち歩きによって、会議だけでは不足しがちな委員間のコミュニケーションも図ることができました。3月には「災害時に建築士ができること」をテーマに、防災研修会を開催しました。群馬では、大きな災害が少なく、防災についての意識も希薄ですが、今後継続して研修を行うことで、被災時における建築士としての対応を少しずつ考えていこうと思っています。		
-----	---	--	--

埼 玉	埼玉建築士会女性委員会では、令和6年度は防災に取り組んで行こうという事で、今までの被災地で問題となっているトイレを中心に活動しました。7月20日会員が経営の設備会社（株）太陽商工に於いて災害時のトイレ対策勉強会を開催し、簡易トイレを作るワークショップを行いました。11月25日「防（さい）さいたま」講演会（災害時の命を守るトイレを考える）を開催、日本トイレ研究所 加藤代表理事による「災害時水洗トイレは使えない」及び、高橋会員による自身が設計した公共トイレ「インフラスタンドから考える防災としてのコミュニティ作り」の講演後、災害用トイレのミニワークショップを行いました。一般含め50名が参加しました。この内容は埼玉新聞、埼玉建設新聞に掲載されております。 1月11日、防災地下神殿ツアー・新年座談会を開催しました。内容は、春日部市の首都圏外買放水路の見学後さいたま市内の料亭に於いて新年座談会を行いました。		
-----	---	--	--

千 葉	【令和6年度 活動報告】 ★防災小委員会 ・出前講座「逃げ地図」 2025.3.8 佐倉市臼井 ・冊子「地震いつもの備え」普及活動 ★福まち小委員会 ・特別講座 「国際福祉機器展」 見学 2024.10.2 ・出前講座「介護講座」 2024.5.25 香取支部建築士の日事業イベント ★建築と子どもたち ・フォトコンテストワークショップ 2024.4.14 ・フォトコンテストポスター配布 2024.6.30建築士の日事業イベントで各支部掲示 ・「さよならツリーハウス」 君津の森 2025.3.22 ★MUJI BASE OIJAWA 視察 2025.2.7 ★会員獲得活動 免許交付式 2024.1.17～18 合格祝賀会 2025.2.8		
-----	---	--	--

東京	2024年11月に、委員12名で京都への視察旅行へ行きました。1日目は桂離宮、聴竹居の見学で、桂離宮では数寄屋建築の粋を堪能し、聴竹居では松隈章氏の解説のもと、本屋、閑室、茶室を見学。藤井厚二の設計の密度に圧倒されると共に、藤井の理想を形にした大工棟梁・酒徳金之助の存在の大きさに気づかされました。2日目は、建築学会賞作品「郭巨山会所」と北山杉の現地視察でした。日本の住まいから「和室」が消えつつあり、北山丸太の需要が激減しているなかで、地元の方々も「新しい北山杉の売り出し方」を模索されており、視察の後、意見交換を行ないました。東京と地方（山・森）の双方にとってハッピーな木材活用とは何かをこれからも考えていきたいと思います。年末からは、2年に一度のペースで開催している公開シンポジウムの準備を進め、4/19にシンポジウム「使い継がれる集いの空間—大学セミナーハウスを起点として」を開催、5/11には連携企画として現地見学会を実施、いずれも深い学びの機会となりました。
神奈川	神奈川県では、引き続き「ちょこっとプランニング（ちょこプラ）」を継続しています。昨年11月には、横浜市主催の「よこはま建築ひろば」にて、小学校高学年から中学生を対象としたちょこプラを開催しました（詳細はC分科会にて発表予定）。さらに本年6月には、保育園児を対象としたちょこプラも企画しています。2月には、上原会長自らの企画により、東京都港区にある本格数寄屋造りの「大橋茶寮」を見学し、麻布台ヒルズや改装後のホテルオークラ東京ロビーを含む、新橋までの建築物を巡る建築散策を実施しました。3月には、お試し会員を対象とした「鎌倉材木座建築散歩」を開催。材木座の町を歩きながら、在来工法の設計事務所・梅澤アトリエや山田初江材木座の家、築100年を超える材木座公会堂を見学しました。お試し会員の参加はなかったものの、会員・一般を含め16名が参加し、大変有意義な機会となりました。また、同月に行われた建築士免許交付式および合格者セミナーでは、新建築士との交流や勧誘活動を通じて建築士会の魅力を自然な形で伝え、会員増強に努めました。
山 梨	山梨県は以下の活動をしました 毎回、楽しく仲良くをモットーに活動しました。若い会員さんも参加してくれるようになってきましたが今年から女性部は休会となりました。 ＊4月17日・・・お茶会 根津記念館にて13名参加 ＊6月22日、6月23日・・・関東ブロック会議（千葉）女性部の活動を発表 ＊7月14日・・・全国女性建築士連絡協議会（東京） ＊7月31日・・・南アルプス市櫛形児童館にてストローハウス作り指導 ＊10月24・25・26日・・・建築士会全国大会 鹿児島大会 17名参加 ＊11月18日・11月25日・・・甲府工業構造伏せ図指導 ＊3月23日・・・法改正勉強会＆交流会 21名参加
長 野	【1】第16回信州環境エココンテスト開催 R6年12月21日（土） テーマ「もしもの時にも、ホッとできる避難施設」 被災、、、そんな時にもその現実を和らげることができる避難施設。 一次審査：書類審査 応募総数4校157名 二次審査：公開審査 一次審査通過作品（10作品）による作品のプレゼンテーション及び審査員からの質疑 当日ワークショップ：高校生と建築士による交流企画 【2】第37回青年・女性建築士の集い開催 令和7年3月1日（土） 各支部の地域実践活動発表又は支部活動報告 見学ツアー：会場にもなったソソラホールの見学会（耐震改修部分の見学ツアー） 普段、立ち入ることが出来ない天井裏等を見学するツアーで、補強梁をまたいだり、くぐったりのワクワク・ドキドキ・ツアーでした。

新潟

令和6年度活動報告

「ちょこっとプランニング ガタツ子スクール」を開催。

令和6年11月3日(日)、三条市にある三条別院(寺院)で開催された三条マルシェ(三条市共催イベント)に職業体験コーナーとして参加。

参加者は小学生低学年から高学年まで計11名。「図面に家具や壁、ドア、樹木などを描いたり貼ったりして自分の家を設計してみましょう」という内容で、子供たちに設計体験をしてもらいました。

この取り組みは、神奈川県建築士会女性委員会の活動に学び、「子供たちに建築士の存在を知ってもらい将来の夢につなげてもらう活動」として準備を進めていたものです。

「古町花街のまち歩き」を開催。

令和7年5月24日(土)、全国随一の伝統的料亭街である新潟市内にある「古町花街のまち歩き」を行いました。会員30名の参加。

古町花街の伝統ある町並み、登録有形文化財指定の建物などを見学、芸妓文化にもふれる見学会で、会員間の交流も深まる見学会でした。

愛知

①防災セミナー(第53回建築総合展)「水害から考える私たちの暮らし方」講師:中村晋一郎氏(名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻准教授)

②すまいのえほんワークショップの開催

住まいにまつわる絵本の読み聞かせと小さいお家やインテリア、まちづくりを工作でつくる

5月:犬山市立図書館、6月:豊田大和幼稚園、9月:八事東小学校学区山鳩第三子ども会

③すまいのえほんワークショップを椋山女学園大学川野研究室の学生と共同開催
学生オリジナルの紙芝居のあとに工作でインテリアや秘密基地をつくる

9月:千種区民まつりに出展開催 10月:犬山市立図書館 12月:常滑市わくわく体験教室

④見学研修「御殿場の建築を巡る」東山旧岸邸、とらや工房、倫理研究所富士高原研修所

⑤講習会:「男女共同参画」のこれまでとこれから～なぜ「男性の家庭参画」が大切なのか～ 講師:田村哲樹氏(名古屋大学大学院法学研究科教授)

⑥定例委員会:毎月1回開催、情報発信:女性会員向けメール、ホームページ、会報誌にて

岐阜

●講習会『コーディネーターの実践技術』7月25日(木)

インテリアコーディネーターの方を講師に迎え、内装のコーディネートについて学びました。

●見学会『美濃和紙の里会館とうだつのあがる町並み』9月20日(金)

「令和6年度ブロック美濃・関大会」のまちあるきの下調べを行いました。予定時間で収まるか、時間を測りながら移動しました。美濃市で最も古いうだつが上がる今井家住宅では、ガイドさんのお話をゆっくり聞くことができ、有意義な見学となりました。

●公益事業『たくみ女子会』12月21日(土)

女性エンジニアがアドバイザーとなり、学生とグループトークをするという形式のたくみ女子会ですが、昨年度で最後となりました。今年度からは、ぎふ建築担い手育成支援センターからの依頼を受け、『交流サロン』というものになります。

●その他

・『気楽にらくだ会』3月8日(土)

美濃加茂市にあるコワーキングスペースの立上げから運営までを手掛けられた、ライオナガザンの方のお話と見学をしました。

・例会を合計6回実施しました。

・女性委員会より『らくだ』52号、53号を発行しました。

三 重

三重県では、毎年県内で新しく完成した建物の見学会を開催しております。昨年度は令和5年度木材優良施設等コンクールで木材利用推進協議会会長賞を受賞しました三重県林業研究所 みえ森林・林業アカデミー棟、森田恭通氏デザインのカメヤマローソクタウン、みえこどもの城ドームシアタープラネタリウム改修工事の見学会を行いました。

6月にはJR関西線新堂駅に隣接するSHINDO YARDSと名付けられた専門書中心の図書館と伊賀市役所支所、カフェなどが併設された複合施設の見学を行いました。見学会は女性会員に限らず、県内の建築士会所属の方及びそのご家族やお知り合いの方も参加可能な形をとっており、昨年度は三重の木椅子展実行委員会に所属する作家の方との交流もできました。建築士会に限らず、幅広く接点を持つために、今後もこのような見学会を企画していきたいと思っております。

富 山

富山県医師会館見学会
開催日：令和6年7月20日（土）
開催場所：富山県医師会館
参加人数：49名

【第一部 令和6年度能登半島地震の対応報告】

富山県医師会会長の村上氏より、医師会の対応報告をお聞きしました。
富山県建築士会会長の西野氏より、応急危険度判定、被災住宅相談所、被災家屋の罹災証明二次調査、耐震化と液状化被害復旧セミナー、文化財ドクターなどの報告がありました。

【第二部 見学会】

会館建設担当の医師会副会長の堀地氏より建設の経緯を伺いました。
設計を担当された、押田建築設計事務所の数井氏より設計趣旨をお聞きしました。

興国寺見学会
開催日：令和6年11月23日（土）
開催場所：臨済宗国泰寺派興国寺（平成29年4月竣工）
参加人数：14名（講師含む）

第一部は住職により、禅宗のお話や、興国時の成り立ちについてお話しいただきました。
第二部は、施工された犬島さん、當田さんの説明を受けながらの見学を行いました。

石 川

令和6年は能登半島地震の被災地の復旧・復興のため、何ができるかと模索した活動となりました。昨年の被災地報告のあとに、今どんな状況であるのか知ってから見えてくるものがあるのではと、能登の被災状況を視察で廻りました。和倉温泉の被災建築の見学、意見交換会を企画し行いました。女性委員会のみならず、他の会員の皆さんとも、能登の復旧にかかわっている中での様々な意見交換の場となりました。

また、例年行ってきたお茶会・お茶室見学会は加賀市山中温泉の加賀依緑園で行いました。素晴らしいお庭と宮大工の技を設計の方と大工さんに解説頂き勉強することができました。毎年全女性委員会メンバーに配布しています、花だよりで活動報告や皆さんとのスナップ写真を掲載し活動の周知と参加を呼び掛けをしています。

福 井	○見学会 ESIKOTO（福井県吉田郡永平寺町）・新春のつどい 2025年2月1日 《ESIKOTO概要》 自然に囲まれた美しい里山の一角に2022年6月にオープン。運営は、国内外で高い人気を誇る日本酒ブランド「黒龍」を手掛ける黒龍酒造の親会社である石田仁左衛門株式会社。レストランやショップ、セラーを備えた日本酒発信の総合施設。酒樂棟(しゅらくとう)、臥龍棟(がりゅうとう)、蒸留所、醸造ラボ、オーベルジュなどの建物がある。 ○住教育事業（2013年度より継続事業／青年部共同事業） 2025年 3月 9日（土） 鯖江市立立待小学校準備会 2025年 3月19日（水） 鯖江市立立待小学校（4年生84人） ○えいじゅ通信の発行 青年部が発行する「かわらばん」に女性委員会の情報発信をする「えいじゅ通信」を毎月掲載しています。 ○ふくい建築情報フェスタ 2024年6月30日（日）親子工作コーナー（青年部と共同事業） ○定例会議（対面）実施
滋 賀	令和6年度女性委員会主催事業 DoシリーズNo.88は、『近江日野商人のふるさと日野町 伝統的建物と町並みの保存について考える』と題し、NPO法人日野まちつなぐ研究所のトム・ヴィンセント氏の案内で、伝統ある町家が失われていく現状を見て歩き、町並み保存の取り組みと課題についての講義と意見交換会を行いました。 また、DoシリーズNo.89は、『～住み継がれる古民家のために～ 旧木之本宿本陣（竹内家住宅）の改修方法を学ぶ』を開催し、快適な暮らしを実現されたお宅を訪れ、(株)松井郁夫建築設計代表の松井郁夫氏により、古民家の弱点である「暗い・寒い」「耐震性能に劣る」ことを解決した再生手法についてご講義いただきました。 今年度も視点を広げて、より多くの方に参加していただける事業を行いたいと思います。
京 都	京都府建築士会の女性部会では令和6年度は、 ① 宗教建築の見学会として亀岡市にある「大本」を見学。 ② 昨年度から続く京都ならではの伝統文化ということで「香道」体験を実施。 ③ 女性部会創設40周年にあたり、本年2月9日に、創設40周年記念式典を実施。 ④ 近畿建築士会協議会への参加。 ⑤ 令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会（東京）への参加。 以上5つが主たる活動でした。特に③の内容としては、トランスジェンダーの今西千尋氏をお迎えし「自分らしく生きる・性別変更と家族の絆」テーマでご講演いただき、パネルディスカッションを通して、今の時代「青年」「女性」という委員会・部会の別が必要なのかに迫り、若年層とシニア層のジェンダーに対する意識の違いを浮き彫りにし、参加者それぞれが「自分らしく生きる」ことの気づきを得たと感想がありました。また、近畿の各女性委員会の代表者にもご出席いただき、懇親と絆を深めることができました。
大 阪	令和6年度は、昨年に続き、一級建築士製図試験対策として、大学及び制振設備や省エネに配慮した新築ビルを見学し、空間を感じ、設計製図に活かすことができるよう見学会を実施しました。また、建築を学ぶ学生を応援する企画として「ガクチカ展」を開催しました。「ガクチカ」とは、学生のうちから自分自身をきちんとPRできる力をつけようという意味です。学生にはプロフィールシートを作成してもらい、賛助会員に協力をお願いして、企業側が面接してみたい学生を選びます。学生は、今取り組んでいることや興味のあること、自身の強みを思いっきりアピールします。20分3交代制として実施しました。終了後交流会を開催し、選ばなかった他の学生とも話をする機会としました。自信をもって就職活動に挑める一助となるように、令和7年度は、参加者を増やして実施します。 最後に、全国大会おおさか大会でみなさまとお会いできることを楽しみにしています。

兵 庫	兵庫県は日本海と瀬戸内海に面した南北に長い地域であるため、女性委員会の会議はオンラインが中心ですが、年1回は懇親会を開催し、楽しい会を心掛けて活動しています。 令和6年度の主な活動 女性部会〔会勢強化と情報発信〕 建築文化交流事業「旧甲子園ホテル見学と甲子園口駅周辺まち歩き」を行い、女性会員だけでなく、男性や一般の方も参加していただき交流しました。 研究部会〔自主的な研究研修〕 ユニバーサルデザイン（UD）研究会が、年7回の勉強会のほか、UDセミナーの実施と、住宅改修ガイドブックの企画編集を行っています。 普及啓発部会〔市民向け普及啓発〕 「暮らしも気持ちもアガる色彩の魔法～住まいを彩るカラーマジック」と題し、セミナーとたらしみアート体験を実施。毎年人気のある講座を企画しています。 令和6年度に女性委員会は40周年を迎えました。仕事や子育て、介護などで、活動から一時的に離れる期間があっても、いつでも戻ってこられるような会をめざしています。
奈 良	奈良県建築士会女性委員会は、現在、17名で活動しています。構成は、委員長1名、副委員長2名をトップとし、3つの部を設け、各部会の部長を中心に事業を進めております。 部会は、女性委員会の活動を広報し、更にすべての会員に参加いただける事業企画をする「広報委員会」、和室について見識を深め見学会・勉強会について取組む「和室部会」、子どもにやさしいまちづくりや環境バリアフリーについて学び、実際にまちにでて検証などをする「福まち部会」で活動しております。 広報委員会では、昨年度は、奈良県橿原市の今井町並保存整備事務所の方を講師に迎え、重要文化財の建物を見学しながら、今井町保存事業についてお話をうかがいました。 和室部会では、委員会メンバーが東吉野村で設計した古民家移築の高齢者施設での棟上げの見学会を実施し、いずれの企画も女性のみならず多くの会員に参加いただきました。 しかしながら、現在は、単発的な見学会などの企画にとどまっており、今後は、各都道府県の皆様の取組を参考に継続的に探究できる事業を考えていければと思います。
和歌山	和歌山県建築士会 女性委員会では、木工教室や木育キャラバンへの参加を通じて、子どもたちに紀州材や、山の木がどのように建物に使用されているかなどを知ってもらう、木育活動を続けております。紀州材を使った木のカレンダーや時間割表を親子で作成していただいたり、作成前には、木についての紙芝居を行い、林業や建設業、建物に興味を持っていただき、建築士会を身近に感じていただけるような取り組みを行っています。また、今年の4月には、普段はあまり会えない地域の委員との交流を目的に、委員会と見学会を紀南地域で行いました。委員会は引き続きZOOMと対面のハイブリット形式で行い、仕事や子育てに忙しい世代にも参加しやすい、委員会活動を行っていきたいと思っています。
鳥 取	令和6年度の活動内容は、定例女性委員会3回、青年女性合同委員会1回その他、「防災出前授業」（高校生1回と地域1回）、「学生デザインコンペ」、今年OPENした「鳥取県立美術館のOPEN前見学勉強会」と、建築の日には小学生親子を対象とした「折り紙建築」のワークショップを実施し、「高校の学校祭」には、VRゴーグル、ブナの木ブレスレット作りと、折り紙建築を出店しました。防災出前授業では、HUG（避難所運営ゲーム）では身近に災害を感じてもらい、自分たちは何ができるかを考えてもらいました。学生デザインコンペは、7回目を迎え参加作品数20点で実施しました。

島 根	島根県では、会員増強や地域の学生との交流を深めるため「建築文化祭」を学生と一緒に開催しました。模型ワークショップ、進路相談、学生の模型や研究展示を一般参加型で行いました。毎年開催される県内での地域実践活動報告会も同時開催して一般の方や学生にも聞いていただきました。進路相談では中学生から大学生まで来ていただき、建築学科の進路相談や大学の研究内容についての相談があり、学生もスタッフとして参加したため会員と学生で交流することができるいい機会となったと思います。
岡 山	岡山県建築士会女性部会は、令和6年度以下の活動を行いました。 ☆役員会（月1回開催） ☆県外建築見学会（兵庫県） 毎年行っているバスを使用した県外への見学会は、今年は防災をテーマに、兵庫県の「人と防災未来センター」を見学しました。 ☆情報誌フフ発行（4回） 継続して行っている、部会活動報告のための情報誌を4回発行しました。 ☆防災フィールドワーク（岡山県真備町の水害被災地） 「令和7年度 青年・女性建築士の集い 中四国ブロックおかやま大会」開催にあたり、分科会として防災に関するワークショップを計画しており、部員のための勉強会として、水害の被災地である岡山県真備町でフィールドワークを実施。現地を見学し、被災した方の話を伺いました。 ☆福祉に関する一般向けセミナー開催 介護保険を使用したリフォームについて、建築士会会員外の方を対象に勉強会を行いました。
広 島	令和6年度、広島県女性委員会では、定例会議を対面とオンラインの併用により開催し、より多くの方々の参加を促進しました。6月には「青年・女性建築士の集い 中四国ブロック広島大会」を主催し、参加者同士の交流を通じて、新たな学びや気づきが生まれる充実した時間となりました。 委員会内外での交流のほか、ドローン講習会や見学会、防災イベント（パラコードワークショップ）を実施し、多様な視点からの学びを深めました。また、全国女性建築士連絡協議会への参加を通じて、委員一人ひとりが建築士としての視野を広げる貴重な機会ともなりました。来年度は、建築士の専門性をいかし、地域に寄り添った活動の展開を目指し、委員会一丸となって取り組んでまいります。
山 口	●女性部勉強会 ①カラーコーディネートの勉強会（パーソナルスタイリストの講師の方を迎え、「装力で自分をデザイン」というテーマで色についてのお話を聞く、又インテリアなどにも役立つ色の組み合わせを学ぶ） ②住まいの照明勉強会の開催（照明器具メーカーの講師の方を迎え、主に住宅の照明計画について学ぶ） ③住まいの庭づくり勉強会の開催（造園会社の社長さんを迎え、参加者の作成した外構プランの講評や空間づくりのアドバイスを頂く） ④湯本温泉施設見学会（会員が手掛けた施設を設計者解説付きで見学） ●交流会 ①広報誌「かわら版」の300号記念座談会を開催（これからのかわら版や女性部の活動について意見交換をする） ●広報 毎月、情報誌として「かわら版」を作成しメールにて配信 女性部の活動をより沢山の方に知ってもらえるように、SNSを利用した情報発信の準備をしました。近日、女性部専用のインスタグラムを公開する予定です。

徳 島	令和6年度の徳島県建築士会男女参画委員会の活動は、多様な取り組みを通じて、建築分野の発展と社会との関わりを促進しました。 委員会会議を4回開催し、建築とSDGsの関係を深掘りする勉強会や、まちづくりに関するワークショップ、徳島版NE-STチャレンジ勉強会などに参加しました。 また、旧庁舎イベントやひょうたん島再考ワークショップを通じて、地域の歴史や再生の可能性を探る機会を得ました。さらに、齋藤由佳子座談会や「太陽の塔」バスツアーを開催し、交流の場を広げるとともに、文化への理解を深めました。各イベントには多くの参加者が集まり、建築を通じた社会課題へのアプローチや新たな視点の獲得に寄与しました。この一年の活動を通じて、持続可能な建築のあり方を探るとともに、男女参画の推進にも貢献しました。
香 川	昨年度は、女性委員会の意義を探究しつつ「フットワーク軽く」を合言葉に県内外の交流を図りました。各事業は未来の建築士への普及活動及び、会員に向けての研鑽と交流の機会となる事を目的としました。多くのご参加を頂き、委員会活動の一端を知っていただける機会となりました。今年度は昨年からの継続事業に加え、SDGSをテーマに産廃・再エネ施設の見学等を予定しております。 昨年度事業 定例会議 年6回 青年・女性合同会議（年3回） 6/8・9 青年・女性建築士の集い中四国ブロック広島大会（8名） 7/14・15 第33回全国女性建築士連絡協議会 会場6名、web3名計9名参加 7/24 全建女県内報告会（ZOOM）（8名） 9/20 一級建築士設計製図試験課題類似施設見学会（6名） 10/25・26 第66回建築士会全国大会鹿児島大会 12/10 [嵯川土塀修復プロジェクト]活動報告会&交流忘年会（10名） 1/23 [徳島文理大学高松駅キャンパス]見学会 第一部：建築士会員対象 24名 第二部：高松工芸高校 建築科2年生対象 36名 3/22 新規入会者対象「時の納屋」見学会（事務局・青年・女性合同開催）新入会員3名
愛 媛	令和6年度 愛媛県活動報告 ・5月 スキルアップセミナー「堀部安嗣講演会」 青年委員会等と共に建築家、堀部安嗣氏の講演会を開催しました。非会員、県外からも含め約120名の参加者がありました。 ・9月 若手建築志(士)交流会 in 愛媛 青年委員会による中四国ブロックの若手会員交流会に協力、参加しました。愛媛県東予地区3市にわたるエリアで地元産業の水引制作や手漉き和紙づくりを体験、浦辺鎮太郎設計の西条栄光教会と改修された牧師館、幼稚園舎(現・認定こども園)を見学しました。 ・11月 県内見学会「三津地区散策・見学会」 コロナ禍の2020年に、松山の海の玄関口だった三津地区の見どころを記載した地図を作成し、各自で行う「集まらないセルフ見学会」を企画しました。当時の地図も活用して散策しつつ、地元の街歩きガイドさんに新スポットを紹介していただきました。古民家を改修したお店でランチ会の後、家具修理工房の見学をしました。 今後も多くの方に参加してもらえる事業を企画したいと思います。

高 知

令和6年度 高知県活動報告

●いたわり住宅及び空き家利活用無料相談会開催

12月、3月を除く毎月第4土曜、全10回開催。

●青年・女性合同定例勉強会

11月と3月を女性委員会が担当し、11月は「いつも防災」と題して防災マップ作成や防災グッズの紹介、3月に建築士の為の埋蔵文化財講話で開催。

●8月17・18日 とさっ子タウン参加

500人ほどの小4～中3が集まるこどもだけのまち「とさっ子タウン」で「建築デザイナー」ブースを担当。昨年度は「新聞社」の設計依頼を受け、子どもたちが建築士の役割や魅力を体験。市民投票による最優秀作品は翌年タウン内に実際に建設される。

●9月28日 第45回サマーセミナー

東日本大震災をきっかけに、宮城県石巻で空き家活用ビジネスを行っている「(株)巻組」の渡邊亨子氏を講師に迎え、ハイブリッドにて開催。スタッフ含め参加者116名。

●異業種交流会（ミニ講演+交流会）

3月18日に県内動物園の女性学芸員を講師にお迎えし30分講演のあと、交流会を開催。参加者30名。

福 岡

◆お仕事体験ワークショップ

毎年継続参加している福岡市主催の一人一花サミットへの出店で、子どもたちに小さな木の家づくり体験をしてもらいました。例年は、上棟までスタッフがいき、その後、子どもたちが壁に木を貼る体験をしていましたが、今回は、軸組をくみ上げるところから子どもたちに行ってもらいました。

◆見学会 地下雨水調整池を見に行こう！

防災意識向上を目指して、福岡市の地下にある巨大雨水貯水施設の見学会を行いました。過去に博多駅周辺の地下街を襲った浸水被害を受けて策定された計画の話聞き、普段見ることのできない貯水施設の中を見学しました。

◆2025年九州ブロック研究集会「建築士の集い福岡大会」実行委員会

8年に一度の「福岡大会」開催に向けて、計8回の実行委員会を開催しました。

2000年の歴史が積層する福岡市天神地区で、現在、規制緩和により都市再開発を誘導するプロジェクト天神ビッグバンが進行していることから、『伝統と革新』というテーマの下、分科会等のプログラムを検討しました。

佐 賀

9月：定例会

ざっくばらんに座談会～法6条ってどんな変わる？～

をテーマに会員講師を招き、淹れたてのコーヒーやお菓子を片手に、和やかな雰囲気の中色々な情報交換などを行った

意外に普段、お互い仕事の話をする機会があるようではなかった、という声も聞かれた

3月：会員増強と県内会員の交流を目的に女性委員会で交流会を企画

サウナ施設のあるキャンプ場で、メディアでも注目された佐賀県武雄市にある

「OND PARK（オンドパーク）」を施設の方に案内していただいた

講話では、関係各所との協議に時間を要してもなお、「生まれ育った武雄に恩返しをしたい」という気持ちの強さに大変感銘を受け、ランチ会では施設見学の感想やお互いの仕事の話など、楽しく交流ができていた

初参加や非会員の参加もあり、参加しやすいイベント内容だったので参加しようと思ったという感想も聞かれた

今後も、ちょっと参加してみようかなと気軽に思えるイベントを企画していきたいと思う

長 崎	【令和6年度長崎県活動報告】 ○「和の空間」（長崎県女性委員会の事業として継続） 永山家住宅（平戸市）・楠本端山旧宅（佐世保市）・波多野邸（長崎市）の視察・調査 ○親子木工教室&夏季そうめん流し交流会（青年女性委員会＋長崎支部青年部・女性部会） 親子で椅子の工作。組立てから色塗り（フィンガーペイント）を行い、モルックというスポーツや そうめん流しをして親睦を深める催しとなりました。参加者26名 ○住宅フェアへの参加（青年女性委員会＋長崎支部青年部・女性部会） ミニブロック、無料住宅相談会、パネル展示 限られた人数と予算のため、令和6年度は青年委員会や支部の部会と共に活動しました。 また、隣県開催の事業へ参加しイベント周知の方法など本県でも今後活かしていけたらと勉強になりました。令和7年度は青年女性委員会として共に活動していく方針となりましたので、広がりが生まれるような活動を企画して建築士会の魅力を発信していけたらと思っております。
熊 本	○住まいづくり無料相談会 毎月第4土曜日の午後、3組枠の予約制で実施しています。令和6年度は自宅のリフォーム・実家（空き家）について・中古住宅購入について等の内容で、26件の相談がありました。 ○長寿命化改修工事現場見学会 敷地内の石垣の一部が特別史跡の指定を受けているとともに、敷地全体が熊本城遺跡跡群として文化財包蔵地の指定を受けている、昭和33年に建築された県立高校の普通教室棟（RC4階建、延べ面積3,541㎡）の大規模改修工事のうち、鉄筋コンクリートの中性化対策・屋内階段の全面改修の見学会を行いました。 ○つまみ細工でつくるインテリア小物 つまみ細工を勉強している建築士会会員を講師として、色彩豊かなちりめん布で、つまみ細工をあしらったしめ縄作りを行いました。 ○ひなまつりランチ会 築145年の古民家の歴史あふれる石垣のたたずまいを残した情緒あふれるレストランで、自然栽培（肥料・農薬不使用）のお米やお野菜、蔵付き天然発酵菌の調味料をふんだんに使ったお料理をいただきながら、会員同士近況報告や情報交換を行いました。
大 分	第4回建築女子会in別府の開催報告 2025年3月15日、「建築女子たちの結束を深めつつ、別府の近代建築と伝統文化を学び、地域の魅力を体験する」ことを目的に、第4回建築女子会in別府を開催しました。 建設中の別府市新図書館の現場見学に始まり、ランチを挟んで参加者間での交流を行いました。午後からは会員が設計し各種賞を受賞している話題の宿泊施設「ガレリア御堂原」を訪問。「別府市竹細工伝統産業会館」では、地元の伝統工芸について学びました。さらに、地元ガイドの方を招き、別府市内の登録有形文化財を巡る見学も行いました。 締めくくりには、別府市内での交流会を実施し、男性会員も加わって親睦を深める時間となりました。会員19名、非会員9名の計28名が参加し、大変盛んなイベントとなりました。 なお、今年度は大分県西部の日田市を開催候補地とし、これまで士会イベントに参加したことのない方も気軽に参加できる内容での開催を企画中です。

宮 崎	○きらら研修会in小林 毎年行っている女性員会主体の研修会として、昨年度は小林市の宮崎県ひなもり台県民ふれあいオートキャンプ場にて研修会を開催しました。宮崎県の事業において設計・施工企画コンペで建てられた、木造キャビン4棟の見学し、更にその中の1棟で使用された「MLT耐力壁（CLT耐力壁宮崎モデル）」について、MLT耐力壁の開発にも携わられた講師を迎えて研修を行いました。その後、伝統木工技術「組子」の製作体験としてコースターの作成を行いました。 ○バス待合所リノベーションプロジェクト 宮崎県建築士会の地域貢献活動支援の一環である、地域支援活動費を利用して参加した延岡支部女性委員会の活動です。延岡市は不登校の中学生を対象とした“第三の居場所づくり”として空き校舎を活用して「学びの多様化学校」を開設しています。そこに通う生徒たちの、地域の方々へのお礼として何か活動したいという思いにより企画された、学校前のバス待合所をリノベーションする計画の中で、建築の専門的なアドバイスをもらえないかとの相談が学校からあり、外部専門講師として授業に参加しました。
鹿児島	鹿児島県は令和6年度、全国大会の開催県であったため、全国からの参加者をおもてなしするため「接遇マナー研修」を開催し、会員のスキルアップを図った。大会の実行委員会にも女性会員を数多く配置しており、準備期間から大会当日まで各所で活躍し、男性会員を引っ張っていく頼もしい女性会員の姿が見られた。 また、「おごじょミニセミナー」と題した小規模での対面形式セミナーを2回開催し、ジェンダーギャップをテーマにした意見交換と、グランピング施設体験を行った。各支部を巡る建物見学会は5年ぶりの開催となり、宮崎県士会にもご参加いただき、県や支部の垣根を越えて、交流を深めた。種子島の熊毛支部では、小学生を対象に校舎の実測による縮尺の出前授業を実施。年度末には年間活動をまとめた会報誌「よかおごじょ56号」を発行した。本年度も、女性会員に喜ばれる内容の研修会を充実させ、誰でも気軽に参加できるような部会運営を行っていききたい。
沖 縄	今年度（2024年）は、会員増強につながるイベントとして「ビーチパーティー」と「住宅見学会」を行いました。 「ビーチパーティー」はコロナ後、久しぶりの開催で会員とその家族、ご友人等幅広く呼び掛けました。バーベキューやスイカ割り、じゃんけん大会、会員によるギター演奏などもあり、楽しく交流を図ることが出来ました。 「住宅見学会」では、既にお住いの個人住宅の見学会で、キャンセル待ちがでるほど盛況でした。非会員の方にも申し込んでもらえるように、募集前から声掛けをしていた成果が出たと思います。青年・女性委員だけでなく他の委員会も参加して、それぞれの活動内容やイベントを告知する時間も設けました。その反応も良く、活動の楽しさを伝える事が出来たのではないかと感じています。

令和6年度 女性委員会（部会）アンケート集計

		全会員数	女性会員数	全委員会 委員数	女性委員会 委員数	その他の委 員会の女性 委員数	本会（親 会）の賛助 会員数	会長	女性会長	副会長	女性副会長	常務理事	女性常務	理事数	女性理事
1	北海道	3,563	262	86	10	12	35	1	0	2	0	6	2	14	1
2	青森	848	66	105	15	5	0	1	0	3	0	6	0	10	2
3	岩手	1,145		145	17	3	13	1	0	5	0	1(専務)	0	17	3
4	宮城	689	93	104	18	0	19	1	0	3	1	0	0	25	4
5	秋田	801	59	5	14	2	120	1	0	3	0	4	1	16	2
6	山形	840	79	63	10	3	6	1	0	3	0	5	1	19	3
7	福島	1,627	76	80	14	5	6	1	0	4	1			40	3
8	茨城	1,753	156	101	10	11	143	1	0	3	0	5	0	22	2
9	栃木	1,048	85	137	18	3	161	1	0	4	1	1	1	41	0
10	群馬	1,137	111	128	25	14	15	1	0	4	1	12	1	15	1
11	埼玉	1,422	88	60	12	5	95	1	0	3	0	5	1	38	6
12	千葉	1,499	158	150	14	10	89	1	0	3	1	3	0	29	2
13	東京	5,055	672	244	19	52	246	1	0	5	1	0	0	23	4
14	神奈川	2,241	321	151	12	39	84	1	0	3	1	4	2	19	6
15	山梨	1,024	85	121	61	8	27	1	0	3	0	0	0	33	4
16	長野	1,966	173	53	5	2	10	1	0	4	0	2	0	29	3
17	新潟	1,616	115	72	9	8	38	1	0	3	0	1	1	29	2
18	静岡	1,164	70	164	0	10	149	1	0	3	0	3	1	9	0
19	愛知	3,249	289	435	27	44	128	1	0	4	1	4	2	4	1
20	岐阜	957	77	165	26	16	56	1	0	4	1			20	1
21	三重	716	66	82	6	3	27	1	0	3	0	0	0	20	3
22	富山	1,227	159	95	18		125	1	0	2	0	5	0	28	3
23	石川	1,223	136	165	33	25	44	1	0	8	1	10	1	25	1
24	福井	908	83	143	83	18	312	1	0	4	0	7	0	18	3
25	滋賀	740	60	134	14	14	64	1	0	5	0	3	1	35	4
26	京都	1,149	130	104	17		55	1	0	7	2	2	1	35	4
27	大阪	2,485	225		16		139	1	0	5	2	1	0	47	11
28	兵庫	1,232	103	45	10	4	34	1	1	4	1	0	0	25	2
29	奈良	688	65		15		49	1	0	5	1			21	2
30	和歌山	1,168	87	216	29	19	62	1	0	5	1	6	1	23	2
31	鳥取	992	65	61	11	5	227	1	0	3	0	1	0	26	4
32	島根			77	11	6		1	1	3	0	8	3	8	0
33	岡山	1,299	172	103		19	83	1	0	3	1	5	0	26	4
34	広島	1,576	143	192	13	27	36	1	0	2	1	3	1	26	5
35	山口	1,584	119	49	0	5	135	28	0	28	0	28	0	28	2
36	徳島	972	100	69	16		30	1	0	6	1	5	1	12	1
37	香川	1,304	138	104	7	10	104	1	0	3	1			49	5
38	愛媛	1,423	120	78	13	9	53	1	0	2	0	3	0	18	2
39	高知	831	92	69	25		147	1	0	3	1			21	4
40	福岡	1,894	173	131	14	7	11	1	0	6	1	1	0	9	1
41	佐賀	892	85	99	10	5	32	1	0	3	0	3	1	35	6
42	長崎	977	69	71	6	4	355	1	0	3	0	0	0	24	2
43	熊本	1,254	142	131	19	0	37	1	0	3	1	11	2	17	0
44	大分	1,046	100	185		25	86	1	0	4	0	4	2	31	2
45	宮崎	904	67	74	9	7	122	1	0	5	0	3	1	28	3
46	鹿児島	1,778	134	152	19	18	61	1	0	4	0	14	1	47	5
47	沖縄	969	107	112	25	10	83	1		4	1	2		27	2
合計		64,941	5,979	5,325	792	478	3,929	74	2	202	24	175	28	1,173	135

		支部長	女性支部長	委員長数	女性委員長	女性が委員長を勤める委員会	その他の役職	全体予算	交通費	渉外費	活動費	その他
1	北海道	34	0	10	2	女性委員会、会員増強特別委員会	監事	473,000	179,600	135,800	157,600	
2	青森	10	0	8	1	女性委員会		200,000				22,000
3	岩手	12	1	11	2	女性委員会、岩手地域貢献活動センター		100,000				
4	宮城	14	0	9	1	女性部会		375,000	0	125,000	210,000	40,000
5	秋田	8	1	5	1	女性委員会	監事・まちづくり・事務局次長	220,000	60,000	110,000	50,000	
6	山形	9	0	7	2	まちづくり、女性委員会		550,000	50,000	250,000	250,000	
7	福島	17	1	6	2	女性委員会、会員広報講習委員会		300,000	200,000		100,000	
8	茨城	23	1	7	1	女性委員会		520,000		100,000	420,000	
9	栃木	12	1	8	1	女性委員会		600,000	100,000	200,000	300,000	
10	群馬	12	0	8	2	女性委員会、建築相談委員会		470,000	80,000	160,000	220,000	10000通信費
11	埼玉	14	1	5	1	女性委員会	常務理事	350,000	150,000	100,000	100,000	
12	千葉	21	1	8	1	女性委員会		600,000		210,000	390,000	
13	東京	12	1	15	2	女性委員会、環境委員会	幹事					
14	神奈川	9	1	13	4	女性委員会、交流活動委員会、防災・災害対策委員会、まちづくり委員会		545,360	90,360	183,000	244,000	28,000（会員増強活動費として）
15	山梨	10	0	5	0			400,000	75,000	120,000	25,000	32,000
16	長野	14	3	6	0		監事					※委員会としての予算は無し
17	新潟	15	0	7	1	女性委員会						※女性委員会としてではなく事業ごとで予算を決めています。
18	静岡			8	0							
19	愛知	21	1	16	2	女性委員会 建築相談委員会	構造委員会副委員長、まちづくり委員会福祉部会長	1,127,000	200,000	337,000	390,000	200,000
20	岐阜	8	1	8	2	女性委員会 まちづくり委員会		643,000	233,000	254,000	145,000	11,000
21	三重	10	0	9	2	女性委員会 防災・福祉まちづくり委員会		353,820	132,400	30,000	81,160	7,700
22	富山	6	1	9	2	広報委員会、女性委員会		301,410	50,000	140,000	111,410	
23	石川	11	0	9	1	女性委員会		800,000	150,000	152,000	473,000	25,000
24	福井	8	0	8	2	CPD・専攻建築士委員会、まちづくり委員会		200,000				
25	滋賀	8	2	10	1	女性委員会		約380,000				
26	京都	8	0	11	0			822,134		21,840	200,314	600000（40周年記念事業）
27	大阪			12	5	青年・女性委員会、賛助委員会、耐震インスペクション委員会、ヘリテージ委員会、建築表彰委員会		▲170,000				
28	兵庫	18	0	6	1	女性委員会		537,890	265,090		272,800	
29	奈良	10	0	9	1	会勢委員会、女性委員会		111,200				
30	和歌山	9	0	10	2	女性委員会、まちづくり・委託事業委員会						※委員会ごとの予算は決めています。
31	鳥取	3	0	6	2	女性委員会 まちづくり委員会		200,000				
32	島根	11	0	7	2	総務委員会、女性委員会		450,000	200,000	50,000	200,000	
33	岡山	11	0	10	2	ヘリテージマネージャー委員会、教育事業委員会		884,400	100,000	143,400	200,000	
34	広島	7	1	11	3	女性委員会、まちづくり委員会、CPD制度・専攻建築士制度委員会	会員増強チームリーダー	287,540	82,960	124,000	80,580	
35	山口	13	1	5	0			1,040,000	210,000	413,860	400,000	16,140
36	徳島	9	0	6	2	事業貢献委員会、男女参画委員会		660,000	30,000	300,000	330,000	
37	香川	5	1	6	1	女性委員会	監事	600,000	40,000	515,000	30,000	15,000
38	愛媛	10	0	6	1	女性委員会		780,000	218,180	350,820	211,000	0
39	高知	1	0	14	3	女性委員会、事業委員会		410,000	79,000	207,000	103,000	21,000
40	福岡	14	0	8	0	なし	なし	1,745,000	100,000		1,645,000	※青年・女性委員会として
41	佐賀	11	2	9	3	総務財務委員会 広報委員会 女性委員会		672,720	72,720	245,000	320,000	35,000
42	長崎	10	0	8	2	広報委員会 女性委員会		96,510	84,080			12,430
43	熊本	12	0	11	1	まちづくり委員会		300,000	100,000	100,000	100,000	
44	大分	14	0	9	0			1,750,000	310,000	220,000	1,220,000	※青年委員会と女性委員の合算
45	宮崎	10	1	11	2	女性委員会、ヘリテージ委員会		402,000	118,200	233,800	50,000	
46	鹿児島	13	1	10	0			740,000	130,000	160,000	450,000	
47	沖縄	15		9	1	まちづくり委員会		360,000	360,000			
合計		532	24	409	70							

9 全国大会「おおさか大会」参加のご案内



Social Contribution

Environmental Protection

Global Thinking

Local Action

Disaster Prevention

Welfare Promotion

Universal Design

特集 第67回 建築士会全国大会

「おおさか大会」への

建築から
ソーシャルデザインへ

いざない

2025年大阪・関西万博の開催に合わせ、
大阪で建築士会の全国大会おおさか大会を開催します。
建築士の職能を最大限活かし、社会課題に真摯に向き合い、
その解決策を提示・実行することを目指すという意味で、
テーマを「建築からソーシャルデザインへ」とします。
技術革新により多様化する社会においては、
他分野の専門家との連携は欠かせません。
大阪府内の各行政庁とも連携・協力させて頂きながら、
建築士と各分野の専門家と市民が「共に創る」未来社会を提示します。



提供…(公社)大阪バビリオン



おおさか大会
ホームページ

第67回

建築士会全国大会

おおさか 大会

おおさか大会のテーマ「建築からソーシャルデザインへ」は、多様化する建築のあり方に対する問いかけです。これからの建築士は、建物を生み出すだけでなく、立地する都市の歴史や文化、住民の生活に向き合い、社会をデザインすることが重要です。ポスターデザインにおいては、大阪の過去・現代・未来を「水」「人」「街」の流れに重ね合わせ、色彩豊かに表現しました。

コンセプト／石丸優子(本会青年女性委員)

デザイン／山田陽介(デザイナー)

Architecture to Social Design

67th Japan Federation of Architects and Building
Engineers Associations OSAKA Conventions

建築から
ソーシャルデザインへ

2025.9.19

グランキューブ大阪

530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

■主催…公益社団法人日本建築士会連合会
■共催…近畿建築士会協議会
■主管…公益社団法人大阪府建築士会

大会概要

テーマ

建築からソーシャルデザインへ

会場…グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)
(大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51)

期日…令和7年9月19日(金)

主催…公益社団法人 日本建築士会連合会

共催…建築士会近畿ブロック会
(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)

主管…公益社団法人 大阪府建築士会



会場…グランキューブ大阪



住吉大社



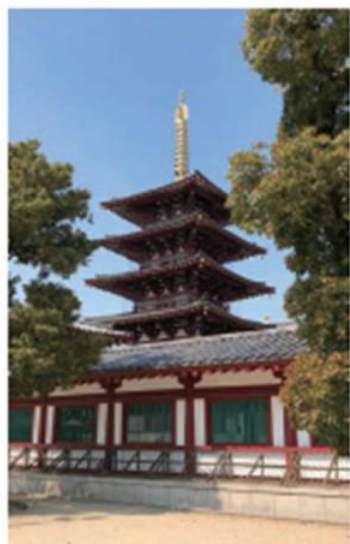
住吉大社反橋(太鼓橋)



大阪城



大阪市中央公会堂



四天王寺



大阪中之島美術館



あべのハルカス



樟尾山観心寺



笑面の滝



綿業会館



通天閣



仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)



グラングリーン大阪



梅田スカイビル



星のブランコ

主なスケジュール

9月18日(木) 大会前日

プログラム	時間	場所	グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)
① 記者会見	13:30~14:30	12階	会議室 1201
② 連合会理事・士会長合同会議	15:00~17:00		特別会議場
③ まちづくり賞発表&選考会	13:00~17:00	10階	会議室 1009
④ 全国建築士フォーラム	14:00~17:00		会議室 1001、1002
⑤ 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会	13:30~18:00	別会場	大阪市中央公会堂

9月19日(金) 大会当日

プログラム	時間	場所	グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)
⑥ 総合受付	9:00~16:00		
⑦ 企業出展	9:00~17:00	3階	イベントホール
⑧ 休憩・食事エリア	9:00~17:00		
⑨ 弁当配布	11:00~13:30		
⑩ 木の建築賞セッション	9:30~11:30	11階	会議室 1101、1102
⑪ 青年委員会セッション	9:00~11:30		会議室 1001、1002
⑫ 女性委員会セッション	10:00~11:50		会議室 1004
⑬ 福祉まちづくりセッション	9:30~11:30		会議室 1005
⑭ 環境部会セッション	9:30~11:30	10階	会議室 1006
⑮ 木のまちづくりセッション	9:30~11:30		会議室 1007
⑯ 景観まちづくりセッション	9:30~11:30		会議室 1008
⑰ 歴史まちづくりセッション	9:30~11:30		会議室 1009
⑱ 街中(空き家)まちづくりセッション	9:30~11:30	8階	会議室 801、802
⑲ 防災まちづくりセッション	9:30~11:30	7階	会議室 701、702
⑳ 大阪講演-1	10:00~11:30	12階	特別会議場
㉑ 大阪講演-2	10:00~11:30	10階	会議室 1003
㉒ 記念講演会	13:00~14:30	5階	メインホール
㉓ 大会式典	15:00~17:00		
㉔ 大交流会	17:30~19:00	別会場	リーガロイヤルホテル大阪

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
⑤		総合受付												
⑦ ⑧ ⑨		企業出展、休憩・食事エリア												
⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰		弁当配布												
⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰		交流セッション(木の建築賞、福祉、環境、木、景観、歴史、街中〈空き家〉、防災)												
⑪		青年委員会セッション												
⑫		女性委員会セッション												
⑳ ㉑		大阪講演 1,2												
㉒					記念講演会									
㉓							大会式典							
㉔									大交流会					

女性委員会セッション

テーマ

思いっきりバージョンUP! Part3

～誰もが参加したい 未来の「魅力ある建築士会」とは～

運営 | 女性委員会

目まぐるしく変化する予測困難な時代においては臨機応変な対応と自らを変革し続ける力、そして多様性が求められます。このような時代の中で建築士会を未来につなげていくには、皆が意を一つにして建築士会のあり方について情報、意見交換し、再考することが重要と考えています。2023年しずおか大会でのpart1、2024年鹿児島大会でのpart2では活動報告という形をとってきましたが、今回のpart3では会場の皆さまとディスカッションする機会をもちたいと思います。

だれもが参加しやすい、入ってよかったと思える「魅力ある建築士会」にするにはどうすればよいか。在籍する私たち自身が「思いっきりバージョンUP!」できるような、楽しく、時には熱く語り合える場になればと思います。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

日時…令和7年9月19日(金) 10:00～11:50

会場…グランキューブ大阪 10階 会議室 1004

定員…63名(予定)



思いっきりバージョンUP!
Part1 活動報告動画
(しずおか大会)



思いっきりバージョンUP!
Part2 活動報告動画
(鹿児島大会)



鹿児島大会での女性セッションの様子

福祉まちづくりセッション

テーマ

ユニバーサルなまちづくりを目指して

～大阪・関西万博におけるユニバーサルデザインの計画と見直し～

運営 | 福祉まちづくり部会

バリアフリーやユニバーサルデザイン(以下UD)は、私たちの暮らしの中では当たり前と認識される社会になりつつありますが、実際にはさまざまなところで、障がいを持つ当事者たちが取り残されているという現実があります。

国をあげての事業である今回の大阪・関西万博も例に漏れず、最初に発表された万博UDガイドライン(2021年9月公表)は、障がい当事者の関与が行われずに作成されたものでした。その後、障がい当事者参画による万博UD検討委員会が組織され、万博UDガイドラインの改訂が行われたという経緯があります(改訂版は2022年3月公表)。障がい当事者がどのようなことを強く望み、訴え、こだわりぬいてガイドラインが本来あるべきものへと改定されていったのかについて、障がい当事者の声と共に伝えます。これに加えて、全国の他事例を参照し、施設整備時のUD検討プロセスを比較することで、現状の課題を明らかにしてみたいと考えています。

日時…令和7年9月19日(金) 9:30～11:30

会場…グランキューブ大阪 10階 会議室 1005

定員…60名(予定)



万博UDガイドライン
検討に於けるモック
アップの様子

また、街の中に存在するさまざまなバリアについて、上記の万博UD検討委員会で委員を務められた方(車いすユーザー)からお伺いした貴重なお話を報告いたします。

誰もが取り残されることのないまちづくりは、少し視点を変えるだけで実現に繋がることを、建物や街を造ることに関与している私たちは、しっかりと理解する必要があります。このことを踏まえて、今年の福祉まちづくりセッションを展開する予定です。

10 協賛団体・企業

協賛団体・企業・個人の皆様

(順不同)

豊でおもてなしプロジェクト実行委員会

株式会社 ムラヤマ

東洋設備工業 株式会社

株式会社 アールテック

ITO designs 合同会社

有限会社 赤谷建築設計事務所

秋野建築設計事務所

秋葉建築設計

有限会社 浅黄製甲

アサクラ設計事務所

ATOM 設計室

株式会社 安孫子建築事務所

あべ建築設計事務所

阿部多 株式会社

あべちあき設計室

株式会社 イイダ設計

株式会社 イイダ設計 尾花沢分室

有限会社 石山建築研究所

泉興業 株式会社

エッグシステム 株式会社

有限会社 エフティ共立建築事務所

遠藤設備建設 株式会社

太田建設 株式会社

オーデリック 株式会社

荻野建設 株式会社

株式会社 カゲサワ

鹿島建設 株式会社

株式会社 カタチハウス

金屋 株式会社

株式会社 みなと

カラス電機 株式会社

川田建築設計事務所

クマリフト 株式会社

黒澤建設工業 株式会社

有限会社 黒沼建築設計事務所

K-Design

株式会社 KOEI

一級建築士事務所 近野設計事務所

笹・空間計画

株式会社 佐藤江理子建築工房

株式会社 佐藤工務

株式会社 サトー住販

三條物産 株式会社

株式会社 三和技術コンサルタント

株式会社 ジェック

株式会社 シグマット 山形支店

一般社団法人 秋田県建築士会

女性委員長 清水川 道子

荘和設備工業 株式会社

神保左官

株式会社 新和設備

株式会社 菅原工務所

株式会社 菅原工務店

株式会社 鈴木建築設計事務所

株式会社 鈴木工務店

株式会社 スペースパーツ山形

※次ページに引き続き、ご協賛いただいた皆様を掲載しております。

※令和7年度第34回全国女性建築士連絡協議会開催にご協力・ご協賛いただき感謝申し上げます。

協賛団体・企業・個人の皆様

(順不同)(前ページからの続きです)

有限会社 関川瓦工務店	福井コンピュータアーキテクト 株式会社
瀬野設計	布施建設 株式会社
株式会社 太平堂塗装	株式会社 フルカワ
立花産業 株式会社	本間建設 株式会社
株式会社 多利加	升川建設 株式会社
株式会社 千代田	株式会社 村建
有限会社 天童住宅設備	村山設計工房
株式会社 天童木工	株式会社 メコム
東北企業 株式会社	株式会社 山形県建築サポートセンター
東北電化工業 株式会社	一般社団法人 山形県建築士事務所協会
東北電機鉄工 株式会社 山形支店	山形建設 株式会社
一級建築士事務所童夢	一般社団法人
トーエイ工業 株式会社	山形県設備設計事務所協会
富樫設計室	山形県電気工事工業組合
株式会社 徳正合板	山形サンダー 株式会社
TOPOS 一級建築士事務所	山形パナソニック 株式会社
有限会社 中川建築設計事務所	協同組合 山形木造住宅
中村塗料販売 株式会社	プレカットシステム
新井野郁子建築設計室	株式会社 ヤマケンマシナリー
株式会社 西村工場	ヤマックス建材 株式会社
日栄産業 株式会社	株式会社 ユアテックサービス
公益社団法人 日本建築家協会	株式会社 ユアテック山形支社
東北支部山形地域会	株式会社 利共瓦板金産業
株式会社 野口	株式会社 RESTA
株式会社 原田瓦工業	亮設計
有限会社 平田建築設計	Y K K A P 株式会社
株式会社 平吹設計事務所	若林建築設計事務所
合同会社 ファミリー不動産	渡辺ヒーティング 株式会社
株式会社 フーツラ	株式会社 ワタベ工芸

他、会員有志からご協賛頂きました。

※令和7年度第34回全国女性建築士連絡協議会開催にご協力・ご協賛いただき感謝申し上げます。

TEC工法を応用した軽量一体化天井 [耐震] 格子固定天井



水平震度
2.2G

水平許容耐力
7,000N

特 徴

- 軽量材で隙間なし
- 天井内の点検通路として活用可能
- 特定天井部分にも利用可能
- 既存の天井面を再現可能
- 建物の荷重負担が少ない

 常盤工業株式会社

HARVIA 世界シェア No.1 フィンランド式サウナ

ハルビアは1950年、サウナの本場フィンランドで創業。従業員600名以上、世界に8カ所の生産工場を擁し、サウナヒーターの販売シェアで世界No.1のブランドです。また、メーカー日本法人があるため、日本市場に合わせた製品をご提供できます。

洗練されたデザインと 機能性を兼ね備えた確かな品質

北欧デザインとサウナの本場の機能性。見た目だけではなく確かな品質で、長くお使いいただけます。また、サウナルームはヒーターからアクセサリまでオールインクルーシブ。設置が済んだその日からサウナを楽しめます。もちろん全機種ロウリュ対応です。



施設の条件やご予算に応じた柔軟なご提案が可能です。



現地踏査から設計・施工管理まで一貫して対応します。



地域特性に配慮した消防協議にも対応いたします。



お問い合わせ先

EARTH CREATE 株式会社

TEL : 022-224-9262 宮城県仙台市青葉区国分町 1-8-14 仙台協立第2ビル 3F

URL : <https://e-crt.co.jp/> 【担当者：土肥】



過去10年で「最難関」の試験でも

圧倒的な実績で当学院の優位性を証明しました!

1級建築士
合格実績

No.1

令和6年度 1級建築士 学科・設計製図試験

全国ストレート合格者占有率



全国ストレート合格者1,036名中 / 当学院当年度受講生666名

令和6年度 1級建築士 設計製図試験

全国合格者占有率



全国合格者3,010名中 / 当学院当年度受講生1,768名

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国ストレート合格者数・全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和6年度1級建築士学科試験に合格し、令和6年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。(令和7年1月15日現在)



総合資格学院

〒163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F TEL:03-3340-2810

開講講座

1級・2級 建築士/建築・土木・管工事施工管理技士/設備・構造設計1級建築士/建築設備士/宅建士/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

総合資格

検索

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

SNS X ⇒ @shikaku_sogo LINE ⇒ 総合資格学院 Instagram ⇒ sogoshikaku_official

法定講習

監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習



令和
8年度

1・2級建築士 受講生募集中

エントリー講座スタート 詳細はコチラ



あなたの夢を Build your Dreams 実現しよう

多方面から資格取得をサポートする、
日建学院の強み

合格実績

業界最高水準の合格実績
ゆるぎないデータが
裏付ける信頼

映像講義

場所を選ばず日建の高い
レベルの講義が
受けられます

個人分析

すべての受講生が
自身の実力を
明確にできます

日建学院

全国統一講義

転勤先、出張先などでも、
同じ講義の続きが
受講できます

適正価格

合格に必要な
全サポート講義は
追加受講料を無しで提供

名物講師

高い合格率と
高水準の講義を生み出す
名物講師が多数在籍

全国47都道府県114校展開

夢の架け橋

日建学院

Step into Your Power!

さあ、あなたの力を
発揮しよう

日建学院コールセンター 0120-243-229

株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1 受付/10:00~17:00(年末年始、土・日・祝日を除く)

“美しい”だけじゃない。

金属の素材を生かしたクールなデザイン。
軽量で地震に強く、高い断熱性能で室内を快適に。
洗練された上質な外観と高い機能性を両立する
外壁材がここにあります。

SP-ガルブライトⅡ
ネオホワイト



優れた断熱性



台風時も安全



地震時も安心

アイジー工業株式会社

仙台営業所 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 4-12-12 L.Biz 仙台 5F TEL:022-292-5405 FAX:022-292-5406

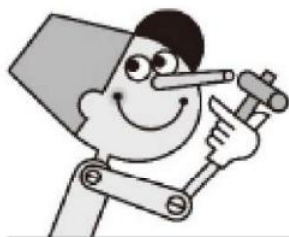
ジーンとする建築

感動する建築を
次世代につなぐ

秦・伊藤設計

100th anniversary





地元の『住』に貢献！ **ヤマケングループ**



株式会社 **ヤマケン**

山形市流通センター3丁目8番地の1
TEL(023)633-3000(代) FAX(023)633-3015

山建互業株式会社

山形市流通センター3丁目番地の1
TEL(023)633-3003(代) FAX(023)626-1330

山建設備株式会社

山形市流通センター3丁目番地の1
TEL(023)633-3001(代) FAX(023)625-0117

株式会社 **ヤマケンマシナリー**

山形市北山形2丁目1番7号
TEL(023)644-1236(代) FAX(023)644-9984

歓迎

第34回全国女性建築士連絡協議会
やまがた大会のご開催、
誠におめでとうございます。

日頃よりの温かなご支援に心より感謝申し上げます。
山形の地で皆さまをお迎えできましたことを
嬉しく思っております。

山形県立石寺



一般社団法人

山形県建築士会 会長 伊藤 彰

米沢支部 長井支部 山形支部 天童支部 西村山支部
村山支部 新庄支部 鶴岡田川支部 酒田支部

事務局 〒990-0825 山形市城北町1-12-26 TEL 023-643-4568 <https://www.yamagata-ken.org>



〒990-0821
山形市北町3丁目9-15
TEL: 023-664-0073



WOOD WORK STUDIO

Y.D.K



一級建築士事務所

有限
会社

石山設計事務所

ISHIYAMA. ARCHITECT & ASSOCIATES OFFICE

代表取締役 石山徳昭

～「夢」へのお手伝い・地域づくりに貢献する技術者集団～

〒990-0047
山形県山形市旅籠町3-1-4食糧会館5F
TEL: 023-615-6360/FAX: 023-615-6361



ICHIMURA

最高のものをつくろう

市村工務店



〒990-2482 山形市久保田 3-11-12
TEL 023-644-6878 FAX 023-643-8813



Total Construction For The Future.

笠原建設工業株式会社



代表取締役 笠原 俊一

鶴岡市日枝字鳥居上18番地

TEL:0235-22-0781 FAX:0235-24-2678



Pillar of Wisdom

～明日を支える叡智の柱～



株式会社 キャドウイング

一級建築士事務所

代表取締役 金内 勝彦

本社 〒998-0859 山形県酒田市大町10-71

TEL0234-26-3615 FAX0234-22-7406

庄内町営業所 〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字沢田108-1(新産業創造館内)

TEL0234-43-6633 FAX0234-43-8355

山形市南部児童遊戯施設



すべての子どもたちに開かれた遊び場

◆2023年日本建築学会賞（作品） ◆第34回 村野藤吾賞

Shelter® 株式会社シェルター

本社 / 山形市松栄1-5-13 tel. 023-647-5000

東京支社 / 港区芝5-36-7 9F tel. 03-5418-8800

www.shelter.inc



設計・監理：大西麻貴＋百田有希 / o+h
施工：高木・シェルター特定JV
PFI事業者：夢の公園（代表企業：シェルター）

こまっただにまっただする!



SHO SEKKEI

株式会社 庄・設計

遮熱で職場環境の「暑い」「寒い」を改善
工場・倉庫のエネルギー最大63%削減!

リフレクティックス Reflectix

株式会社 庄・設計

代表取締役 五十嵐 直哉

(本 社) 山形県上市市金生西一丁目1-8

TEL 023-672-5529 FAX 023-673-6556

(仙台営業所) 宮城県仙台市泉区紫山3-4-11

TEL 022-765-3939 FAX 022-765-5353



www.sho-sekkei.com

✉ reflectix@sho-sekkei.com

Follow us

hughouse山形

株式会社 新庄・鈴木・柴田組
〒996-0091 山形県新庄市十日町2760-9
Tel.0120-853-651

Enjoy!
your life

hug
house

SHINDO
ARCHITECTS &
CONSULTANTS

株式会社 進藤建築設計事務所

代表取締役 進藤芳明

山形県酒田市浜田二丁目12-12 〒998-0031

tel.0234-22-1323 fax.0234-22-1343

<http://www.shindosekkei.co.jp>

— 堅実な施工で地域社会に奉仕する —



太平電気株式会社

代表取締役社長 佐々木 勝彦

本社／〒984-0002 仙台市若林区卸町東一丁目4番23号

TEL 022-290-5491 FAX 022-239-1165

支社所在地／仙台市・青森市・盛岡市・郡山市・東京都

URL／<http://www.taiheidenki.co.jp/>



自らの可能性と地域の可能性を信じ結びつけていく

TAKAMOKU

総合建設業 株式会社 高木
代表取締役社長 高橋 恒之



本社／寒河江市大字島字島東87 TEL0237-86-2165
www.takamoku.co.jp

美しいふるさとを創る



千歳建設

山形市富神台 15 ☎(023) 647-1511

祝 第34回全国女性建築士 連絡協議会（やまがた大会）

作業スタッフ
監督スタッフ
運転手

募集中



人とつながり 次代へつなげる
人と自然の豊かな調和をめざす
総合建設業



東海林建設株式会社



電気の子カラで 明るい未来を届けます

電気設備工事設計・施工、空調・衛生・給排水



東北電化工業株式会社

本社／山形市青田三丁目9番18号
TEL 023(623)0611



山形県企業局の水力発電所由来100%のでんき

水ノチカラ

やまがたeでんき

山形を育む
チカラと
次の世代へ。

詳細は
こちらから！



“まごころ”こめて明日を創る ー安全・安心な地域づくりー



那須建設株式会社

代表取締役会長

那 須 正

代表取締役社長

那 須 暢 史

■本社 / 〒993-0002 山形県長井市屋城町7番1号

☎ (0238)84-1123

FAX (0238)84-6296

■支店 山形支店/仙台支店/新潟支店/福島支店/秋田支店/北陸支店/東京支店/熊本支店



一級建築士事務所 / 測量調査設計事務所
ブレinstaff株式会社
BRAIN STAFF CO.,LTD.

山形県鶴岡市桜新町 8-33 Tel.0235-24-5510

「これが欲しかったんだ」をあなたに



STAND BY HOME

EST.2016



Matsuda

Ⓢ 株式会社 松田組

山形県南陽市三間通 1248 番地

Tel 0238-43-5311 Fax 0238-40-3355

水と空気の調和



株式
会社

山形企業

冷暖房空気調和設備 温湿度調整装置 上・下水道設備 給・排水衛生設備
一般土木工事 建築附帯設備 水処理施設 汚水処理施設 排水ポンプ設備 設計・施工

代表取締役 鹿野 淳一

本社 〒990-0021 山形県山形市小白川町三丁目5番6号 TEL 023-641-6959 FAX 023-641-6960 www.y-kigyo.co.jp

一般社団法人
山形県
建築
協会

世界に冠たる日本建築の復興—
それが私たちの使命です。



全国女性建築士連絡協議会
(やまがた大会) 開催

会 長 市村 清勝

副会長 千歳 毅・小野 和行・高橋 恒之

事務所／〒990-0825 山形市城北町 1-12-26 山形建築会館
TEL.(023)647-6131 FAX.(023)643-4562



山形県鉄構工業組合

理 事 長 村 山 功

副理事長 板 垣 昌 之

副理事長 布 施 健

〒990-2482 山形市久保田一丁目7番1号 山形酸素(株)内
TEL(023)643-6634・FAX(023)643-8460

祝

第 34 回 全国女性建築士連絡協議会やまがた大会

木の良さはさわって使って住んでみて

山形県木材産業協同組合

理事長 安部 雄 祐

〒990-2473 山形市松栄一丁目 5 番 41 号

TEL : 023-666-4800 FAX : 023-646-8699



設計・監理
株式会社 山本建築設計事務所

コインランドリー マール

代表取締役所長 山本 修 司

山形市諏訪町2-2-6 Tel.023-624-2133 <https://www.yamamotosekkei.jp/>

令和 7 年度第 34 回全国女性建築士連絡協議会（山形）ご参加のみなさま

ようこそ 山形へお越しくださいました！



山形城跡「霞城公園」



山形牛



板そば



地酒 地ワイン

ウマイバヤマガタは、滞在中に山形を満喫していただくための情報サイトです。
飲食店、観光・レジャー施設、お土産品、宿泊施設、交通機関をご紹介します



ウマイバヤマガタ
Web 版



山形でのコンベンション開催は おまかせください。
一般財団法人 山形コンベンションビューロー

TEL:023-635-3000 e-mail: sales@convention.or.jp

West Side Place, Melbourne, Australia
Cottlee Parker Architects, cottleeparker.com.au
© Far East Consortium

ビジネスを加速する、 スマートデザイン

**10,000件以上の
導入実績**
※2025年1月当社 カスタマー管理システムデータ
(Navision) 実績より

**BIMソフト
国内シェア No.1**
BIM導入事業所の約43%が選択
※一般社団法人日本建築士事務所協会連合会
「BIMと情報環境ワーキンググループ調べ(2019年)」

**GRAPHISOFT
Archicad®**

素晴らしい建築を創造するチームに力を与える —。

直感的なBIMソフトウェアであるArchicadは強力なツールと使いやすいインターフェイスで、あらゆる規模のプロジェクトを効率的にサポートします。柔軟性の高いデザインツールはシームレスなチームでの共同作業や図面作成の自動化、写真品質のレンダリングエンジンなどを提供し、設計者を強力に支援します。

Graphisoftは、豊富なソフトウェア、教育、サポート、コミュニティまでを揃え、建築/建設を総合的に支援するBIMソリューションプロバイダーとして、素晴らしい建築を創造するチームの力となるよう日々尽力しています。

Copyright © 2025 Graphisoft. All rights reserved.

BIMを始めるならサブスクリプションが\\お得!!

**Archicad Collaborateで
はじめよう!**

「Archicad Collaborate」とは、サブスクリプションをお申し込みいただく、契約期間中はBIMcloudとBIMxも無料で使えるサービスです。お得な年間プランに加え、毎月更新できる月額制プランをご用意しております。

詳細はこちら

Graphisoftは、豊富なソフトウェア、教育、サポート、コミュニティまでを揃え、建築/建設を総合的に支援するBIMソリューションプロバイダーです。
グラフィソフトジャパン株式会社 inquiry@customer.graphisoft.co.jp アーキヤード 検索

CAD・BIM

をやるなら を始めるなら
すべてのデザインフェーズで驚きのクオリティ

**VECTORWORKS. 2025
好評発売中**

スタンドアロン版
希望小売価格: 393,800円 ~ 676,500円 (税込)

ベクターワークスジャパン株式会社 <https://www.vectorworks.co.jp>

VECTORWORKS®

協賛団体・企業

10

主催

公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会（令和6-7年度）

上原 伸一 副会長	・ 神奈川県建築士会（女性委員会担当）
石貫 方子 委員長	・ 大阪府建築士会
筒井 裕子 副委員長	・ 愛知建築士会
小林 淑子 副委員長	・ 宮城県建築士会
齊藤 裕美 副委員長	・ 北海道建築士会
吉田 幸恵 委員	・ 北海道建築士会（北海道ブロック）
大泉 みどり 委員	・ 山形県建築士会（東北ブロック）
萩原 香 委員	・ 群馬建築士会（関東甲信越ブロック）
長瀬 八州余 委員	・ 岐阜県建築士会（東海北陸ブロック）
畠中 みか 委員	・ 和歌山県建築士会（近畿ブロック）
渡辺 睦 委員	・ 岡山県建築士会（中国四国ブロック）
松田 まり子 委員	・ 沖縄県建築士会（九州ブロック）

主管

一般社団法人 山形県建築士会

女性委員会 青年委員会 会員有志

サポートスタッフ

建築士会東北ブロック会 女性委員会 青年委員会

配信サポート

東 英輝	・ 岩手県建築士会
草薙 渉	・ 秋田県建築士会
戸倉 誠	・ 福島県建築士会
村越 のぞみ	・ 福島県建築士会

令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会（やまがた）要旨集

「山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦」

～雪・山・川がおりなす食文化と共に～

2025年7月発行

編集 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

発行 公益社団法人 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階

Tel 03-3456-2061

無断転載、複製を禁じます。

©2025 Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations

魅力ある和の空間ガイドブックWEB版 ご案内

人々のライフスタイルが変化する中で、地域の環境に適した伝統的な住まいに暮らす人々が減り続けています。なかでも日本の住まいの中で培われた和室や縁側といった和の空間がなくなりつつあることが危惧されています。このような状況をふまえ、女性委員会では2016年より「和の空間」をテーマに活動してきました。そして、「和の空間を体験して、その魅力を再認識できるような建築を紹介するガイドブック」を制作しました。

このガイドブックは、全国各地で公開されている和の空間の事例の中から、「魅力的なもの、これからの居住環境への示唆に富んでいるもの」を、都道府県ごとに数点ずつ選んで紹介しています。和の空間をあらためて捉え直し、今後の設計活動、居住環境づくりに活かしていくこと、多くの方々に全国各地に現存する貴重な建築の魅力を広めることを目的としています。ぜひご活用ください。

おすすめの和の空間を紹介
全国各都道府県の女性建築士が解説します

料亭 四山楼

山形県山形市



見どころ

【開放的な大広間のある主屋】
1911(明治44)年建築、木造2階建て寄棟造り。和風建築だが1階中央に洋風の部屋があり、その両側に客室が並ぶ。洋室は明治期に洋食を提供する場として使われていた。

2階は大広間で、北端に大振りの床の間、南端に舞台が配されている。東側一面の開放的なガラス戸からは庭が一望でき、晴れた日には庭木や近隣のビルの間から奥羽山脈の山々を眺めることができる。



【重厚な蔵座敷】
1891(明治24)年建築、土蔵造り2階建て切妻造り。1階に座敷20畳と前室8畳が並ぶ。座敷は北向きで南面に銘木を用いた床、床脇、押入を配する。天井は格天井を張り、蔵側は黒漆喰塗りの掛け子通り土戸で重厚に見えている。前室北面の杉戸には秋草が描かれている。銘木を用いた窓を基としたつくりは、山形県内の豪商や地主層の座敷に見られる蔵座敷の典型と言われている。



【格調高い会食の場】
地元の食材を用いた旬の日本料理を味わえる格調高い会食の場として、法事や会合、結婚式などに利用されている。また料亭の他に長唄や小唄、お謡などの古典芸能、踊り初めや浴衣ざらい、初釜などお稽古事の発表の場としても使われており、伝統文化を伝える貴重な役割を担っている。



建物名称 料亭 四山楼
建築年 1891年(明治24年)
構造・様式 主屋：木造二階建て 寄棟造
蔵座敷：土蔵造二階建て 切妻造
所在地 山形市七日町2-6-4
電 話 023-622-0043
H P https://www.shisanryo.jp
開館時間 12:00~22:00 不定休
アクセス JR山形駅から徒歩21分 タクシー8分
備 考 登録有形文化財(建造物)見学のみは不可





2025年7月発行

編集 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員会

発行者 **公益社団法人 日本建築士会連合会**

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階

Tel 03-3456-2061